

検討を進めるための参考資料



令和5年7月10日

京丹後市の教育及び産業等の現状について



令和5年3月30日
京丹後市教育委員会事務局・市長公室

1 京丹後市の状況 -市の概況-

○ 平成16年市制施行、人口約5万1千人。京都府及び近畿最北端に位置し、東西約35km、南北約30kmの広がりを持つ。

◆市制施行 平成16年4月
(旧峰山町、大宮町、網野町、丹後町、弥栄町、久美浜町が合併)

◆面積 501.44平方キロメートル

◆人口 50,860人(2020年国勢調査)

◆産業別就業者数(2015年国勢調査)

第1次産業: 2,317人

第2次産業: 8,331人

第3次産業: 16,365人

※分類不能: 1,444人

◆主要産業

- ・繊維・衣服製造業金属製品
- ・一般機械・輸送機械製造業
- ・農林水産業
- ・観光業



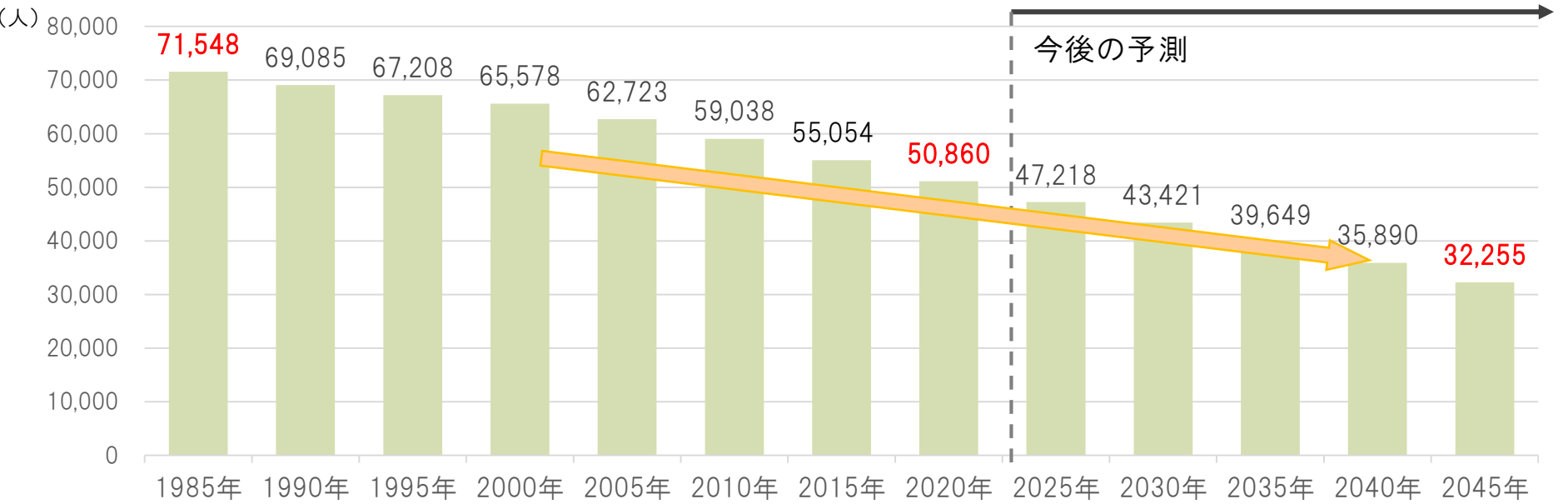
1 京丹後市の状況 -学校等の位置-

○ 中学校は旧町に1校(計6校)ずつあり、高校は学舎制をとっており、3校・4学舎となっている。



1 京丹後市の状況 -人口の推移・推計-

- 戦後1950年(S25年)の83,000人をピークに人口減少が続いている。
- 15歳から64歳の生産年齢人口の割合が減少する一方で、65歳以上の割合が増加を続け、高齢化率は2045年(R27年)で49.6%の予測となっており、2人に1人が高齢者、さらに3人に1人が75歳以上の後期高齢者になるという推計。



年齢別割合	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0歳～14歳	21.7	19	17.5	16.2	15.1	13.6	12.2	11.2	10.3	9.7	9.3	9.1	8.9
15歳～64歳	61.9	62.1	60.3	58.5	56.9	55.4	52.5	50.7	49.2	47.4	45.7	42.8	41.5
65歳以上 ※高齢化率	16.4	18.9	22.2	25.3	28	30.9	35.3	38.1	40.5	42.9	45.0	48.1	49.6

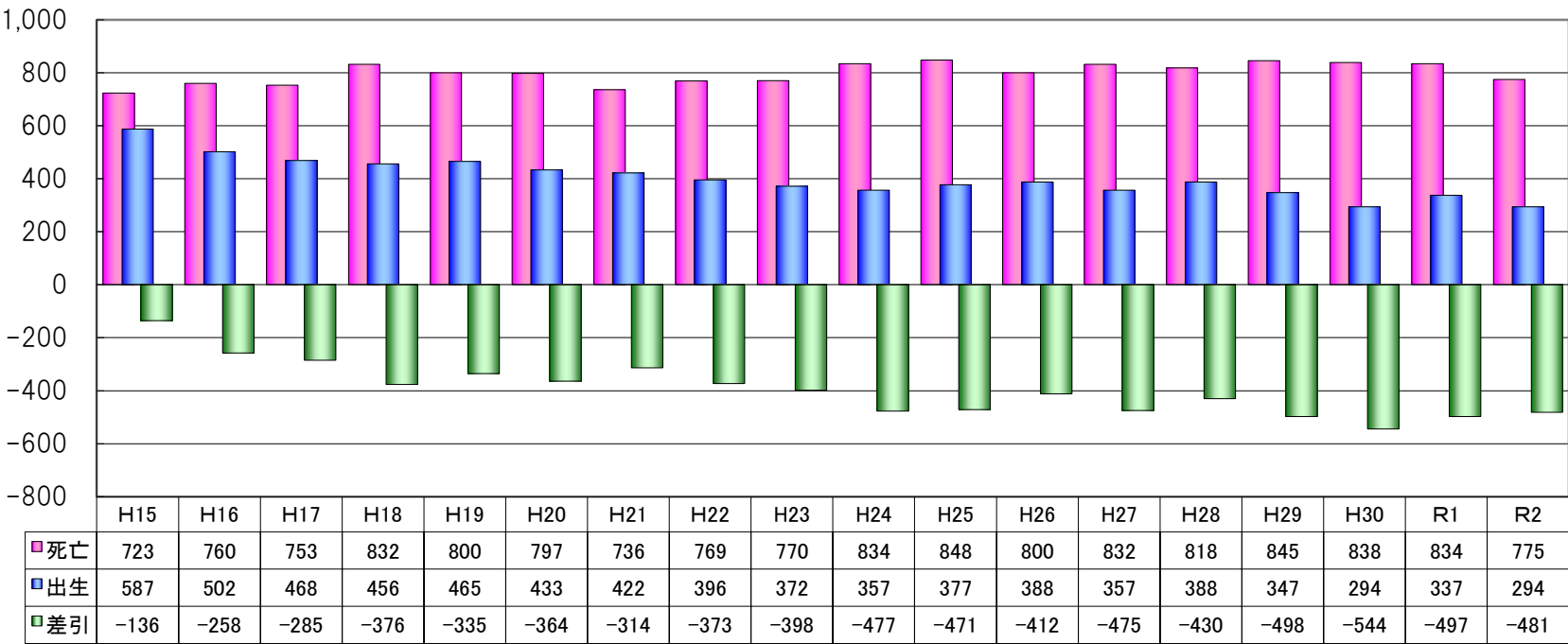
出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所将来推計

1 京丹後市の状況 -人口の推移・推計-

- 出生と死亡に伴う人口の動きとなる自然動態は、死亡者数が概ね700人後半から800人程度のほぼ横ばいで推移。
- 出生数が減少傾向にあるため、自然減が拡大している状況。

出生・死亡者数の推移

単位：人



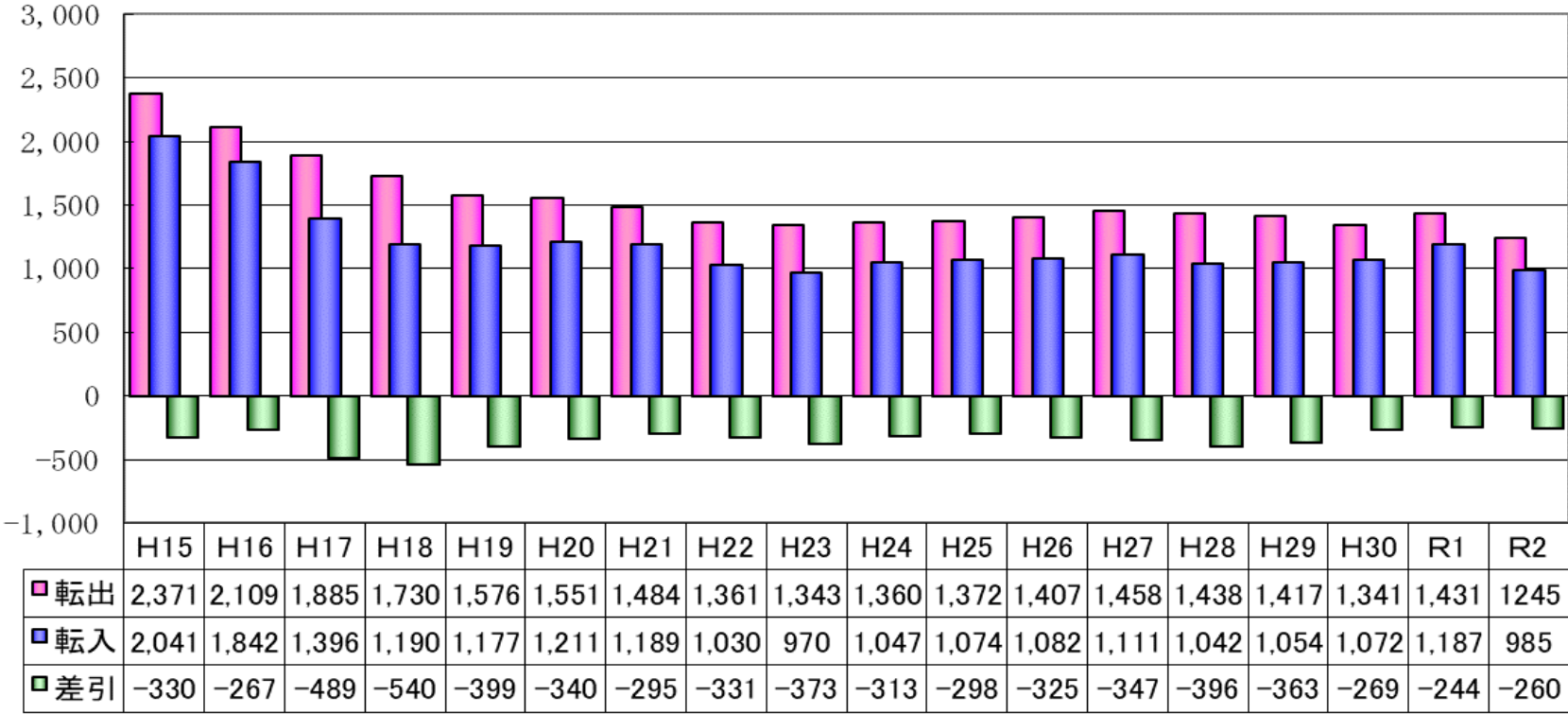
出典：京都府統計書・京都府推計実行調査より

1 京丹後市の状況 -人口の推移・推計-

- 転入と転出の関係となる社会動態については、各年で概ねマイナス300人から400人の間で推移。
- 2018年(H30年)はマイナス269人、2019年(R1年)はマイナス244人、2020年(R2年)はマイナス260人と、減少幅は改善している状況。

転出・転入者数の推移(京都府統計書・京都府推計人口調査より)

単位：人

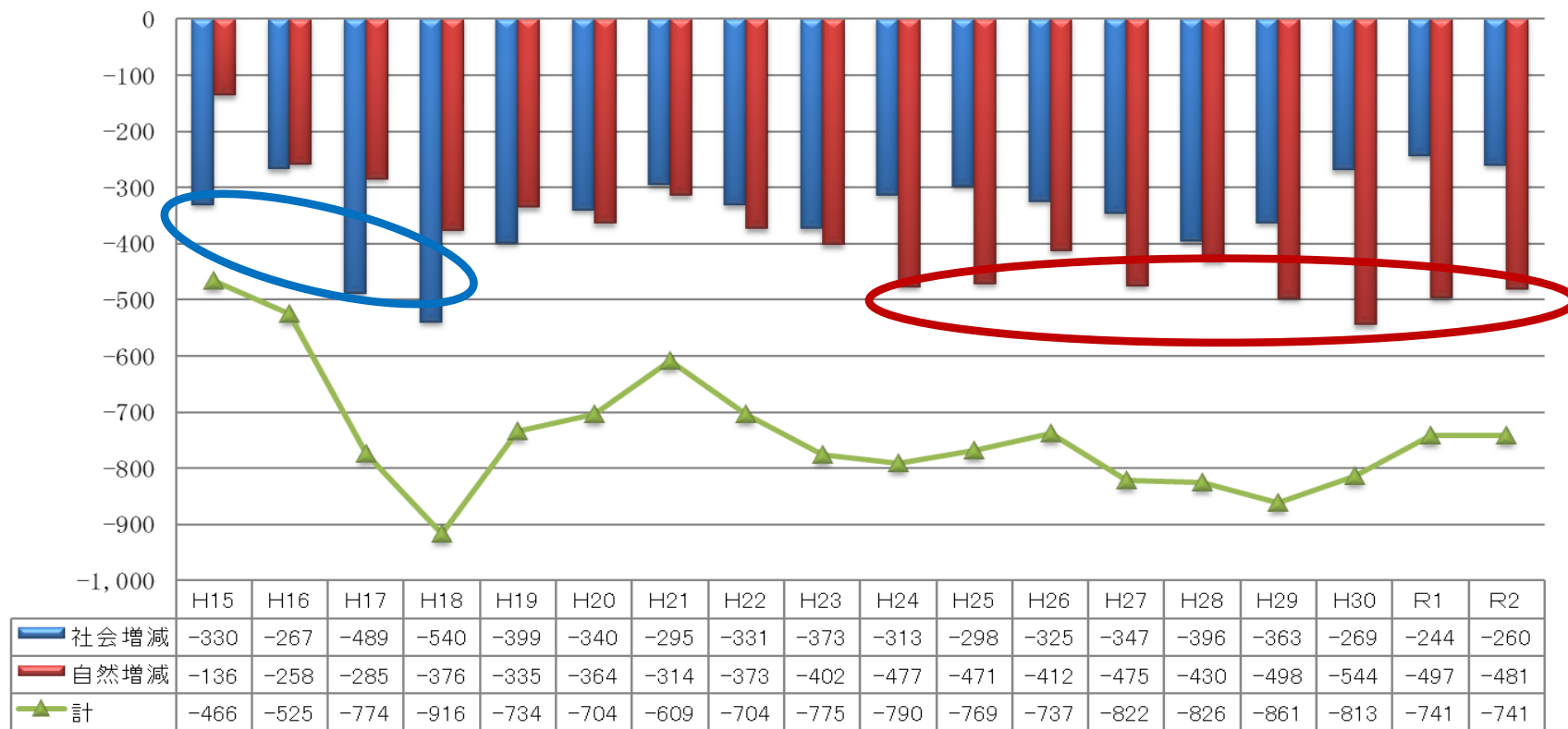


出典：京都府統計書・京都府推計実行調査より

1 京丹後市の状況 -人口の推移・推計-

- 自然動態と社会動態を比較すると、2007年(H19年)までは社会減が自然減を上回っている状況であったが、2008年(H20年)以降は社会減より自然減が上回る状況が続いており、2012年(H24年)以降はその差が大きくなっている状況。

社会増減と自然増減の推移(京都府統計書・京都府推計人口調査より)



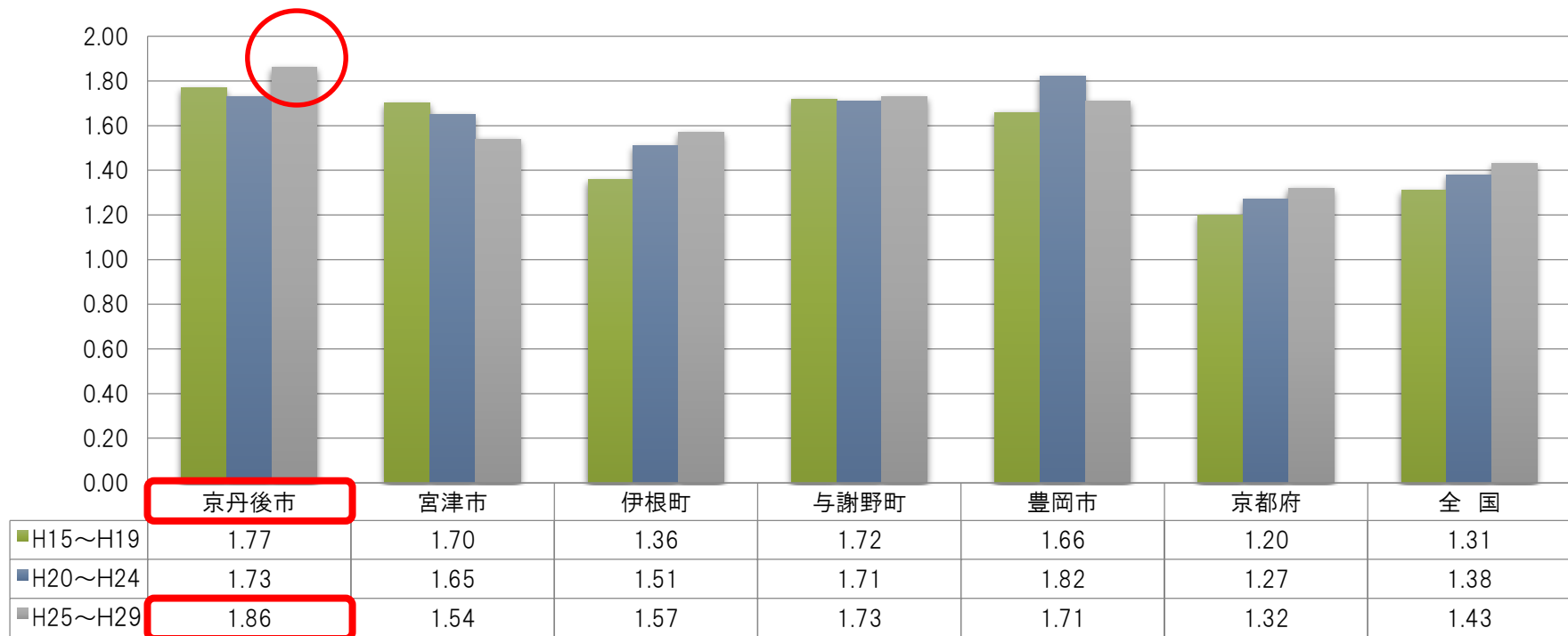
出典：京都府統計書・京都府推計実行調査より



1 京丹後市の状況 -人口の推移・推計-

- 合計特殊出生率は、直近の数字が1.86となっており、前回調査の1.73から改善している。これは、近隣市町と比較しても高い状況となっている。

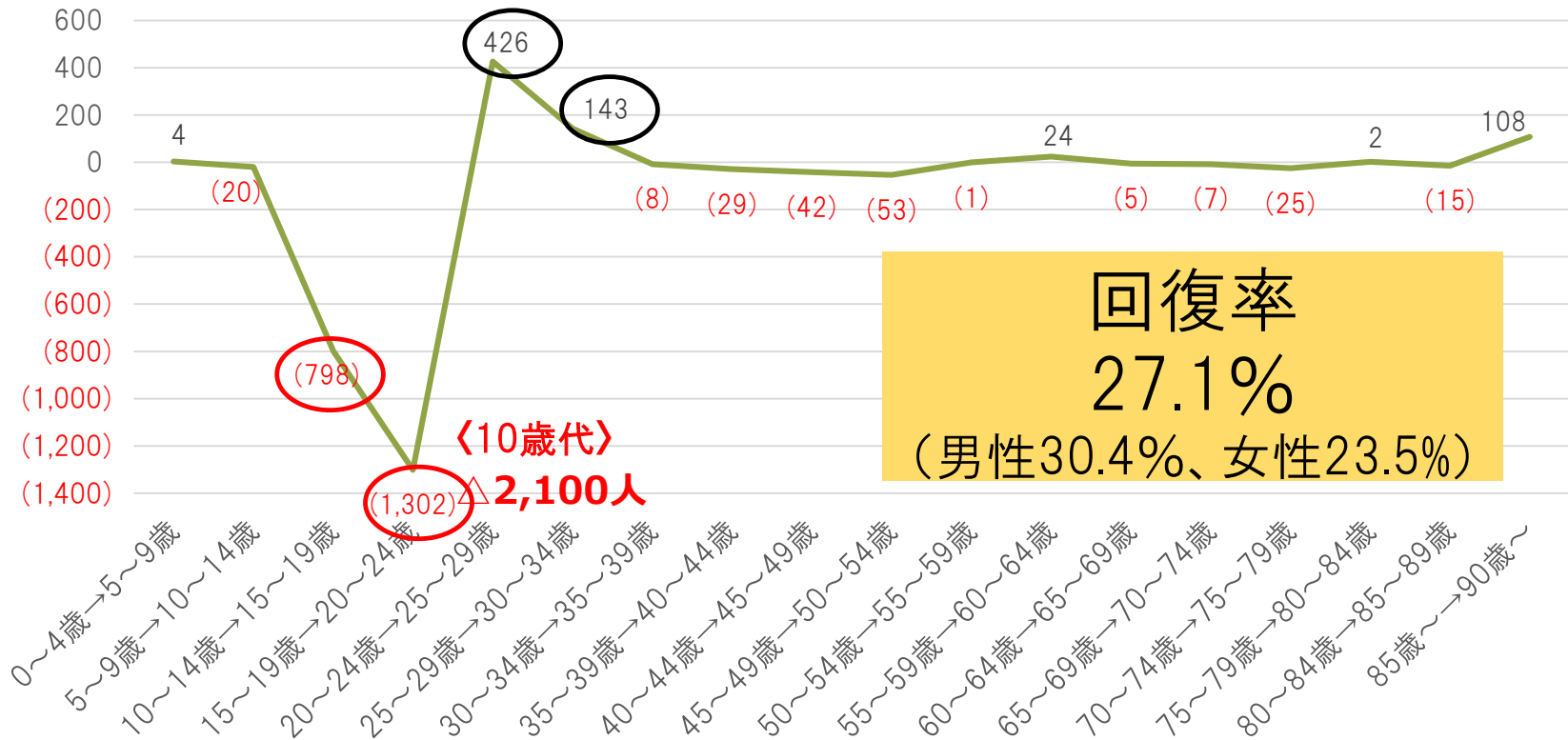
合計特殊出生率(ベイズ推定値)



1 京丹後市の状況 -人口の推移・推計-

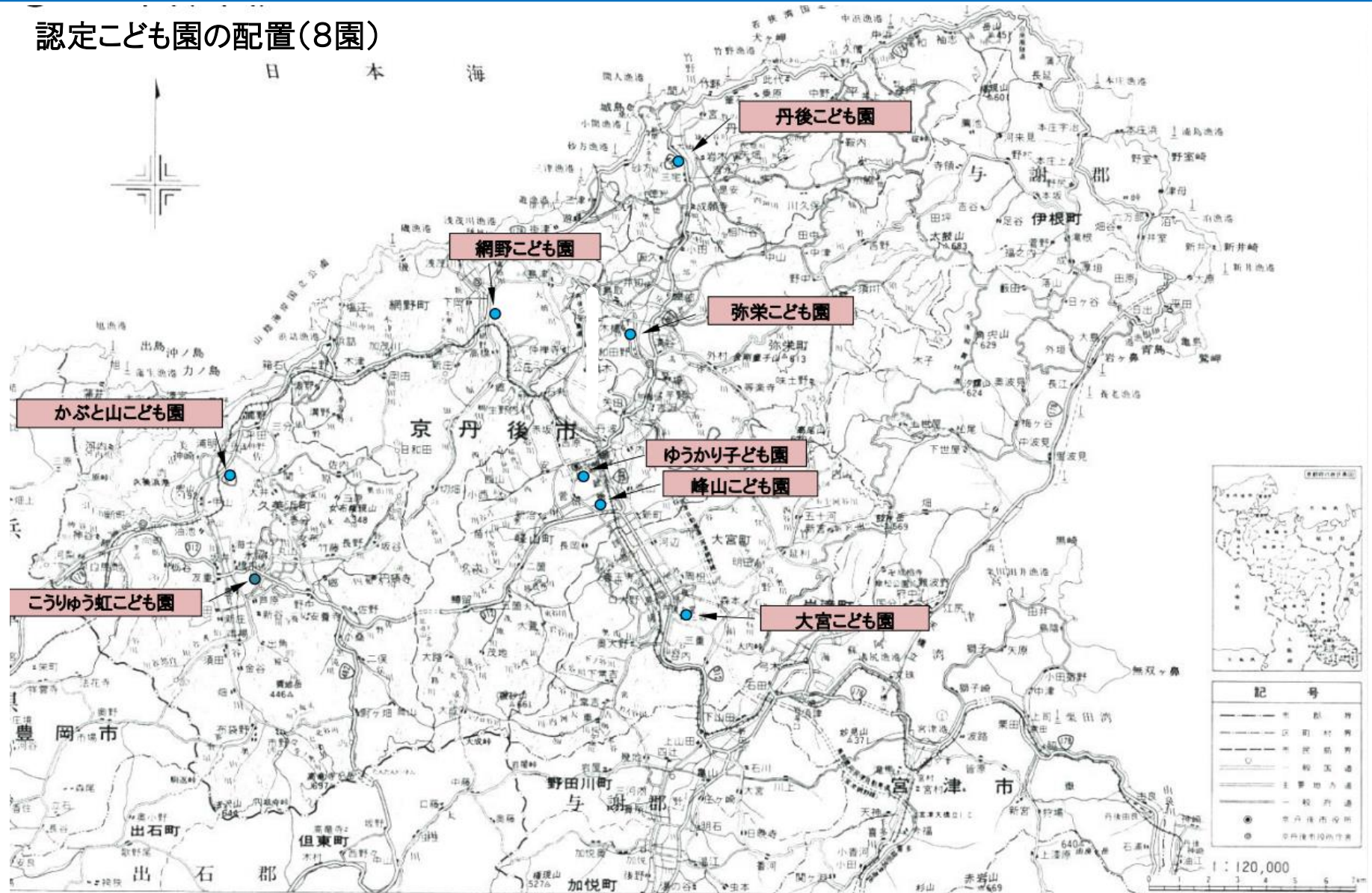
- 高校卒業後の進学や就職を契機として9割以上が転出し、10歳代での転出超過数が2,100人となっている。
- これ対し、20歳代での転入超過数が569人であり、若者回復率は27.1%となっている状況である。

若者回復率(2010年→2015年、20歳代転入超過数の10歳代転出超過数に対する割合)



2 学校及び子どもの状況 -学校等の配置状況-

認定こども園の配置(8園)



2 学校及び子どもの状況 -学校等の配置状況-

令和4年度認定こども園児童数等一覧

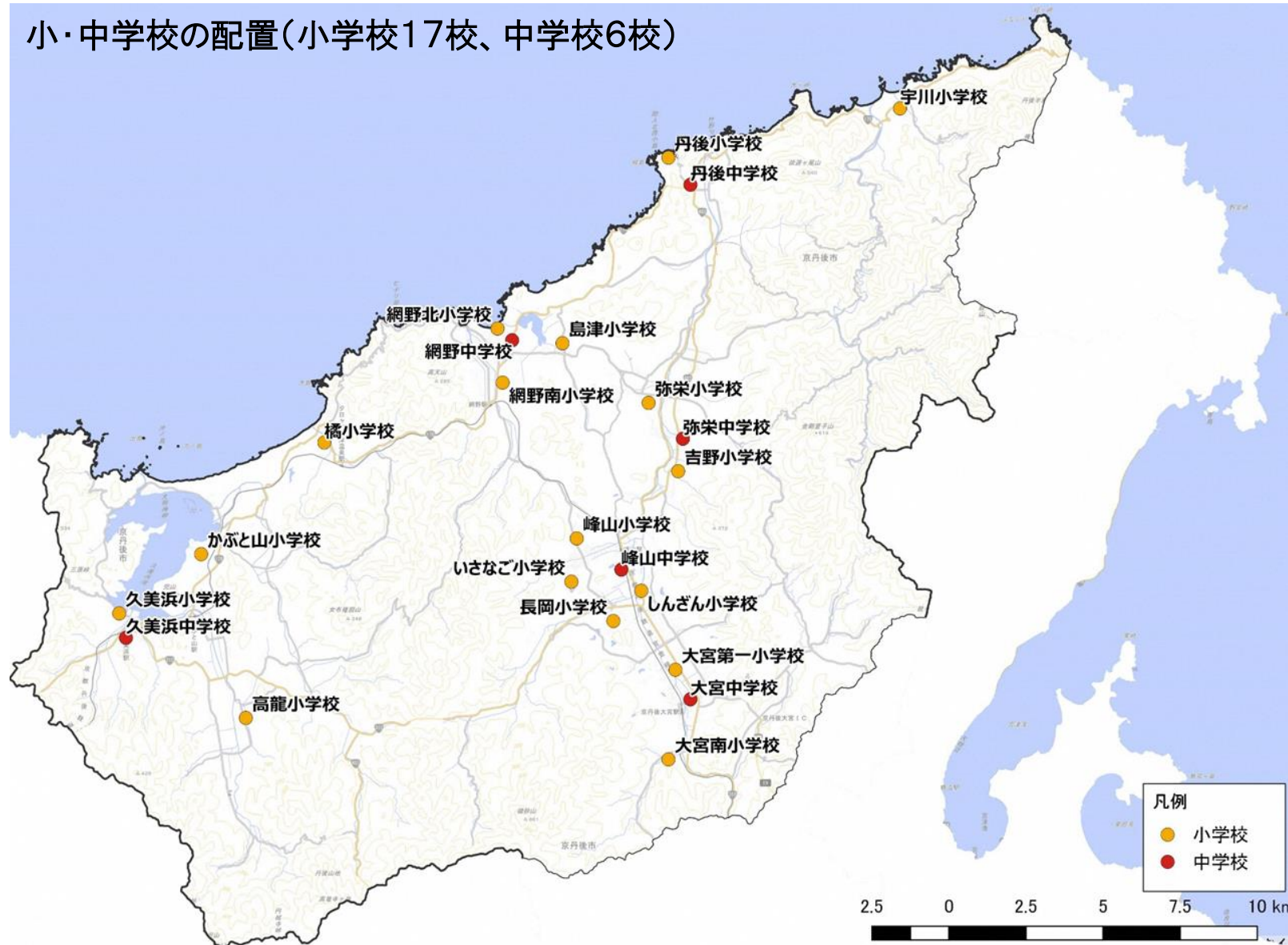
区分	施設名		定員	受入年齢	入 園 人 数						
					児童数	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
公立	峰山こども園	1号	40	3歳以上児	22				7	9	6
		2・3号	260	6ヶ月以上児	222	19	32	41	37	49	44
	大宮こども園	1号	40	3歳以上児	16				3	7	6
		2・3号	240	6ヶ月以上児	139	11	24	23	27	26	28
	網野こども園	1号	20	3歳以上児	11				5	2	4
		2・3号	130	6ヶ月以上児	116	12	9	20	19	28	28
	丹後こども園	1号	20	3歳以上児	4				0	1	3
		2・3号	180	6ヶ月以上児	81	5	7	11	13	21	24
	弥栄こども園	1号	20	3歳以上児	6				1	4	1
		2・3号	140	6ヶ月以上児	138	10	16	24	31	28	29
	かぶと山こども園	1号	20	3歳以上児	10				6	0	4
		2・3号	140	6ヶ月以上児	96	7	11	18	17	23	20
	計					861	64	99	137	166	198
私立	ゆうかり子ども園	1号	12	3歳以上児	5				3	2	0
		2・3号	138	6ヶ月以上児	155	10	23	24	29	30	39
	こうりゅう虹こども園	1号	9	3歳以上児	12				4	5	3
		2・3号	120	6ヶ月以上児	106	9	12	20	22	22	21
	計					278	19	35	44	58	59
合 計					1,139	83	134	181	224	257	260

出典：市教育委員会事務局



2 学校及び子どもの状況 -学校等の配置状況-

小・中学校の配置(小学校17校、中学校6校)



2 学校及び子どもの状況 -学校等の配置状況-

- 小学校17校中、「標準規模」1校、「小規模」15校、「過小規模」1校。
- 中学校6校は、いずれも「標準規模」(12学級～18学級)に満たない状況。

令和4年度 児童生徒数&学級編成

児童生徒数の状況(特別支援学級含む)

学校名	人 数							学級
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	
峰山小学校	23	15	16	18	27	19	118	8
いさなご小学校	52	38	36	31	28	21	206	10
しんざん小学校	35	34	34	30	35	32	200	9
長岡小学校	9	10	11	9	10	9	58	6
大宮第一小学校	77	83	67	70	60	69	426	18
大宮南小学校	12	11	15	16	18	13	85	7
網野北小学校	27	27	28	29	32	36	179	9
網野南小学校	18	24	29	26	26	26	149	8
島津小学校	9	9	10	9	10	10	57	8
橘小学校	14	17	15	12	17	16	91	8
丹後小学校	19	26	23	18	14	23	123	8
宇川小学校	5	8	4	11	6	8	42	6
吉野小学校	7	6	9	15	12	9	58	7
弥栄小学校	25	27	21	25	18	26	142	7
久美浜小学校	16	19	22	16	25	12	110	8
高龍小学校	35	18	31	26	28	18	156	8
かぶと山小学校	17	24	14	36	22	25	138	9
合計	400	396	385	397	388	372	2,338	144

特別支援学級の状況

人 数								学級
1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計		
1	1	0	2	3	1	8		2
1	0	1	0	1	0	3		2
1	0	4	1	0	1	7		3
0	0	0	0	0	0	0		0
1	2	4	2	4	0	13		3
1	1	0	0	0	1	3		1
1	0	2	4	3	4	14		3
4	0	1	2	2	0	9		2
1	0	1	1	0	0	3		2
0	1	1	0	1	0	3		2
1	0	3	0	1	0	5		2
0	0	0	1	0	1	2		1
0	0	0	1	0	0	1		1
0	0	1	0	0	2	3		1
2	1	3	2	2	0	10		2
1	0	1	1	1	1	5		2
0	0	2	1	2	0	5		2
15	6	24	18	20	11	94		31

普通学級の状況(実学級数)

1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計	
人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級
22	1	14	1	16	1	16	1	24	1	18	1	110	6
51	2	38	2	35	1	31	1	27	1	21	1	203	8
34	1	34	1	30	1	29	1	35	1	31	1	193	6
9	1	10	1	11	1	9	1	10	1	9	1	58	6
76	3	81	3	63	2	68	2	56	2	69	3	413	15
11	1	10	1	15	1	16	1	18	1	12	1	82	6
26	1	27	1	26	1	25	1	29	1	32	1	165	6
14	1	24	1	28	1	24	1	24	1	26	1	140	6
8	1	9	1	9	1	8	1	10	1	10	1	54	6
14	1	16	1	14	1	12	1	16	1	16	1	88	6
18	1	26	1	20	1	18	1	13	1	23	1	118	6
5	1	8	0	4	1	10	1	6	1	7	1	40	5
7	1	6	1	9	1	14	1	12	1	9	1	57	6
25	1	27	1	20	1	25	1	18	1	24	1	139	6
14	1	18	1	19	1	14	1	23	1	12	1	100	6
34	1	18	1	30	1	25	1	27	1	17	1	151	6
17	1	24	1	12	1	35	2	20	1	25	1	133	7
385	20	390	19	361	18	379	19	368	18	361	19	2,244	113

令和4年5月1日現在

学校名	人 数				学級
	1年	2年	3年	合計	
峰山中学校	94	108	108	310	14
大宮中学校	87	90	84	261	11
網野中学校	74	101	93	268	11
丹後中学校	48	38	41	127	7
弥栄中学校	35	32	43	110	5
久美浜中学校	71	71	67	209	8
合計	409	440	436	1,285	56

人 数				学級
1年	2年	3年	人数	
4	8	8	20	4
1	3	1	5	2
3	8	3	14	3
2	0	1	3	1
0	1	1	2	1
2	4	3	9	2
12	24	17	53	13

1年		2年		3年		合計	
人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級
90	3	100	4	100	3	290	10
86	3	87	3	83	3	256	9
71	2	93	3	90	3	254	8
46	2	38	2	40	2	124	6
35	1	31	1	42	2	108	4
69	2	67	2	64	2	200	6
397	13	416	15	419	15	1,232	43

出典：市教育委員会事務局



2 学校及び子どもの状況 -学校等の配置状況-

○ 府立高等学校は、丹後管内に5校・7学舎、京丹後市内に3校・4学舎が配置されている。

丹後管内府立高等学校一覧

令和4年5月1日現在

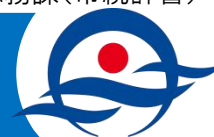
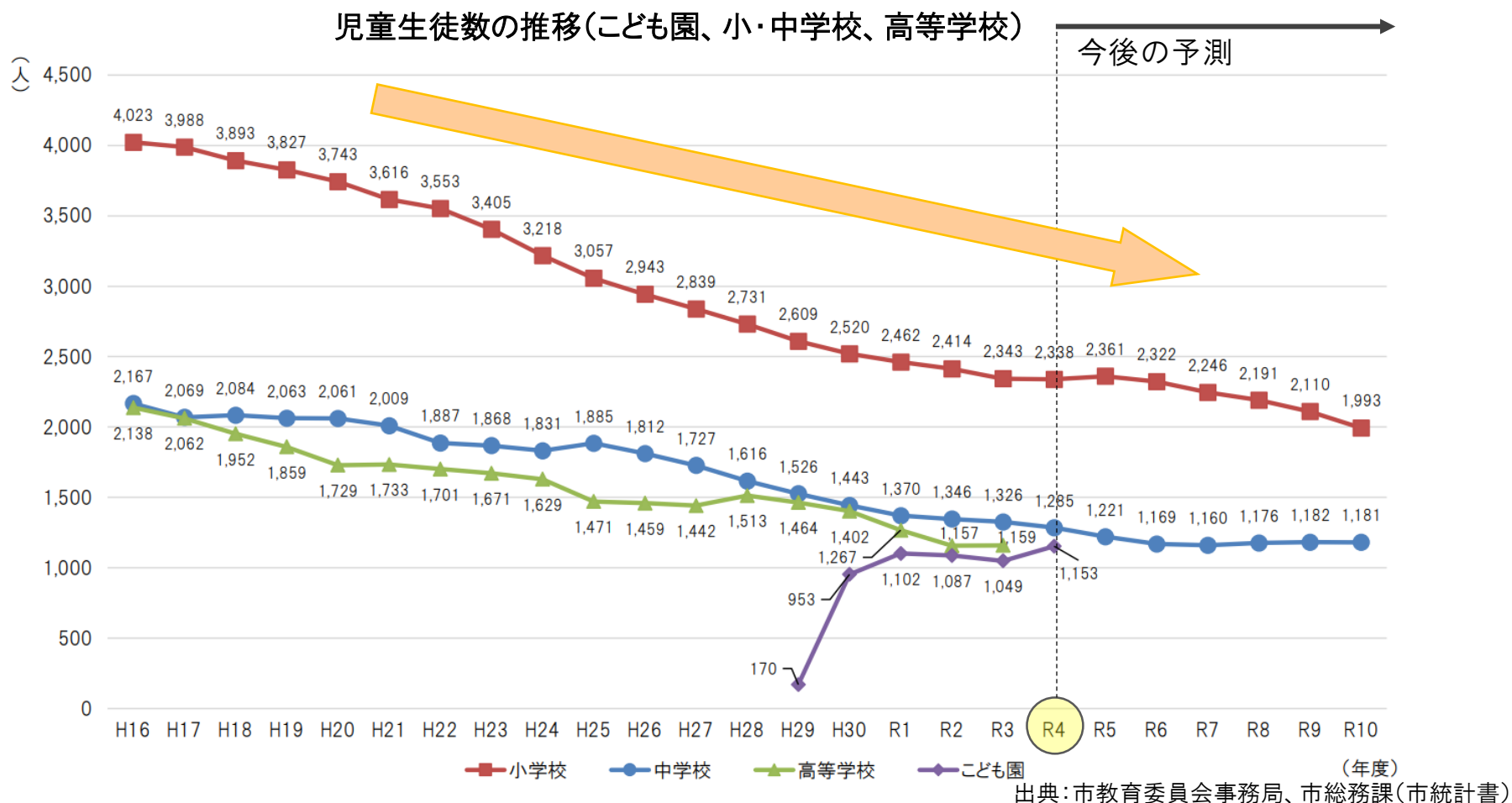
学校名	所在市町村	課程	学科	生徒数
海洋高等学校	宮津市	全日制	1年生…海洋学科群 2・3年生…海洋科学科、海洋工学科、海洋資源科	252
宮津天橋高等学校宮津学舎	宮津市	全日制	普通科 建築科(学コース、匠コース)	444
宮津天橋高等学校加悦谷学舎	与謝野町	全日制	普通科(1年次:習熟度別クラス編成、2～3年次:アドバンスコース、スタンダードコース、アスリートスポーツコース)	225
峰山高等学校	京丹後市	全日制	普通科(文理探究(文系)、文理探究(理系)) 機械創造科	556
丹後緑風高等学校網野学舎	京丹後市	全日制	普通科(総合コース、探究コース) 企画経営科	282
丹後緑風高等学校久美浜学舎	京丹後市	全日制	アグリサイエンス科(農業系:生産コース・食品コース) みらいクリエイト科(普通科系)	87
清新高等学校	京丹後市	定時制	総合学科(文化教養系列、自然共生系列、ライフデザイン系列(食分野/ファッション分野))	177

出典:2022京都府立高等学校スクールガイドより



2 学校及び子どもの状況 -児童生徒数推移・推計-

- 少子化の影響等により、小、中、高とも減少傾向にある。
- こども園(3歳以上児)は、保育ニーズの高まりにより横ばい～増加傾向にある。

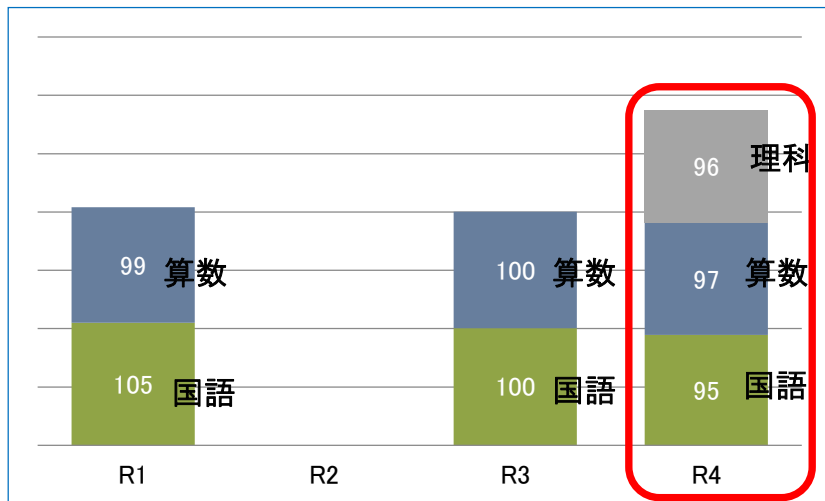


2 学校及び子どもの状況 -学力等の状況-

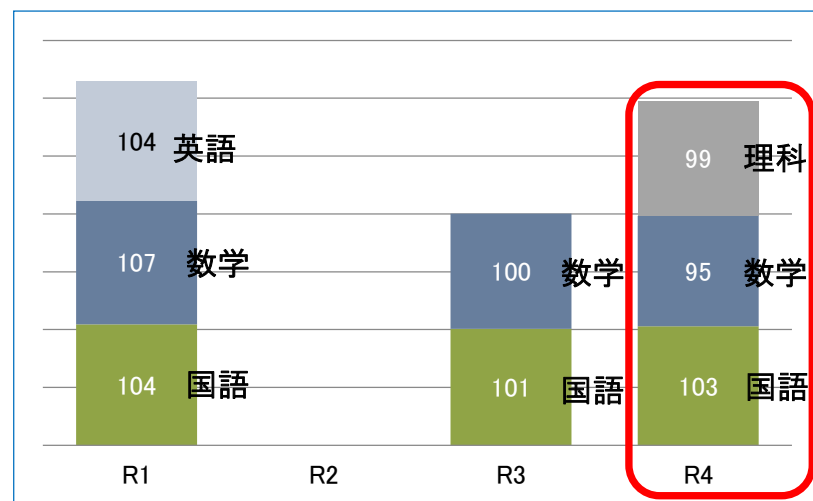
○ 各科目別の学力について、令和4年度は、中学校国語以外のすべての教科で全国平均正答率を下回る結果となった。

一貫性・系統性のある指導による確かな学力の定着
(全国の平均正答率を100として標準化した数値)

■ 小学6年生



■ 中学3年生



出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より

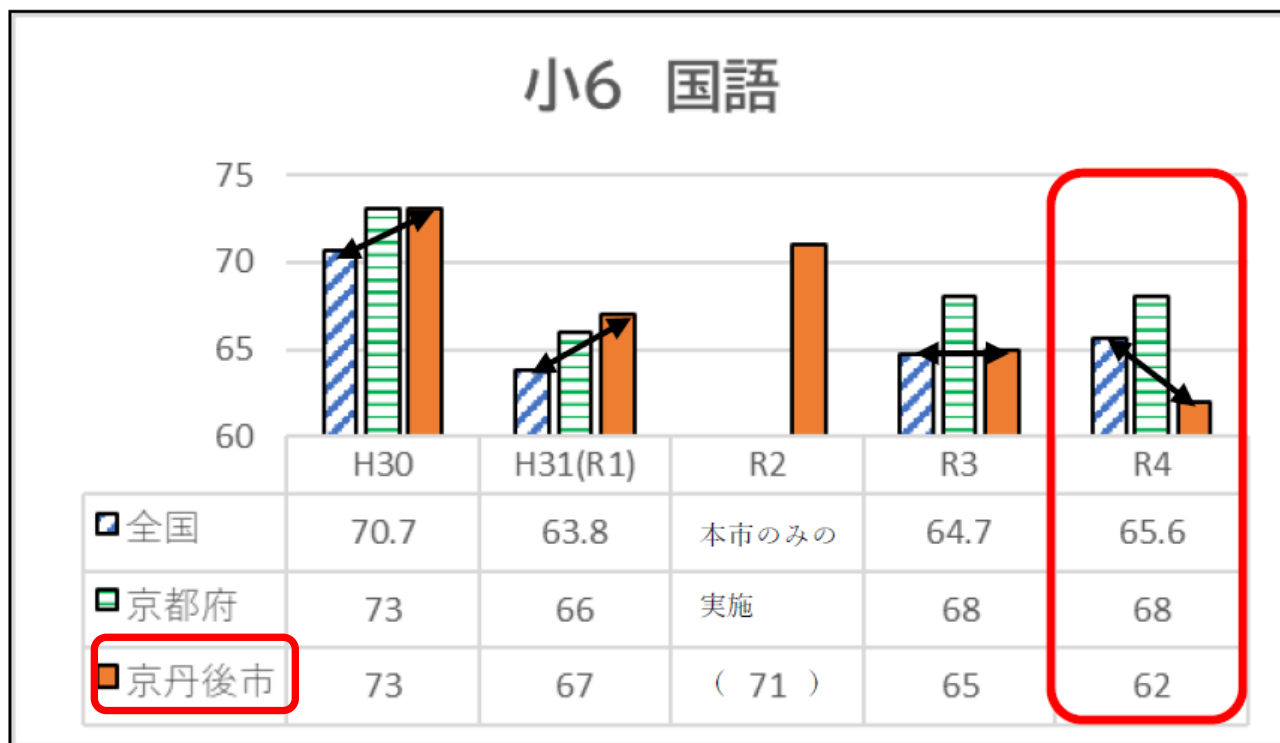


2 学校及び子どもの状況 -学力等の状況-

【小6 国語】

○ H30～R3にかけて全国平均を上回ったが、R4は全国平均を下回った。

平均正答率の経年変化(↔:全国との比較)



出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より

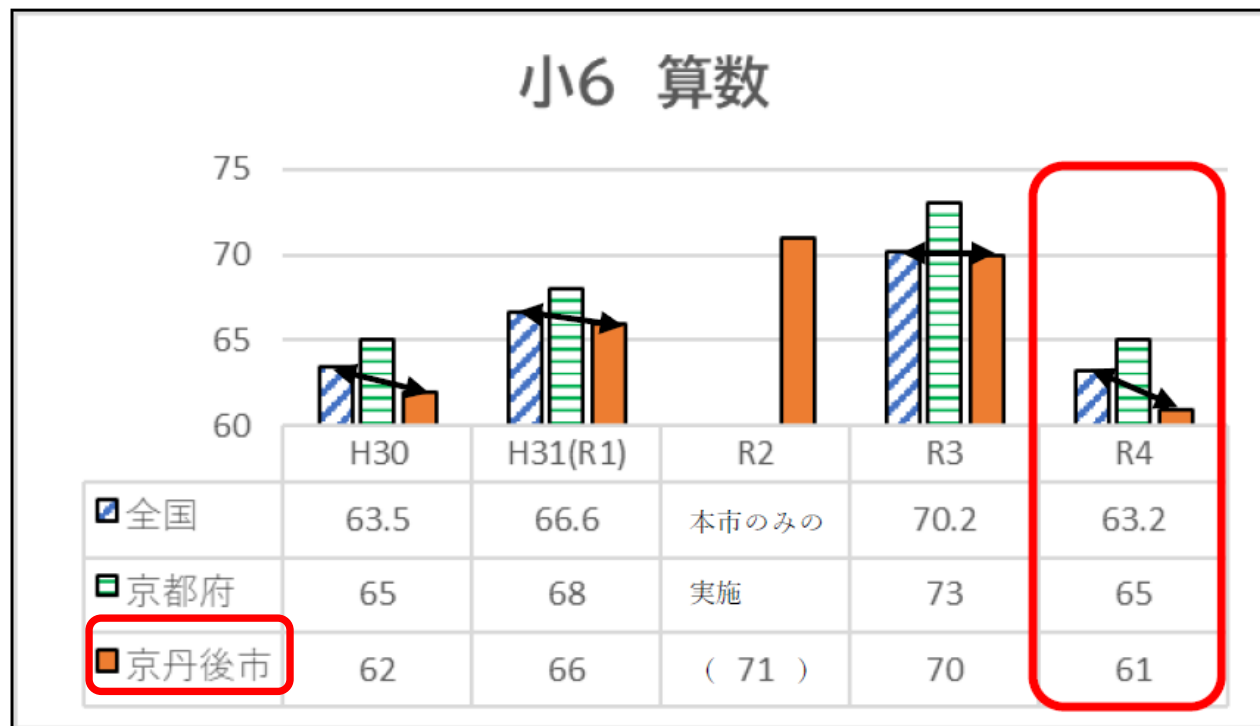


2 学校及び子どもの状況 -学力等の状況-

【小6 算数】

○ R3のみ全国平均と同等だったが、R3を除くと全国平均を下回っている。

平均正答率の経年変化(↔:全国との比較)



出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より

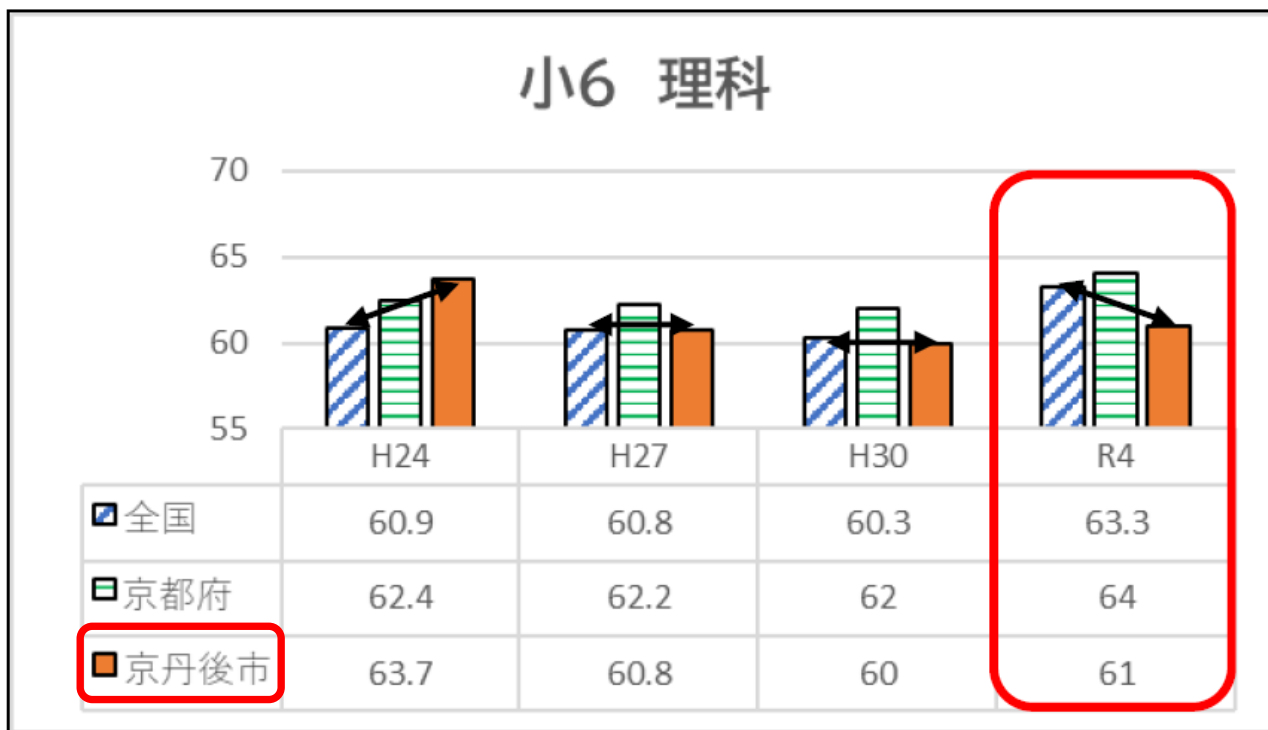


2 学校及び子どもの状況 -学力等の状況-

【小6 理科】

○ H30までは全国平均以上又は同等又だったが、R4は全国平均を下回った。

平均正答率の経年変化(↔:全国との比較)



出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より

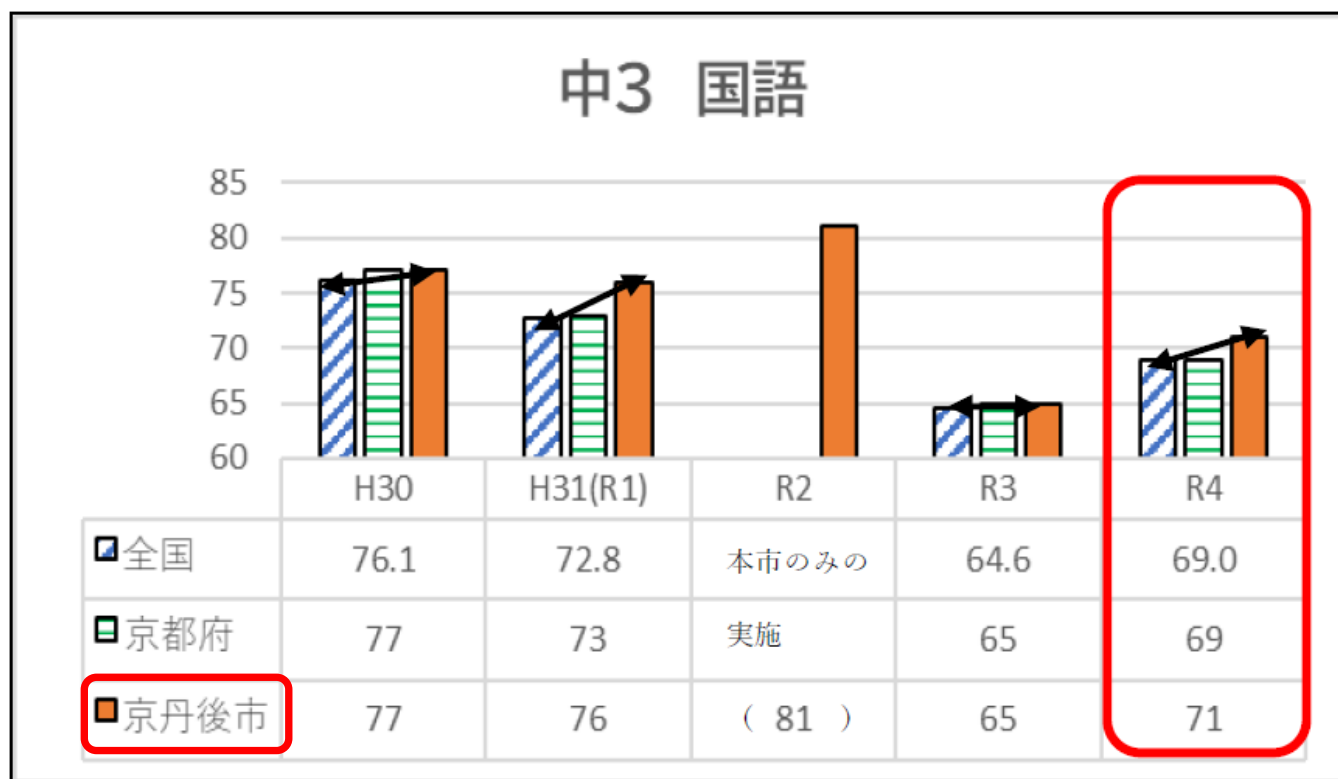


2 学校及び子どもの状況

【中3 国語】

○ H30～R4にかけて、毎年、全国平均を上回った。

平均正答率の経年変化(↔:全国との比較)



出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より

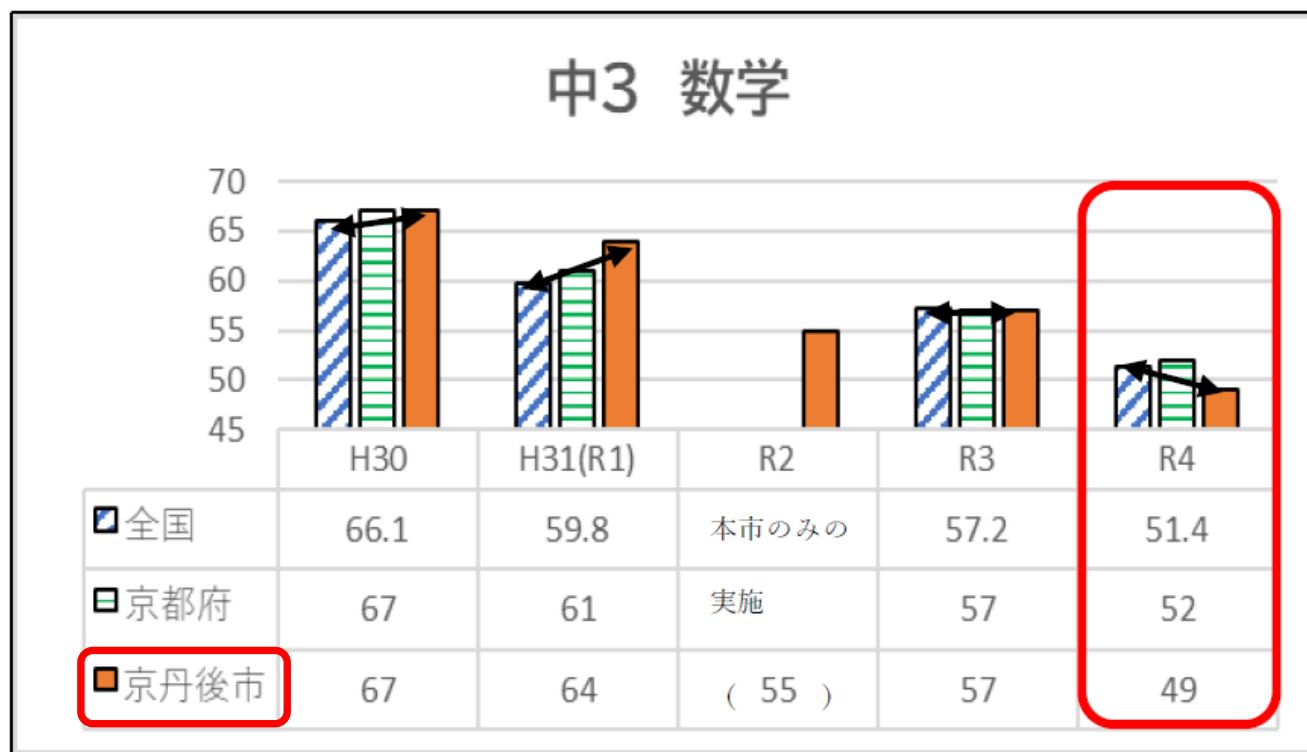


2 学校及び子どもの状況 -学力等の状況-

【中3 数学】

○ H30・H31は全国平均を上回っていたが、R3は全国平均と同等、R4は全国平均を下回った。

平均正答率の経年変化(↔:全国との比較)



出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より

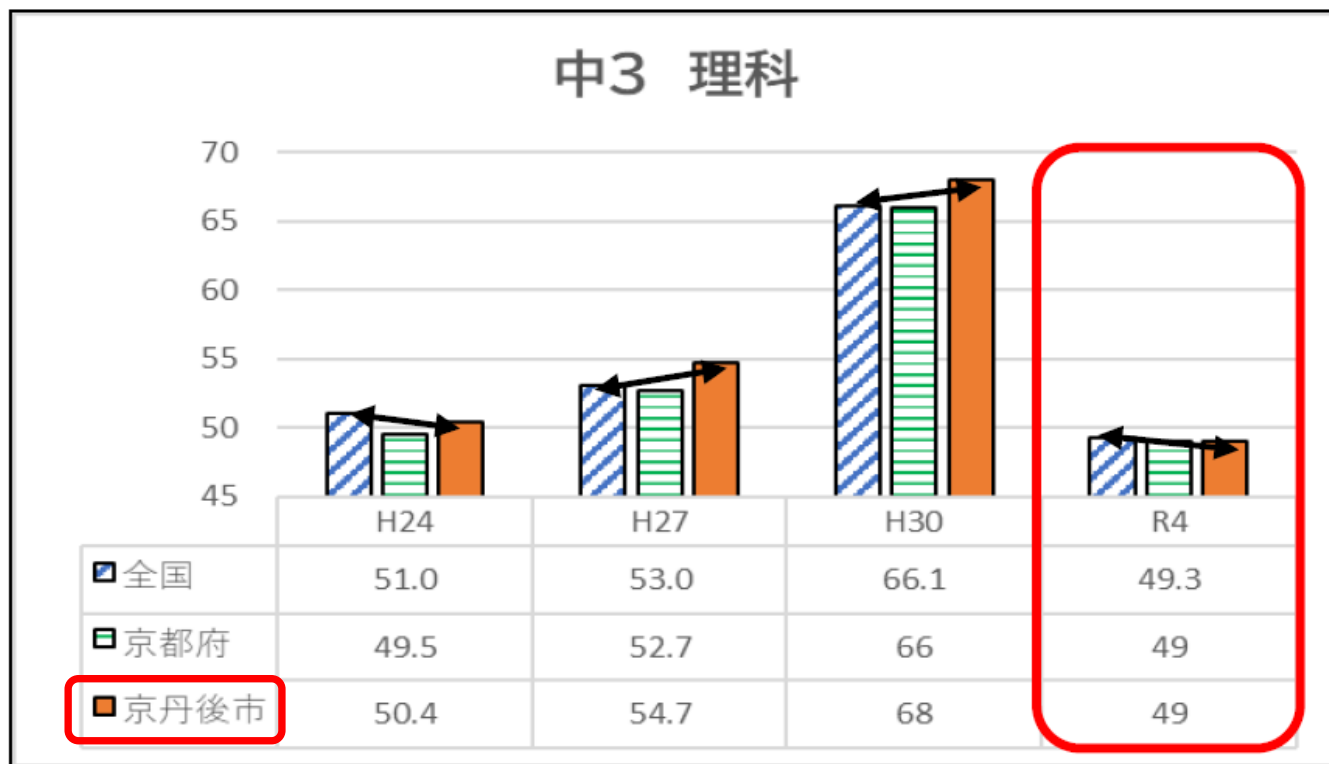


2 学校及び子どもの状況 -学力等の状況-

【中3 理科】

○ H27・H30は全国平均を上回ったが、R4は全国平均を下回った。

平均正答率の経年変化(↔:全国との比較)



出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より

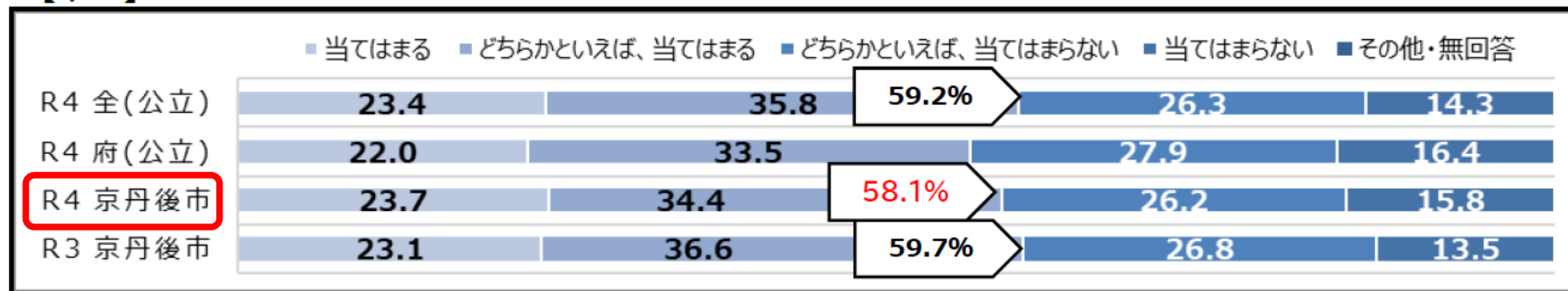
2 学校及び子どもの状況 -学力等の状況-

【国語は好きだ】

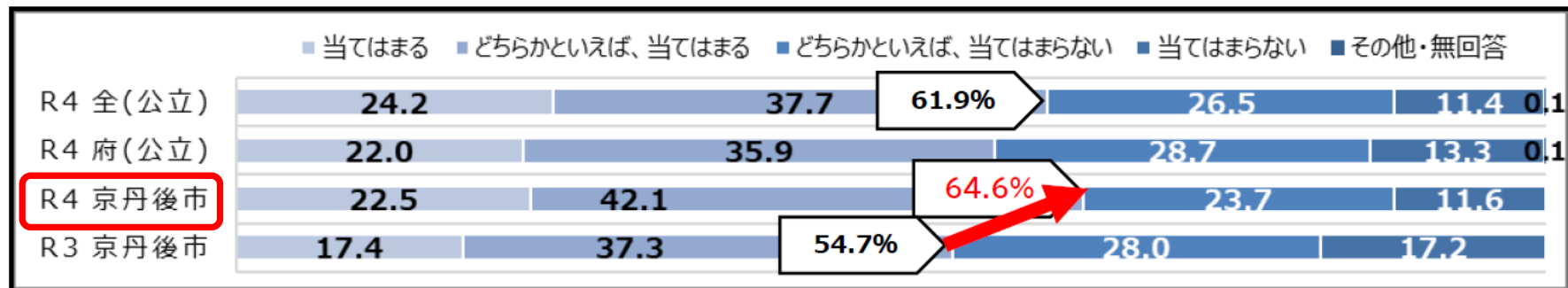
○ 中3では、全国よりも肯定的回答の割合が高く、令和3年度よりも肯定的回答の割合が高くなった。

国語は好きだ

【小6】



【中3】



出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より



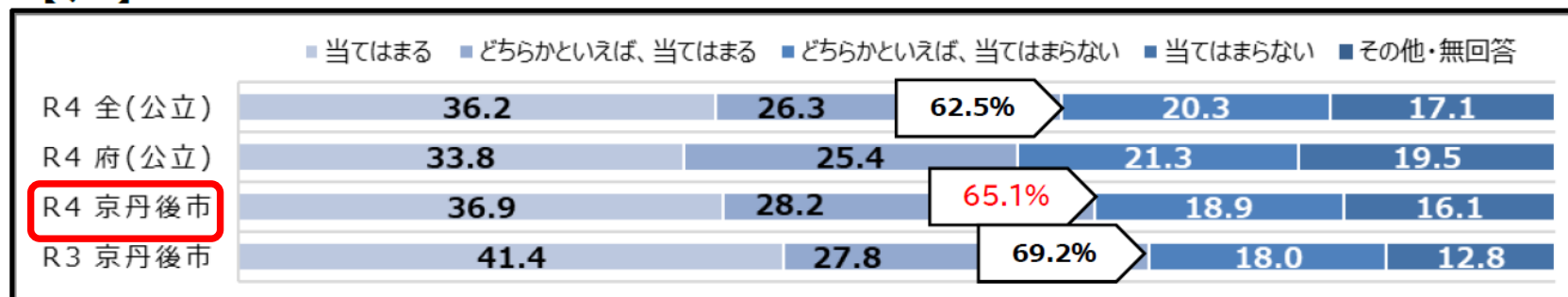
2 学校及び子どもの状況 -学力等の状況-

【数学(算数)は好きだ】

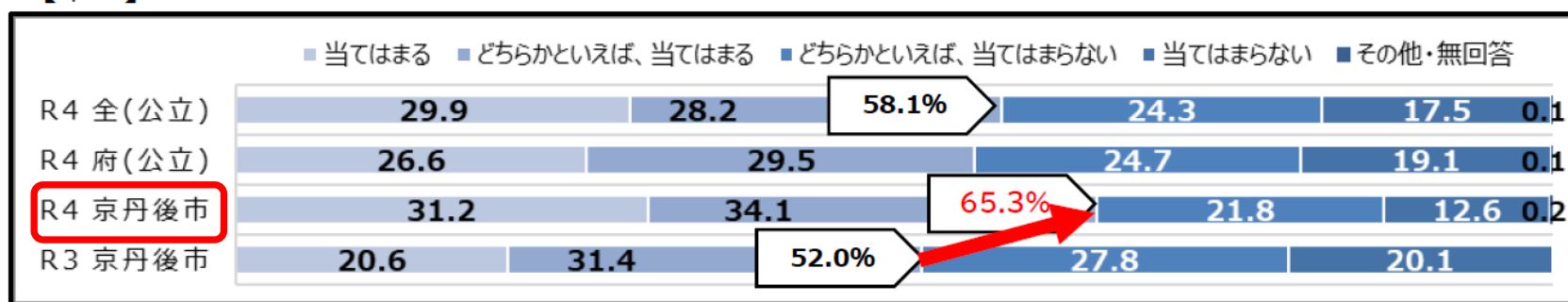
- 小6・中3ともに、全国よりも肯定的回答の割合が高い。
- 中3では、令和3年度よりも肯定的回答の割合が高くなった。

算数(数学)は好きだ

【小6】



【中3】



出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より



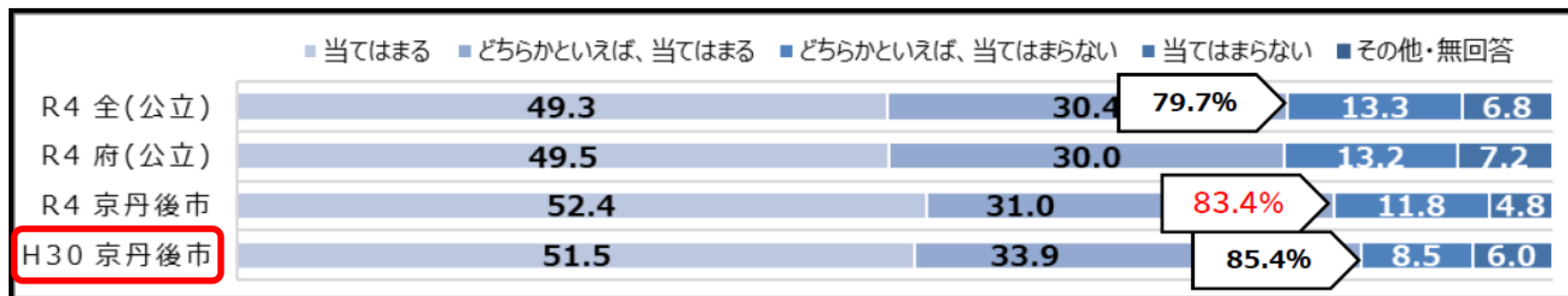
2 学校及び子どもの状況

【理科は好きだ】

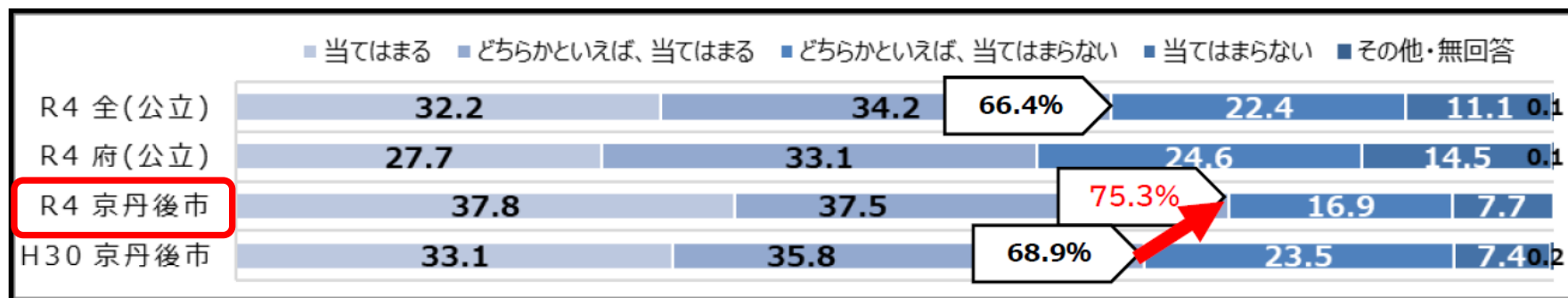
- 小6・中3ともに、全国よりも肯定的回答の割合が高い。
- 中3では、令和3年度よりも肯定的回答の割合が高くなった。

【小6】

理科の勉強は好きだ



【中3】



出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より



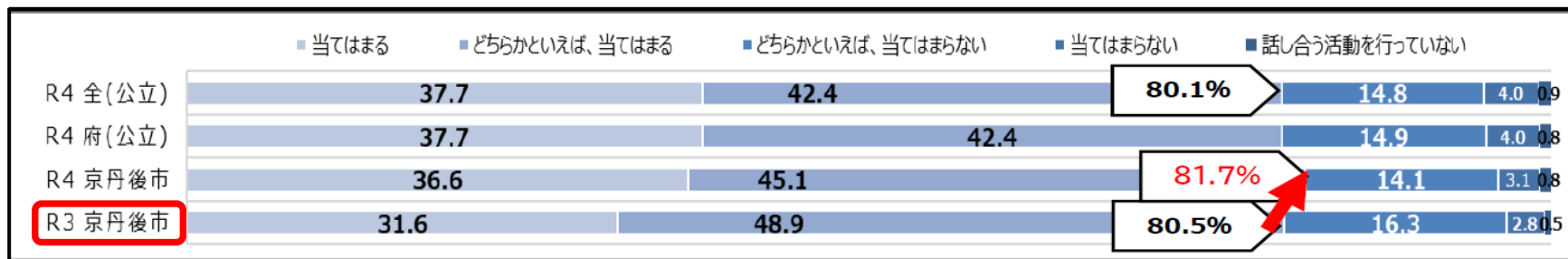
2 学校及び子どもの状況 -学力等の状況-

【自分の考えを深める、広げる】

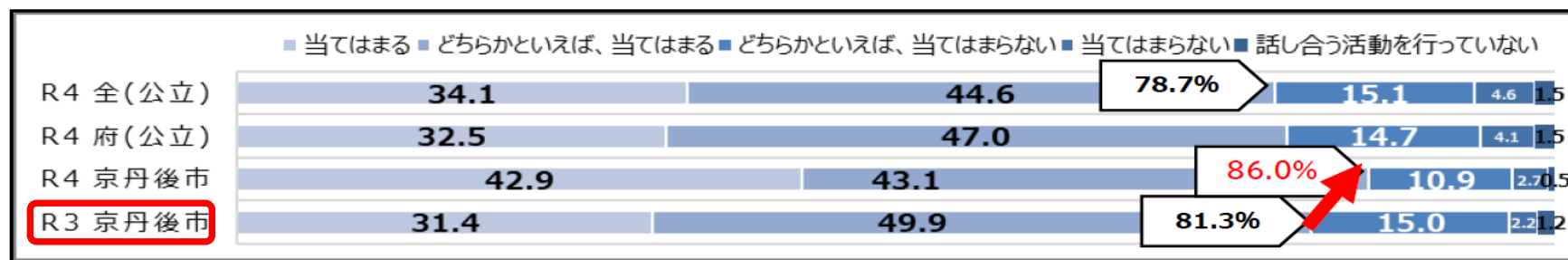
- 小6・中3ともに、全国よりも肯定的回答の割合が高い。
- 小6・中3ともに、令和3年度よりも肯定的回答の割合が高くなった。

学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、
自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。

【小6】



【中3】



出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より



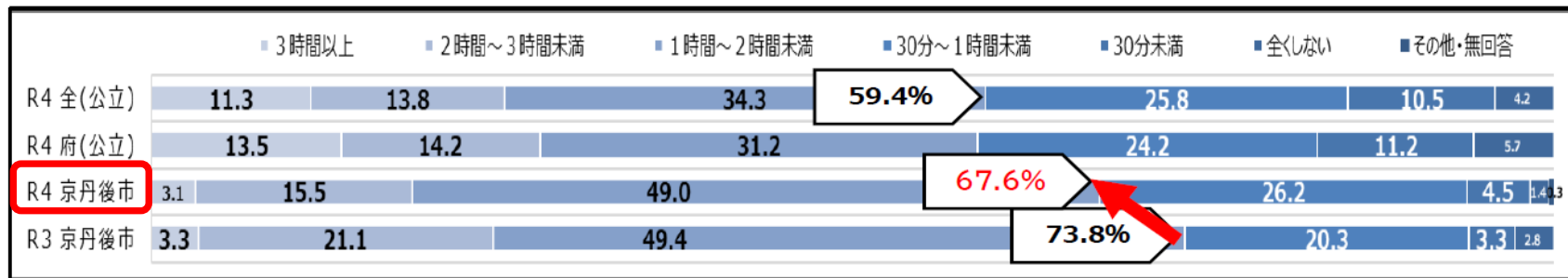
2 学校及び子どもの状況 -学力等の状況-

【1日の勉強時間】

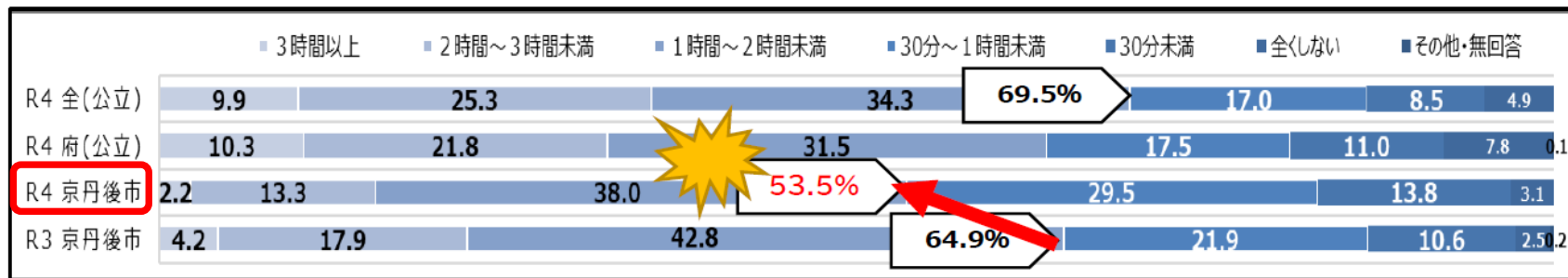
- 小6では、全国よりも「1時間以上勉強をする」児童の割合が高いが、令和3年度よりも割合が低くなった。
- 中3では、全国よりも「1時間以上勉強をする」生徒の割合が低く、令和3年度よりも大幅に割合が低くなった。

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾、家庭教師、ネット活用含む。）

【小6】



【中3】



出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より



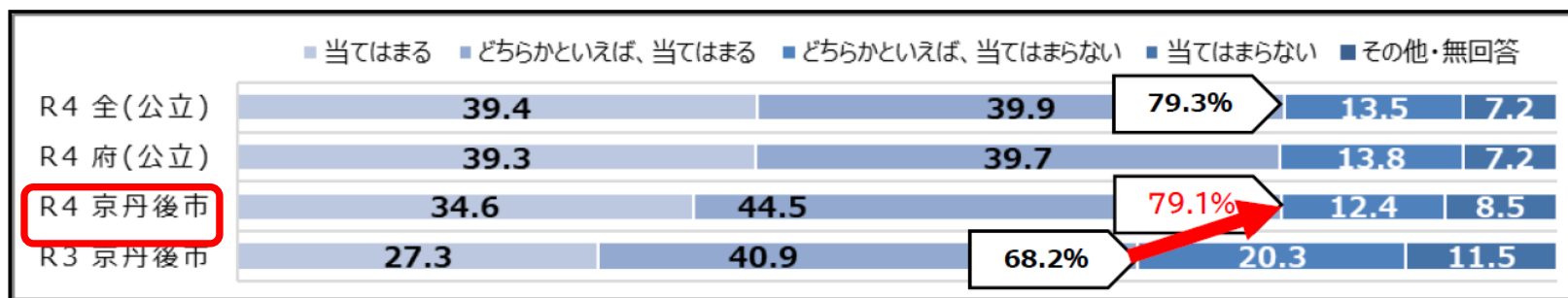
2 学校及び子どもの状況 -学力等の状況-

【自分にはよいところがある】

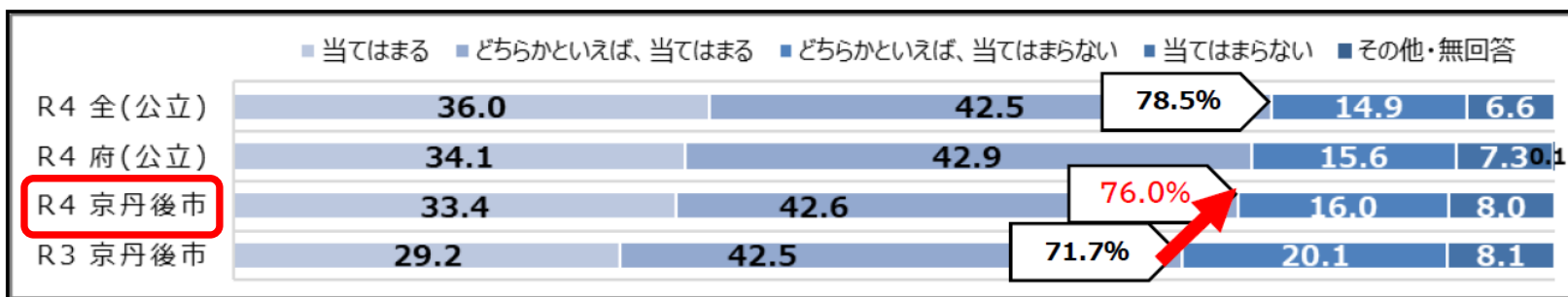
○ 小6・中3ともに、令和3年度よりも肯定的回答の割合が高くなった。

自分には、よいところがある。

【小6】



【中3】



出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より



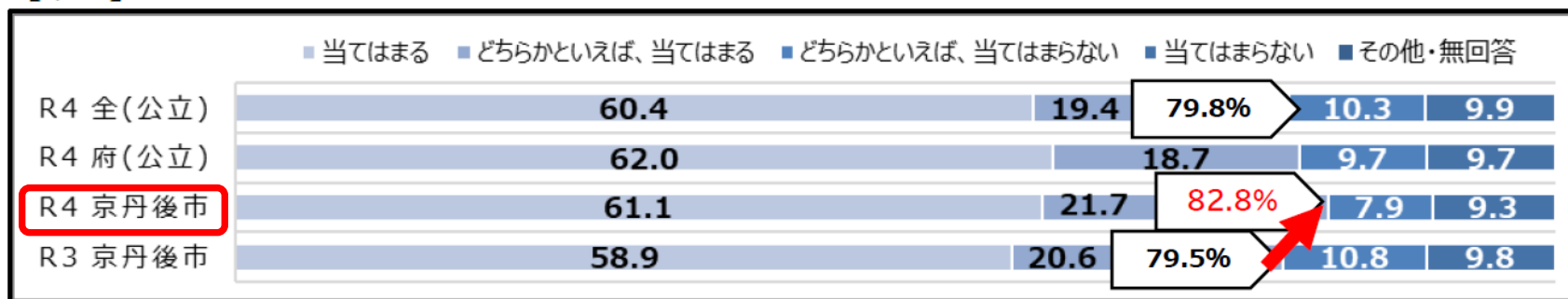
2 学校及び子どもの状況 -学力等の状況-

【将来の夢や希望】

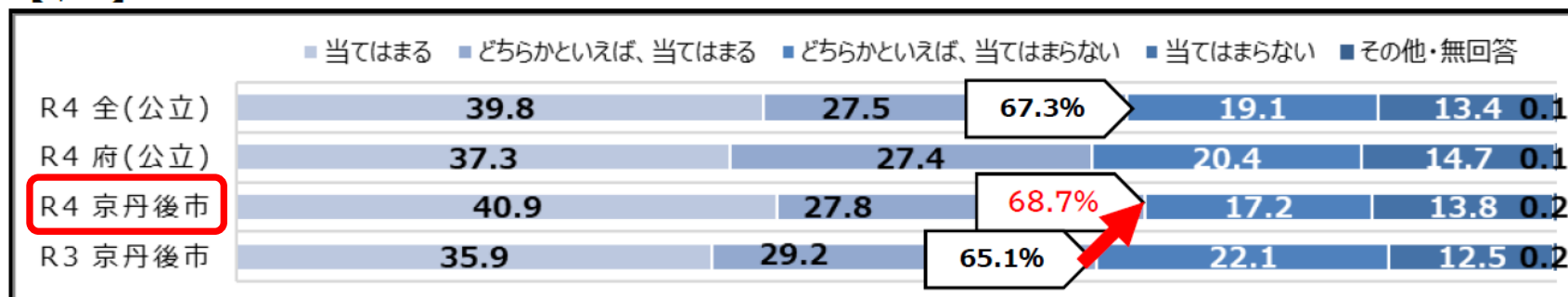
- 小6・中3ともに、全国よりも肯定的回答の割合が高い。
- 小6・中3ともに、令和3年度よりも肯定的回答の割合が高くなった。

将来の夢や希望を持っている。

【小6】



【中3】



出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より



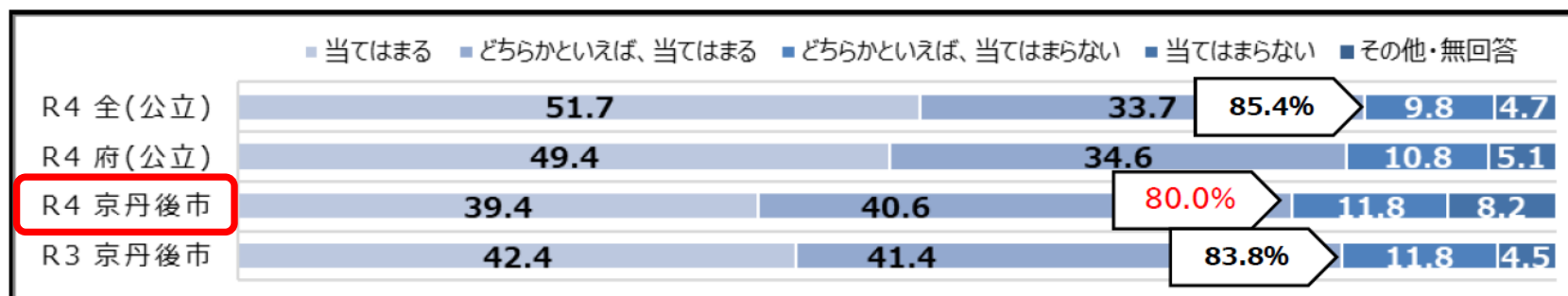
2 学校及び子どもの状況 -学力等の状況-

【学校へ行くのは楽しい】

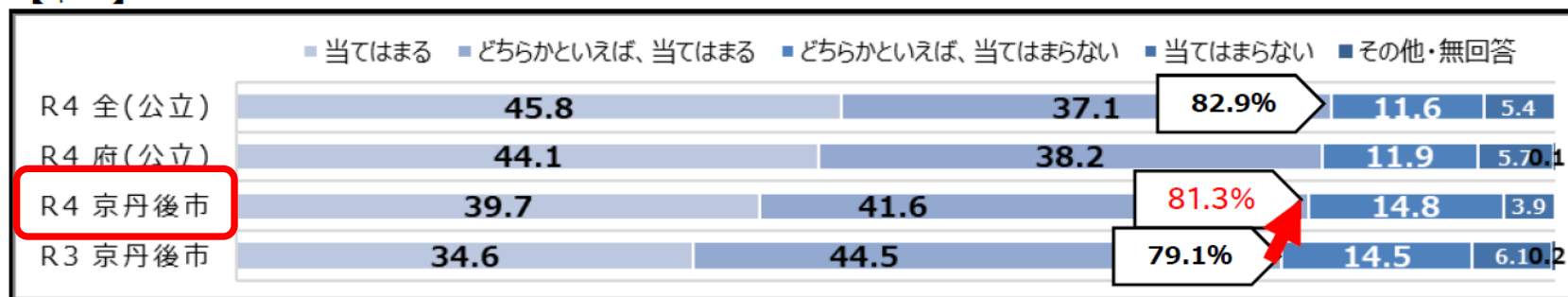
- 小6では、全国より肯定的回答の割合が低い。
- 中3では、令和3年度よりも肯定的回答の割合が高くなった。

学校へ行くのは楽しいと思う。

【小6】



【中3】



出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より



2 学校及び子どもの状況 -学力等の状況-

【ICTの授業での使用率】

○ 小学校・中学校ともに、府・全国よりも授業での使用率が高い。

■授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか。

(小6) 週1回以上と回答した割合は、**89.0%** (府 87.1%、全国 83.2%)

(中3) 週1回以上と回答した割合は、**96.9%** (府 88.4%、全国 80.6%)

☆ (学校質問紙・小学校) 週3回以上と回答した割合は、**100%** (府 92.4%、全国 85.1%)

☆ (学校質問紙・中学校) 週3回以上と回答した割合は、**100%** (府 91.8%、全国 81.2%)

出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より



2 学校及び子どもの状況 -学力等の状況-

【ICT機器：勉強の役に立つ】

○ 小6・中3ともに、府・全国よりも肯定的回答の割合が高い。

【ICT機器：勉強のために使う時間】

○ 小6・中3ともに、「30分より少ない」と回答した割合が最も高い。

■学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか。

(小6) 肯定的な回答の割合は、**96.1%** (府 94.9%、全国 94.4%)

(中3) 肯定的な回答の割合は、**96.9%** (府 93.0%、全国 92.6%)

■普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っているか

(小6)

・ 30分以上使っていると回答した割合は、**42.8%** (府 44.4%、全国 43.8%)

(「30分より少ない」と回答した割合が最も高く、**28.5%**)

(中3)

・ 30分以上使っていると回答した割合は、**46.0%** (府 42.2%、全国 40.8%)

(「30分より少ない」と回答した割合が最も高く、**31.5%**)

出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より



2 学校及び子どもの状況 -学力等の状況-

【ICT機器：家庭での利用率】

○ 小学校・中学校ともに、府・全国よりも家庭で利用できるようにしている割合が高い。

■【学校質問紙】

児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしているか

(小学校) **88.2%** (府 71.9%、全国 66.9%)

毎日持ち帰って、毎日利用させている： **0%** (府 5.9%、全国 14.2%)

毎日持ち帰って、時々利用させている： **0%** (府 7.0%、全国 13.2%)

時々持ち帰って、時々利用させている： **88.2%** (府 59.0%、全国 39.5%)

(中学校) **83.4%** (府 73.0%、全国 61.8%)

毎日持ち帰って、毎日利用させている： **16.7%** (府 11.2%、全国 17.0%)

毎日持ち帰って、時々利用させている： **0%** (府 14.7%、全国 14.6%)

時々持ち帰って、時々利用させている： **66.7%** (府 47.1%、全国 30.2%)

出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より

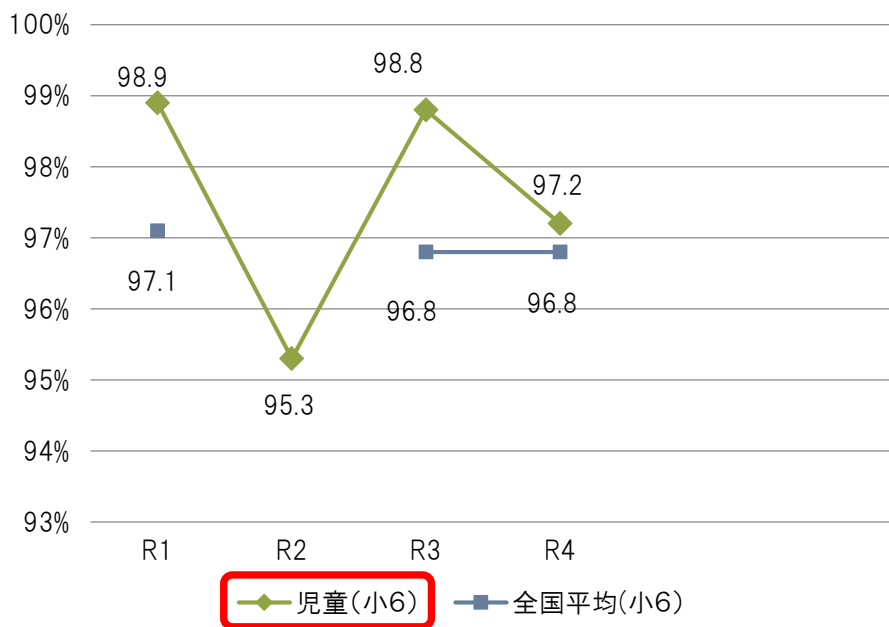


2 学校及び子どもの状況 -学力等の状況-

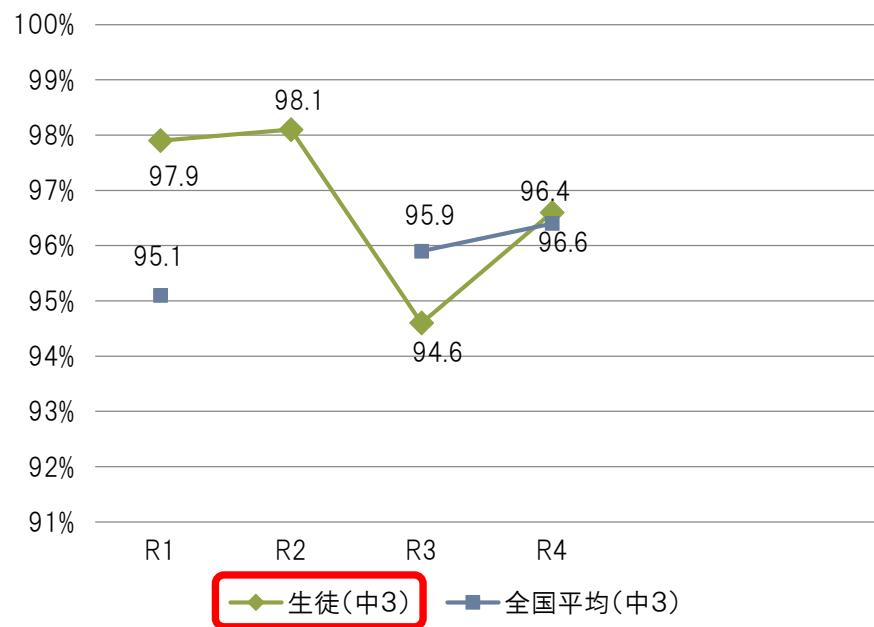
【豊かな心の育成と規範意識の醸成】

- 小6では、全国と比べ、いじめはいけないことだという意識が高い。
- 中3では、令和3年度を除き、全国と比べ、いじめはいけないことだという意識が高い。

いじめはいけないことだという意識がある児童の割合



いじめはいけないことだという意識がある生徒の割合



出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より

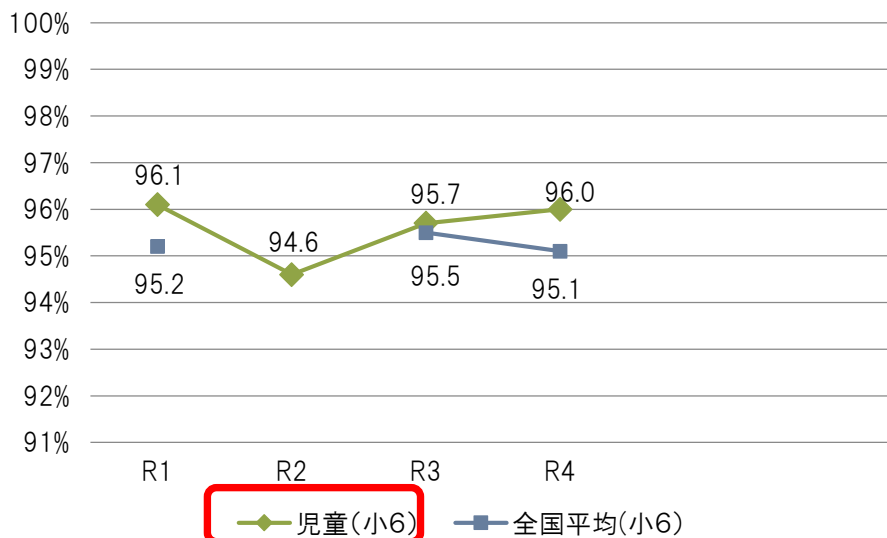


2 学校及び子どもの状況 -学力等の状況-

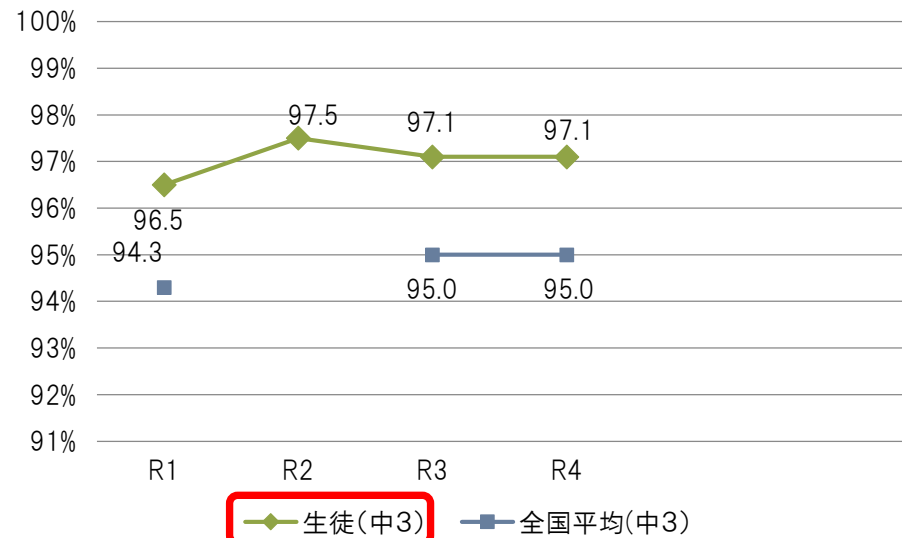
【豊かな心の育成と規範意識の醸成】

○ 小6・中3ともに、全国よりも「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒の割合が高い。

人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合



人の役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合



出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より



2 学校及び子どもの状況 -学力等の状況-

【体力】

- 例年8種目中4～6種目が全国平均を上回っている。
- 毎年シャトルラン・反復横跳びなど、持久力や敏捷性が求められる種目が全国平均より高い値であり、握力・長座体前屈など、筋力や柔軟性が求められる種目の値が下回っている。

小学生の体力テスト(8種目中)全国平均以上

※R2は未実施



中学生の体力テスト(8種目中)全国平均以上

※R2は未実施



出典：令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査より

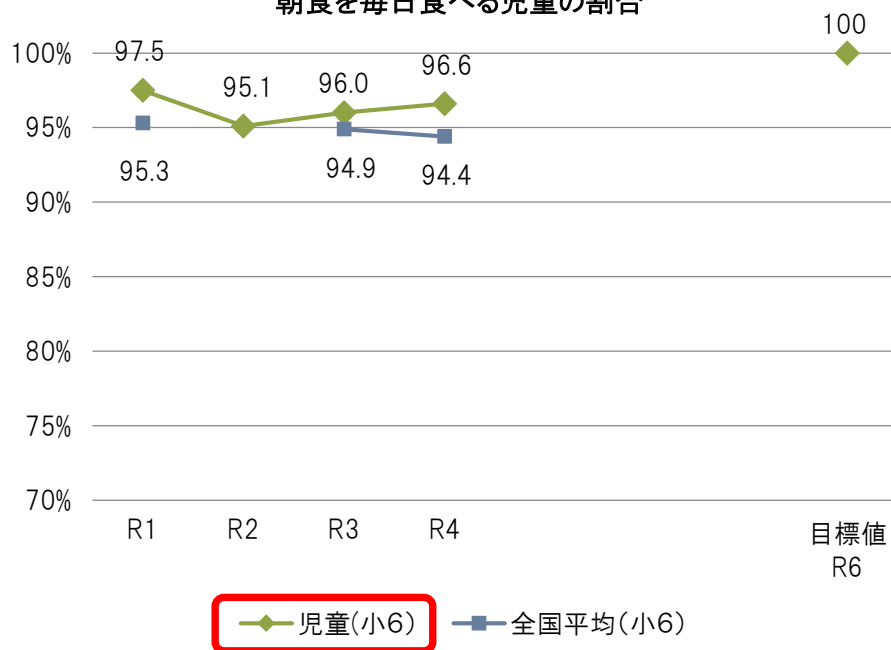


2 学校及び子どもの状況 -学力等の状況-

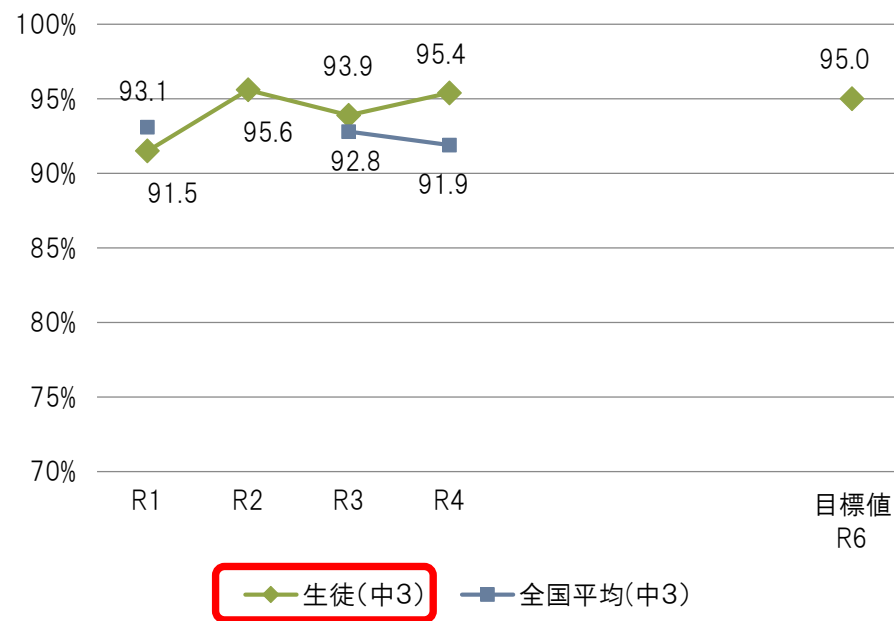
【食生活】

- 小6・中3ともに、全国よりも、朝食を毎日食べる児童生徒の割合が高い。
- 中3においては、令和4年度に目標値(R6)を上回っている。

朝食を毎日食べる児童の割合



朝食を毎日食べる生徒の割合

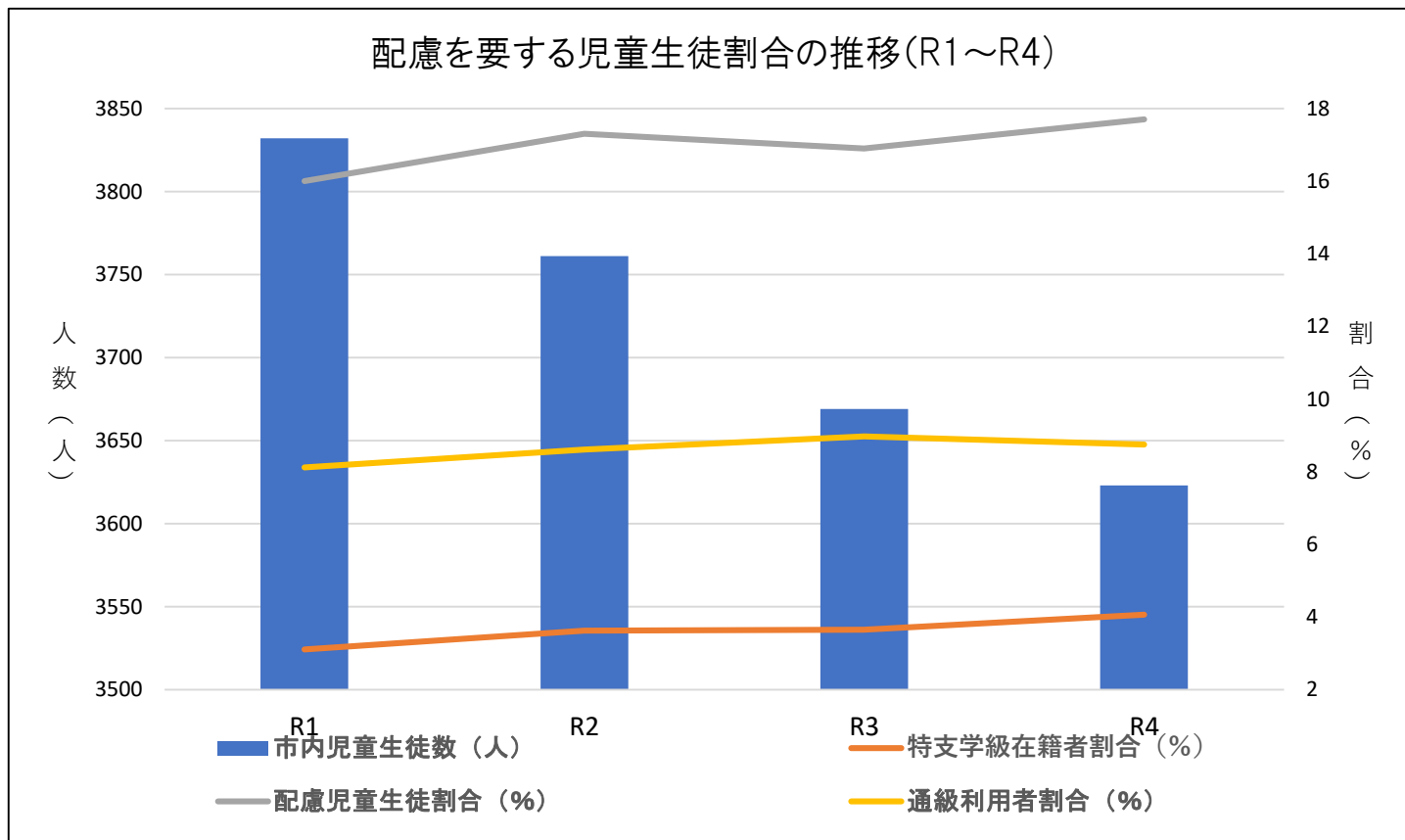


出典：令和4年度全国学力・学習状況調査より



2 学校及び子どもの状況 -特別支援児童生徒の状況-

- 4年間の推移を見ると、市内の総児童生徒数の減少に反して、個に応じた指導・支援及び配慮の必要な児童生徒の割合は増加している。（特別支援教育の対象となる児童生徒の割合は、市内全児童生徒の20%強）



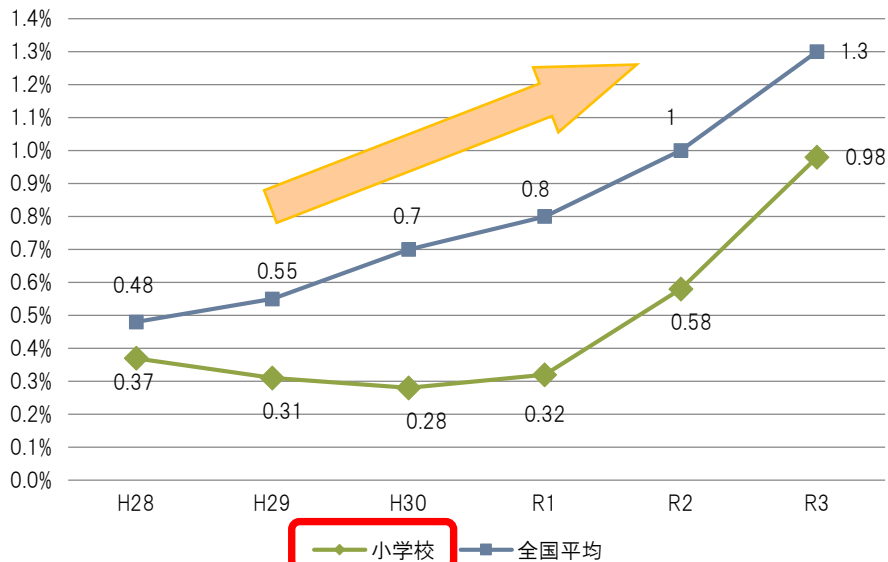
出典：京都府特別支援学級等実態調査



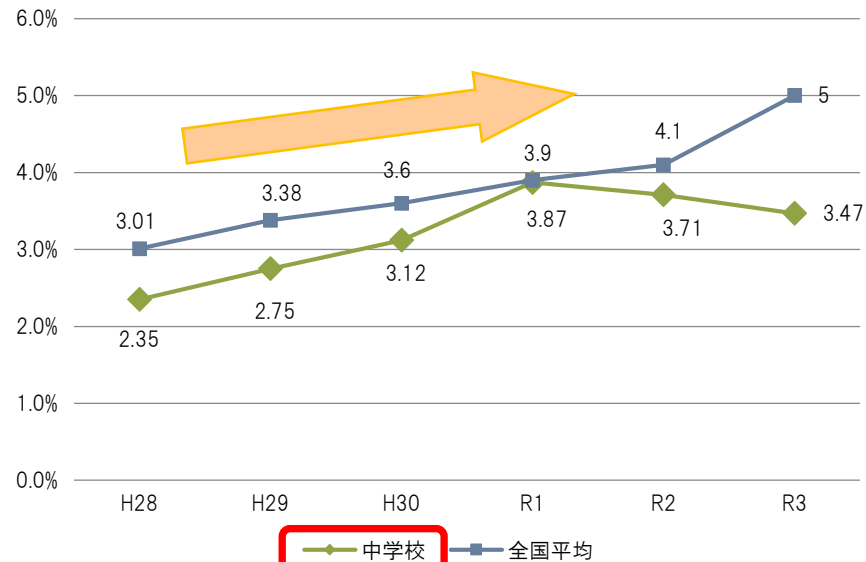
2 学校及び子どもの状況 -不登校の状況-

- 不登校児童生徒とは年間30日以上欠席(病気や経済的理由を除く)した児童生徒のことであり、全国的に増加している。
- 本市においても全国と比較すると少し低い値ではあるが、同じ傾向にある。

不登校児童の発生率【小学校】



不登校生徒の発生率【中学校】



出典: 生徒指導に係る月毎の報告(京都府報告)より

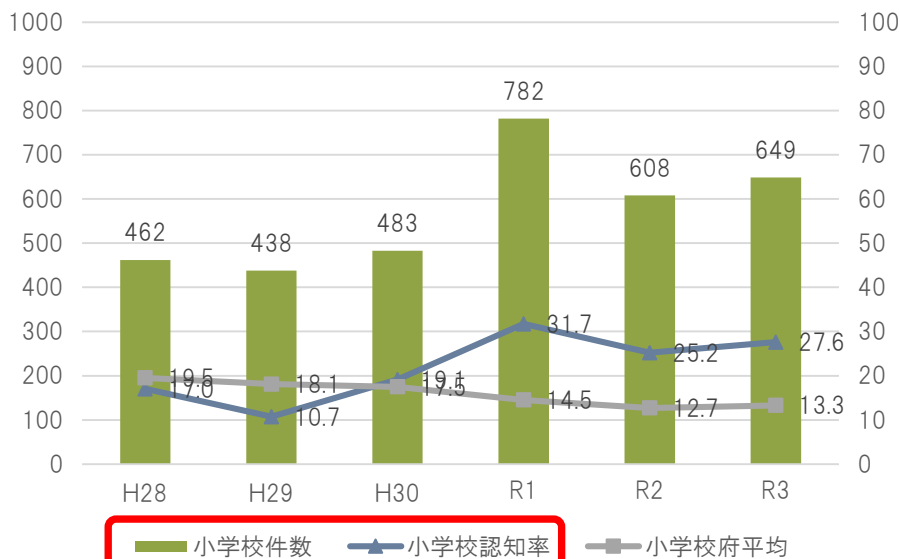
: 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査(国報告)より



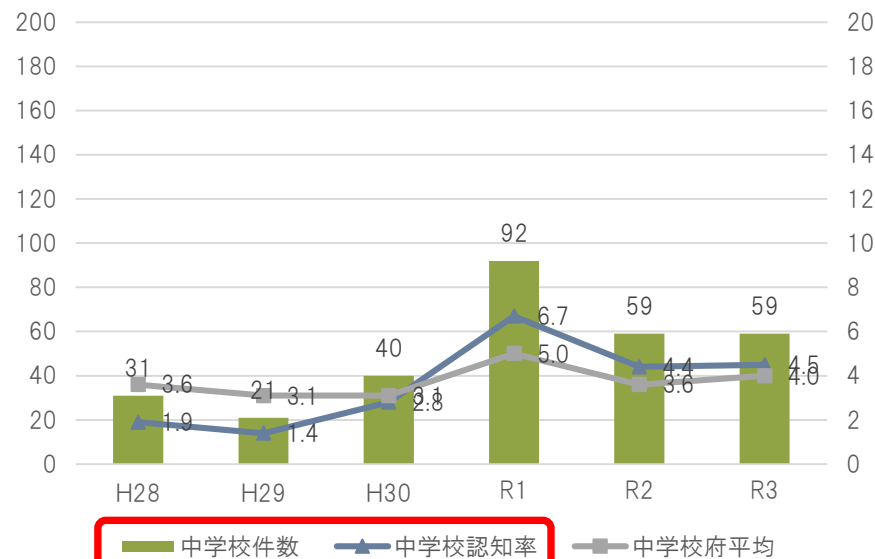
2 学校及び子どもの状況 -いじめの状況-

○ いじめの認知に関しては、京都府は全国的に見て高い認知率であり、本市も同じくらいの認知率となっている。

いじめの認知件数/認知率(単位:件/%)【小学校】



いじめの認知件数/認知率(単位:件/%)【中学校】



出典:生徒指導に係る月毎の報告(京都府報告)より

:児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査(国報告)より



2 学校及び子どもの状況 -進路の状況-

○ 中学卒業者は、例年ほぼ100%近くが高等学校へ進学している。

市内中学校卒業者の進路

各年5月1日現在

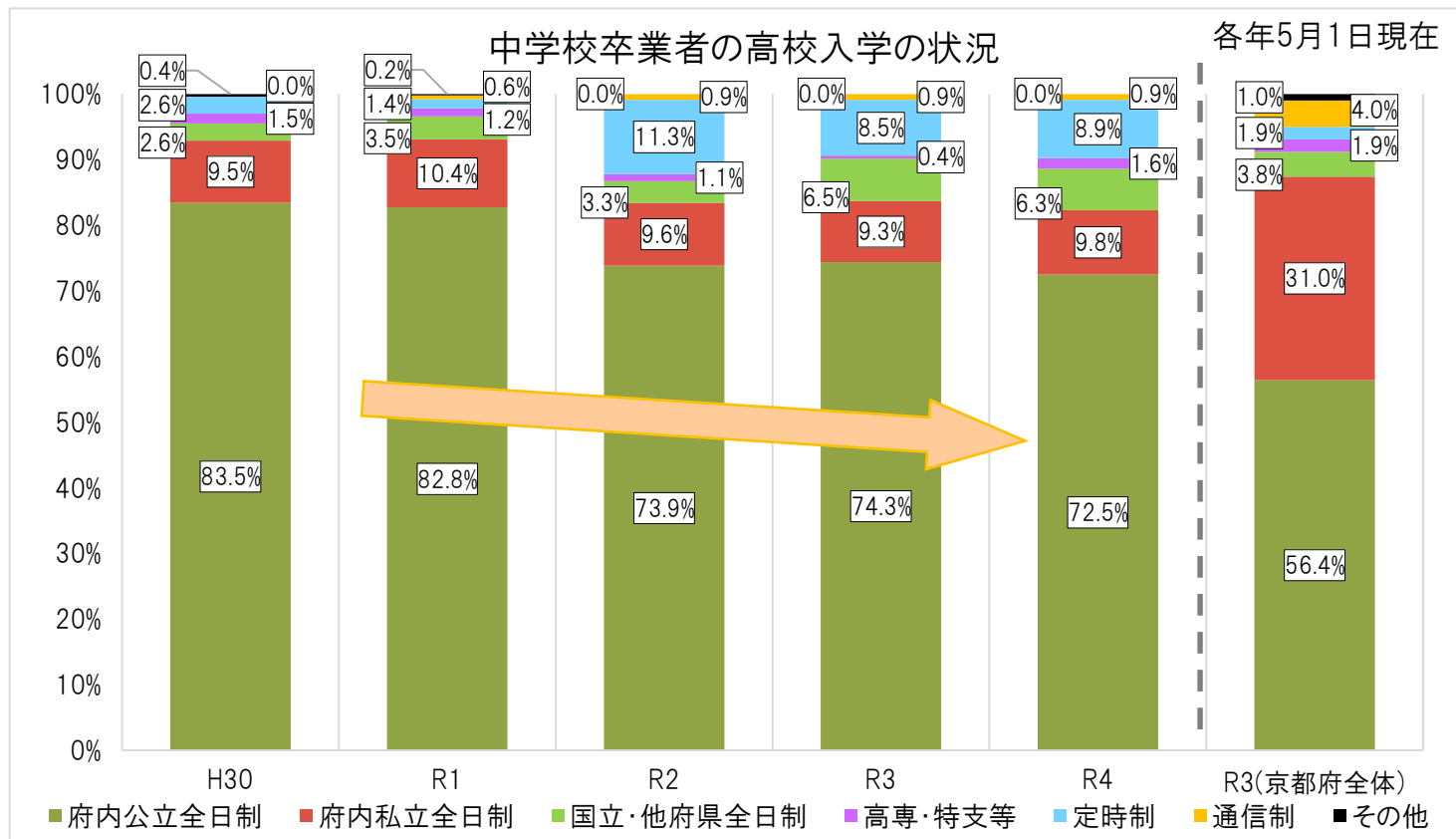
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
高等学校等進学者	545	517	459	454	447
専修学校(高等課程)進学者	1	0	0	0	0
専修学校(一般課程)等進学者	0	3	0	0	0
就職者	2	0	0	1	0
その他(無業者、死亡、不詳)	1	0	1	1	0
総数	549	520	460	456	447

出典：市教育委員会



2 学校及び子どもの状況 -進路の状況-

- 高校入学は、府内(公立、私立の合計)が減少傾向にある。
- 「国立・他府県」が京都府全体と比較して多いのは、近大付属豊岡高校が多いことが主要因。
- 京都府全体と比較して、「府内公立」が多く、「府内私立」が少ない。私立の選択肢が少ないためと考えられる。

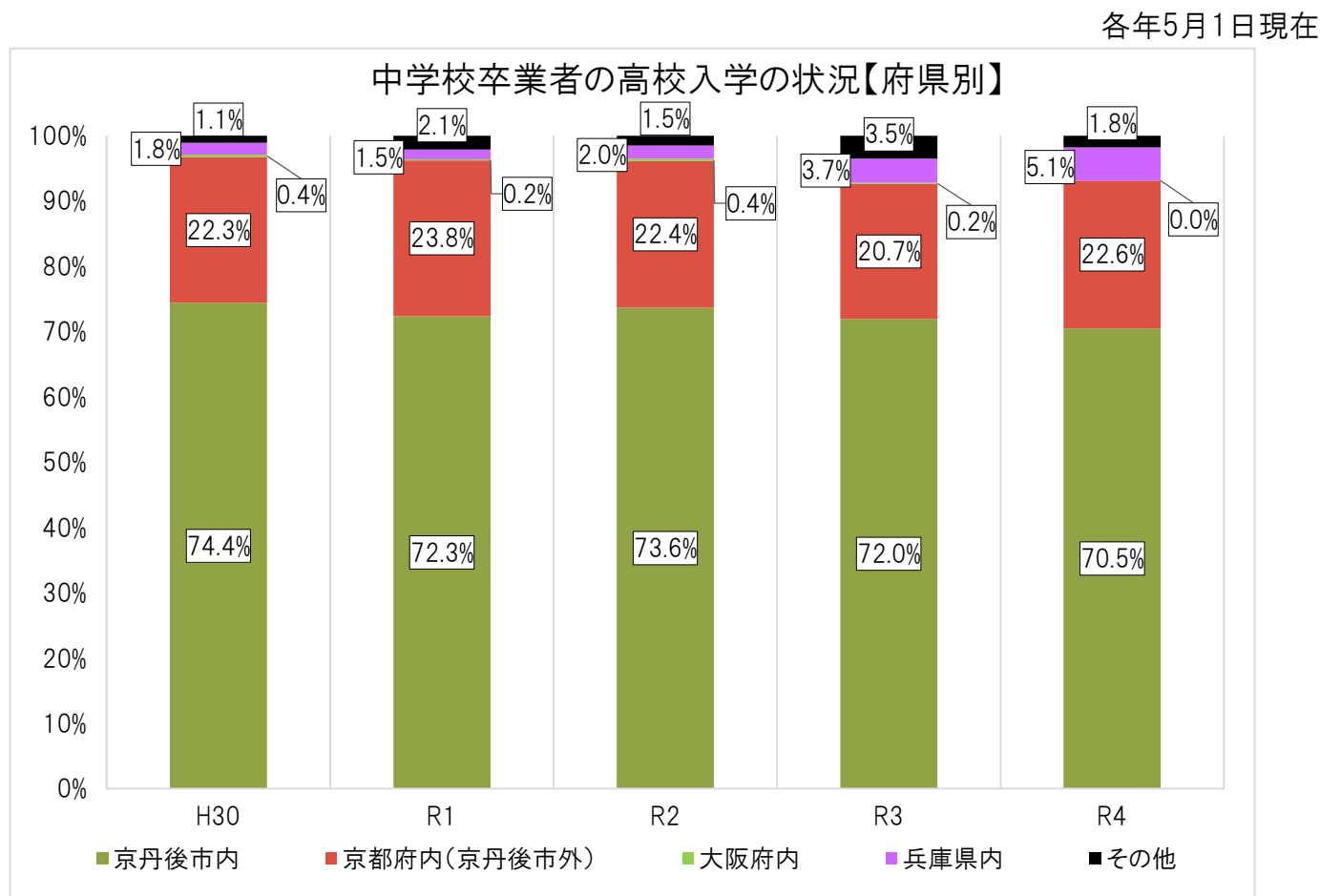


出典：市教育委員会、京都府教育委員会



2 学校及び子どもの状況 -進路の状況-

○ 府県別では大きな割合の変化はないが、京都府内が微減、京都府外が微増である。



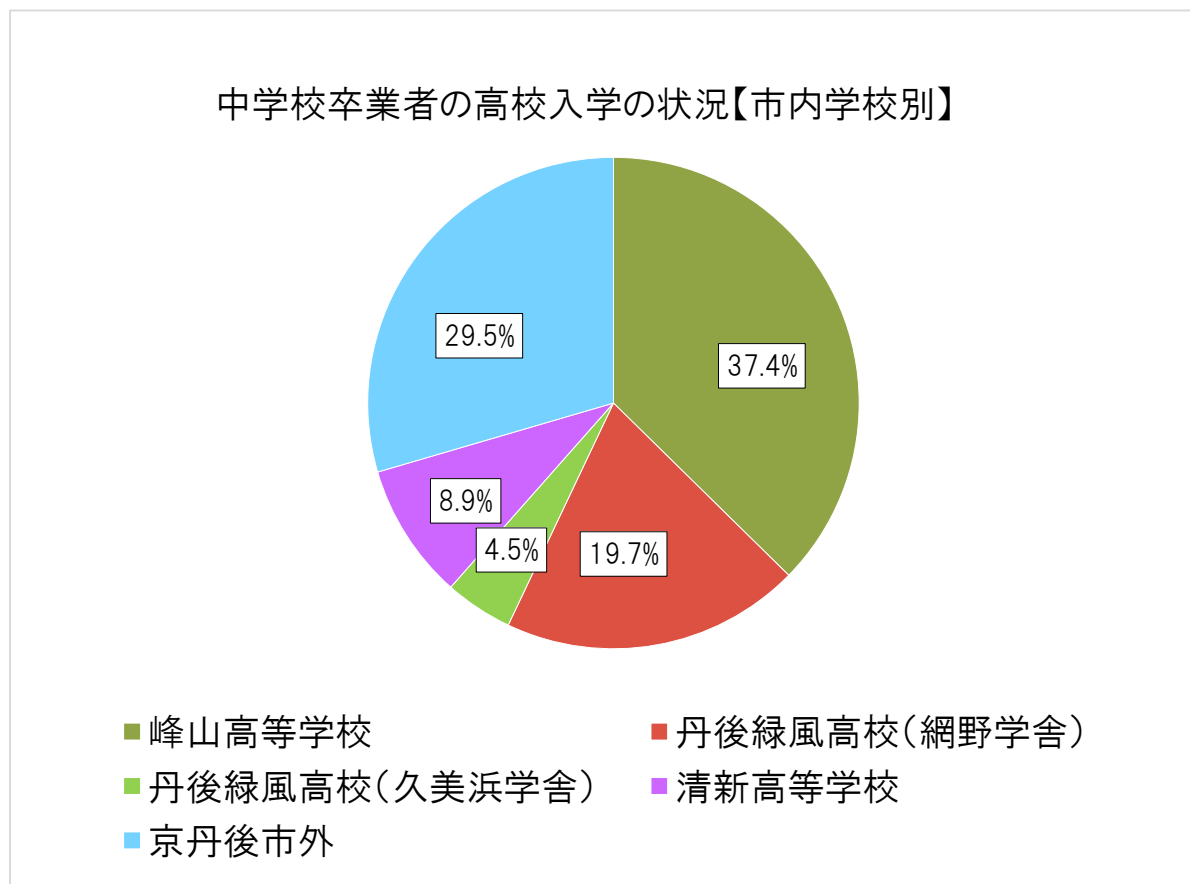
出典：市教育委員会



2 学校及び子どもの状況 -進路の状況-

○ 市内学校別では峰山高等学校が最も多く、全体の4割近くを占める。

令和4年4月入学時点



出典：市教育委員会

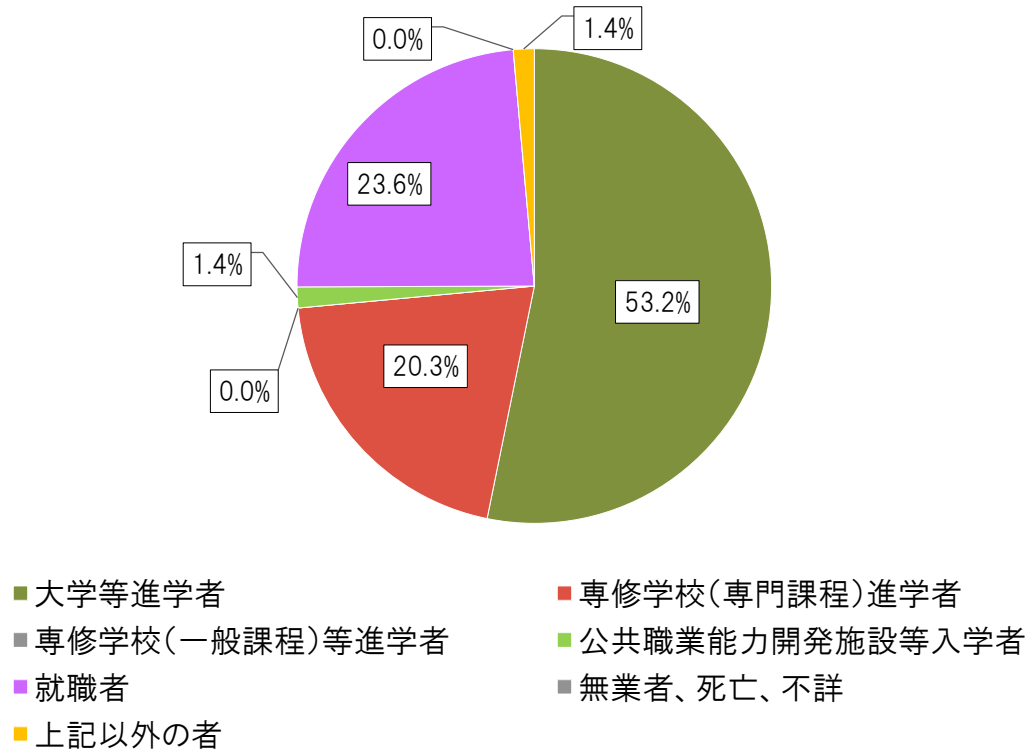


2 学校及び子どもの状況 -進路の状況-

○ 高校卒業後の進路は、大学への進学が5割強、他への進学が2割、就職が2割強という状況。

令和3年5月1日現在

市内高等学校卒業者の進路



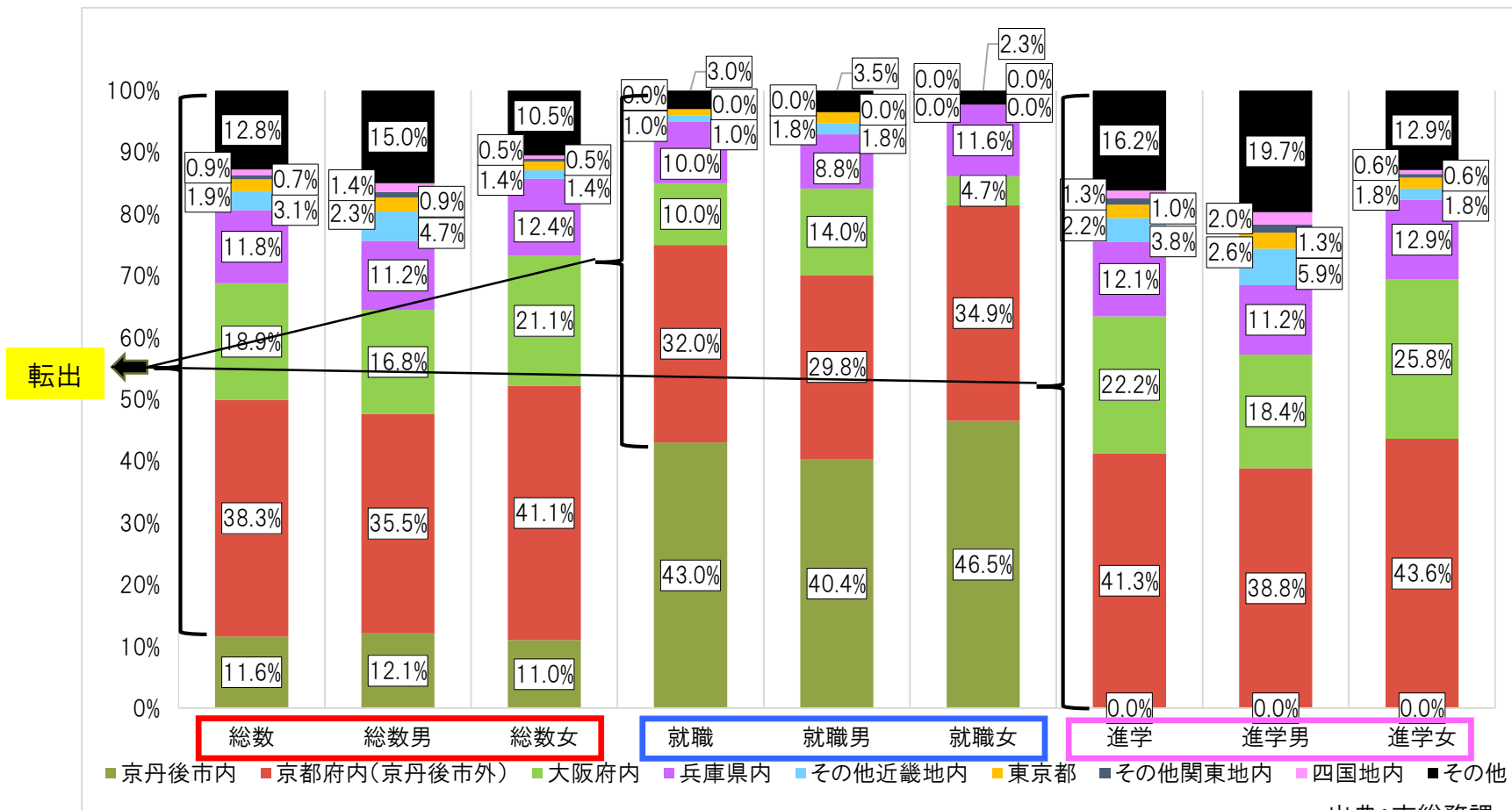
出典:市総務課



2 学校及び子どもの状況 -進路の状況-

- 高校卒業後、総数で9割、就職で6割、進学で10割が市外転出。転出先は、府内、大阪府、兵庫県が7割を占める。
- 近畿圏外への転出は男子が多い。(男子が24%、女子が14%)

高等学校卒業者の移転先



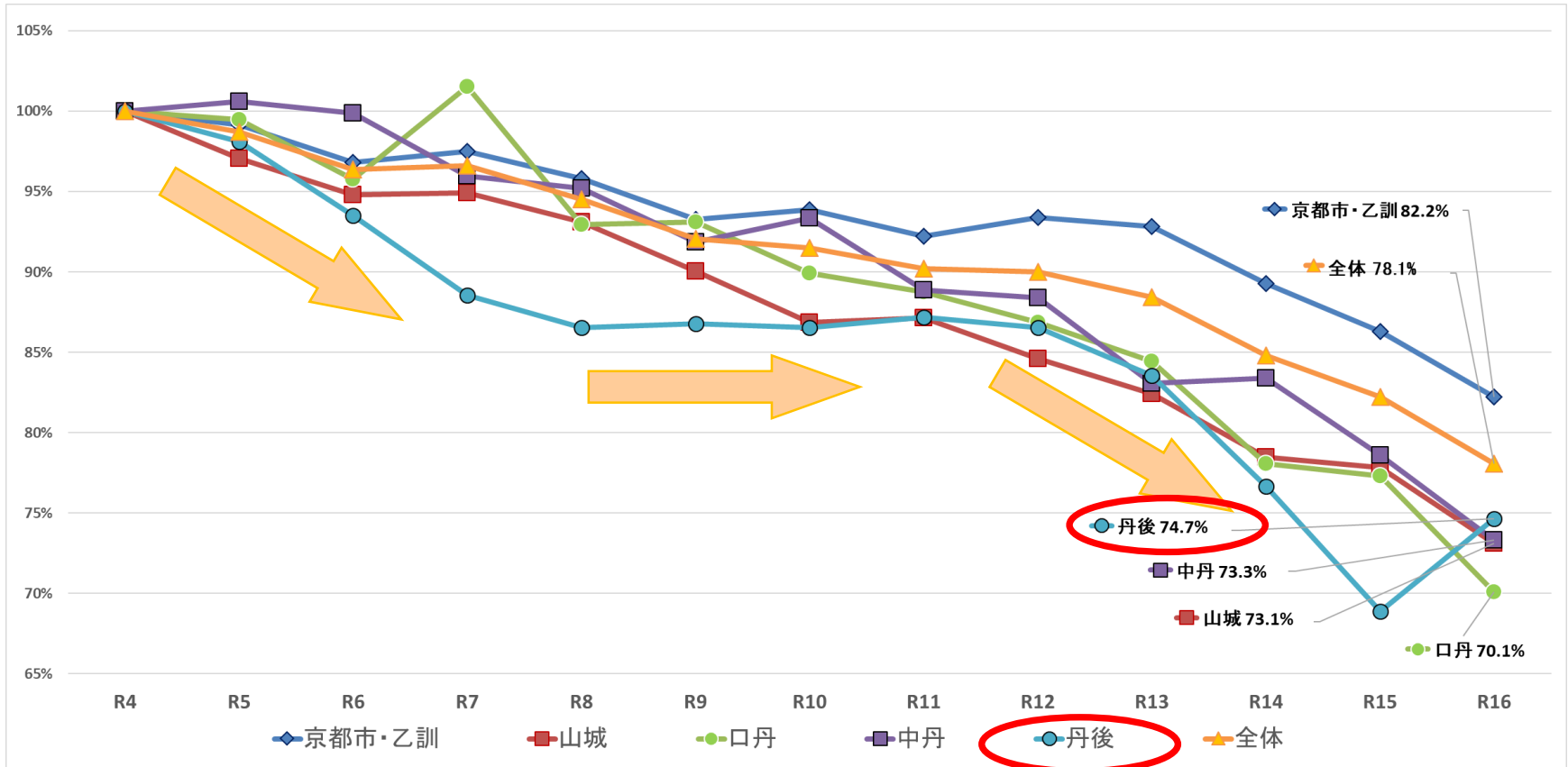
出典：市総務課



2 学校及び子どもの状況 -進路の状況-

○ 中学3年生は、今後3～4年間減少、その後横ばい、9年後あたりから再度減少の予測。

府立公立中学校3年生の増減率の将来推計(令和4年度基準)



※令和4年度＝令和4年5月1日「学校基本調査」(暫定値)によるデータ

令和4年度時点(暫定値)による推計

※令和5～12年度＝令和4年5月1日「学校基本調査」(暫定値)による推計データ [過去3年間の学年進行率を元に推計]

※令和13～16年度＝各年出生数(暦年)からの推計データ [各年出生数×現小1～6年生の(中3生時推計数/出生数)の平均率]

出典：京都府教育委員会



3 教育の現状 -教育を取り巻く情勢-

①社会情勢

人口減少と少子高齢化

グローバル化の進展

Society5.0社会

人生100年時代

SDGsの実現

ダイバーシティ社会の実現

地域社会の教育力低下

家庭環境の変化

ウィズコロナ・ポストコロナ

ゼロカーボンの実現



3 教育の現状 -教育を取り巻く情勢-

②教育をめぐる情勢

■GIGAスクール構想の推進

- ・これまでの実践とICTとの最適な組合せを実現する
- ・ICT機器を主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、今までできなかった学習活動の実施や家庭など学校外での学びを充実する。

■「令和の日本型学校教育」の構築

- ・全ての子どもたちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。

■第4期教育振興基本計画(2023～2027)見直し【中教審報告素案より】

- ・コンセプト「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」
- ・今後の教育政策の基本的な方針
 - ①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
 - ②誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
 - ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
 - ④教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進
 - ⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話

■教職員の働き方改革の促進

これまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに、その人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を。

■中学校部活動(休日)の段階的地域移行

令和5～7年度の段階的な地域移行に向けた検討を。

■こども家庭庁のスタート(2023.4.1)

- ①子どもの目線、子育てをしている人の声を大切にする
 - ②地方自治体と協力すること
 - ③NPOや地域住民と話しあい、協力すること
- という姿勢を重視し、「子どもまんなかの社会の実現」をキャッチフレーズとする。
- 子どもの最善の利益を実現する観点から、子供や若者の意見を、年齢や発達に応じて積極的かつ適切に子供政策の策定などに反映していくことが求められる。



3 教育の現状 -教育を取り巻く情勢-

③本市をめぐる状況

■ 京丹後市教育大綱の策定（中高大までを見据えた教育施策、産業界との連携等）【本資料51P】

■ 保幼小中一貫教育（施設分離型）、丹後学、グローバル人材育成等、
特色ある教育活動の展開 【本資料52～60P】

■ 学校でのICT機器の積極的な活用、GIGAスクール構想への早期着手 【本資料61P】

■ 学校適正配置基本計画の推進（適正規模での学校教育の推進）【本資料62、63P】

■ 定住促進奨学金支援制度など、産業界とも連携したIターン、Uターン施策の推進 【本資料64P】

■ 文化芸術振興計画、文化財保存活用地域計画策定（学校教育への更なる活用）



3 教育の現状 -京丹後市の教育施策-

①教育振興計画と教育大綱

- 平成27年3月、10年間を計画期間として、教育の振興のための施策に関する基本的な計画として「京丹後市教育振興計画」を策定。令和元年11月に中間見直し。
- 令和3年2月に策定した第2次京丹後市総合計画基本計画との整合を踏まえつつ、まちづくり・ひとづくり全体を通じた市政全体を視野に入れながら、かつ、改定した京丹後市教育振興計画以後に生じた社会の動き、変化等を踏まえて、令和4年7月、「京丹後市教育大綱」を新たに策定。 ※京丹後市教育振興計画、京丹後市教育大綱とも期間は令和6年度末まで

京丹後市教育振興計画

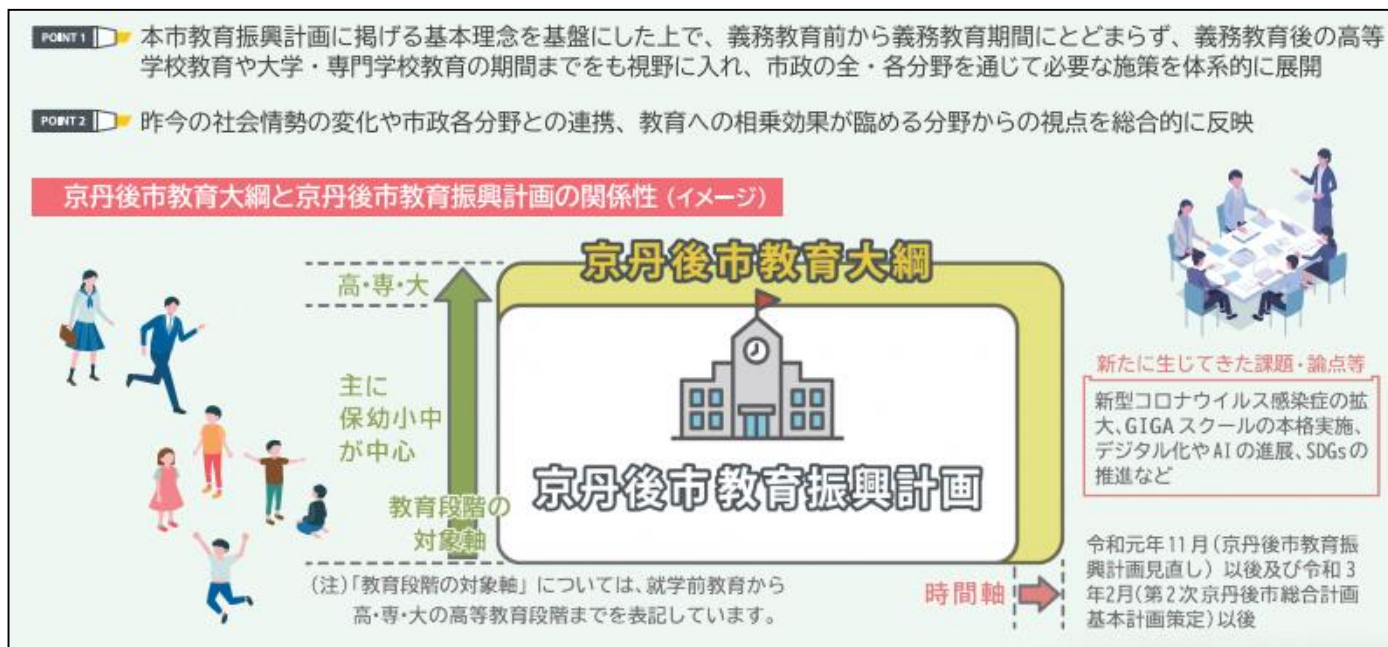
◆京丹後市が目指す教育

- 心豊かにたくましく 幸福な未来を切り拓く力を育む教育
- ふるさとへの愛着と誇りを持ち 新しい価値を創りだす力を育む教育

京丹後市教育大綱

◆理念達成に向けた4つの柱

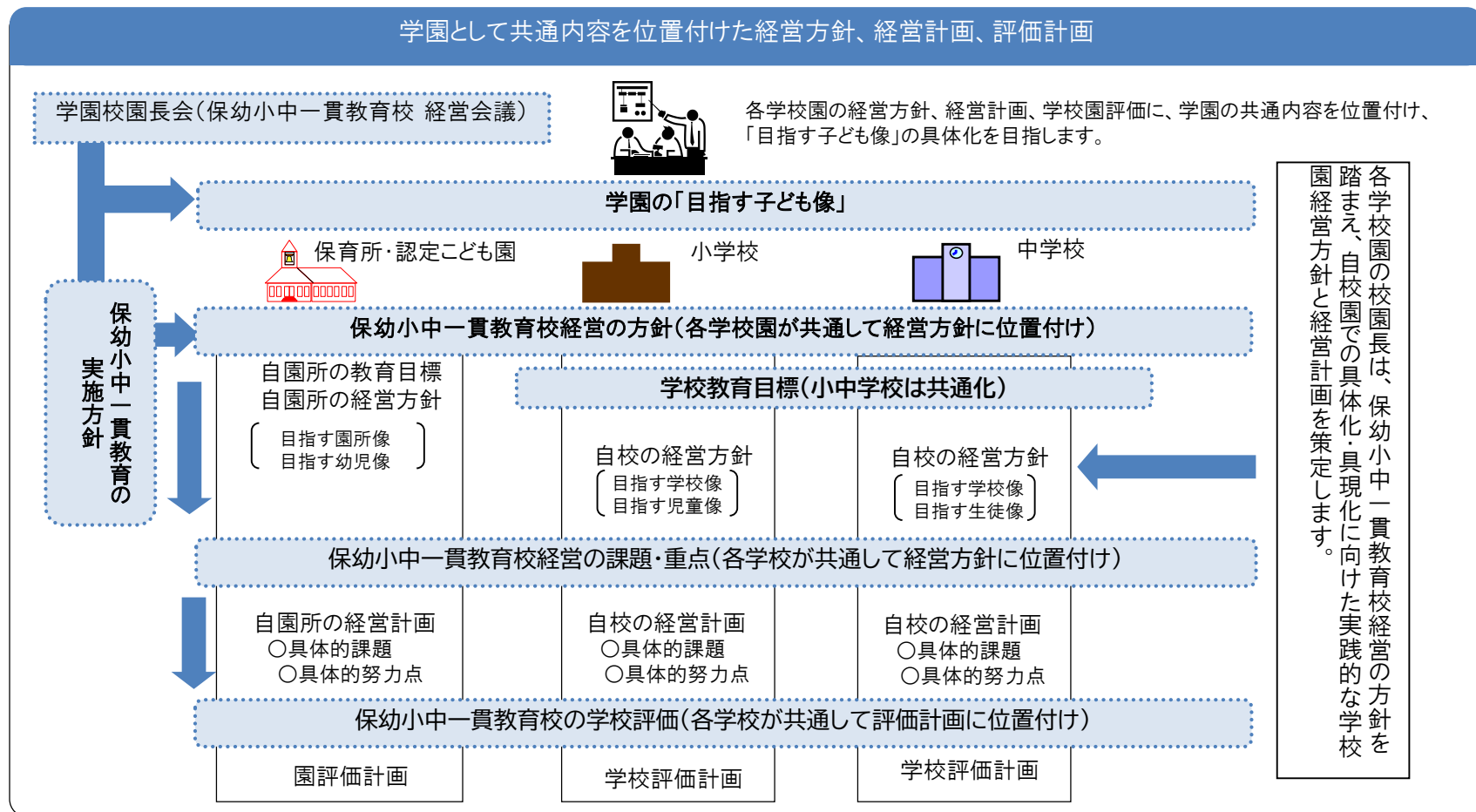
- 【1の柱】**自ら新しい価値を創造し未来を切り拓く、令和の時代の創造的な教育の構築
- 【2の柱】**心豊かに支え合い、生き抜く力を育み、誰ひとり置き去りにされない社会と教育の実現
- 【3の柱】**ふるさとへの愛着・誇りの涵養とこれを基礎とする地域づくり
- 【4の柱】**教育界と産業界のインクルーシブな(包括的・一体的な)教育環境の構築



3 教育の現状 -京丹後市の教育施策-

②特徴的な教育施策 (ア)保幼小中一貫教育

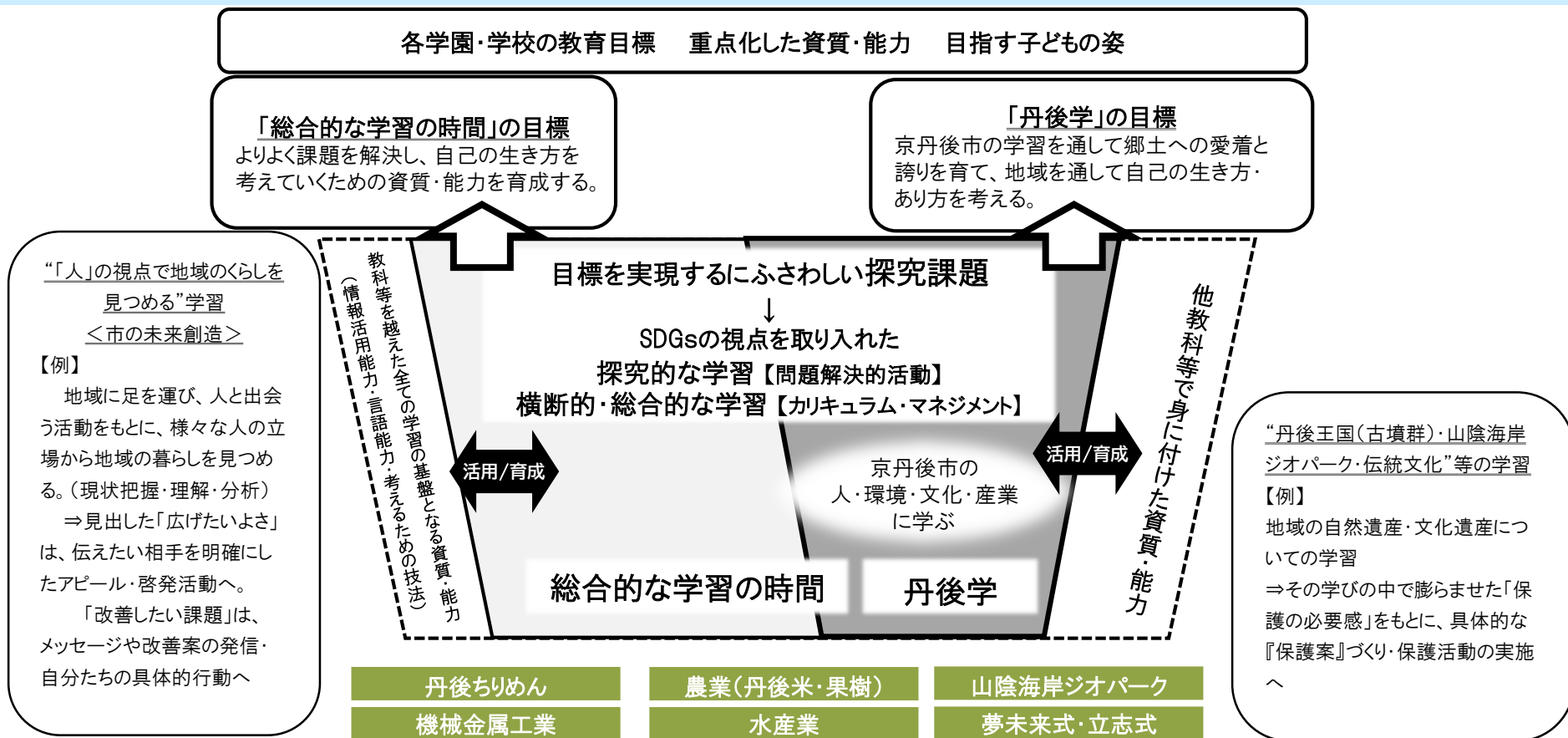
- 義務教育課程修了時を見据えた系統的で一貫性のある教育を進めることが重要であるとの認識のもと、就学前からの10年間にわたる保幼小中一貫教育を平成28年度より市内全中学校区で実施。



3 教育の現状 -京丹後市の教育施策-

②特徴的な教育施策 (イ)「丹後学」

- 小中学校の「総合的な学習の時間」の中で行っている地域に関する学習。各校が地域の“人・環境・文化・産業”などから具体的なテーマを設定し、探究的な学びに取り組んでいる。
- 丹後学を学んだ子どもたちが、大学生になり、大学の講座の中で小・中学校時代に学んだ「丹後学」を語る学生も出てきている。



3 教育の現状 -京丹後市の教育施策-

今後の「丹後学」のあり方について ~子どもが主役となる「丹後学」、子どもが高まる「丹後学」の実現に向けて~

現行の『モデルカリキュラム』も、作成から約7年。

☐(社会情勢の面) 多くの変化が急速に進行

(学校教育の面)「資質・能力の育成」を主眼とする『学習指導要領』への改訂

「丹後学」での
学びのあり方も

アップデートが必要



現行「丹後学」モデルカリキュラム

【特徴】

- ・各期の指導目標や指導事項を明確に設定
- ・“学び方の習得”や“言語活動の充実”の視点を重視した指導計画案の提示

【成果】

- 様々な地域素材(人・環境・文化・産業)との出会い
- 各種メディアを活用した情報収集力の向上
- 自らの学びや考えを発信する経験の蓄積

【課題】

- △「知る・触れる」ことが目的化され、内容・活動が中心となった単元構想
※「丹後学」のねらい(郷土への誇りと愛情の育成/自己の生き方・あり方についての思考)に対する意識不足
- △「探究的な学習の過程」の量的・質的不十分さ

社会情勢の変化

【例えば】

- ・感染症の拡大 ・情報化の進行 ・価値の多様化
- ・世界規模でのSDGsの取組推進
⇒【本市】R3・5月 国の「SDGs未来都市」選定
同・9月 「京丹後市SDGs未来都市計画」策定

「学習指導要領」改訂のポイント

- ・“資質・能力の育成”の目的化
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
- ・教育活動の質を高め、学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントの確立

令和4年度 一部改訂

(令和5・6年度に活用)



①「丹後学」のねらいの焦点化

ねらいを「①地域への愛着と誇りを育てる」と「②自己の生き方・あり方を考える」に絞り、各期の指導目標とともに提示

☐【効果】「丹後学」に関わる構想・実施・評価の柱が明確に！



②「探究の過程」を学習活動の中心に

ねらいの達成にふさわしい課題設定とその追究・解決を目的とした探究的な学習を実施

☐【効果】地域の良さや課題が子どもたちの“自分事”に！



③「保幼小中一貫」の視点の導入

「丹後学」の学びと、幼児期の「遊び」を通した総合的な学びや小1・2年生の「生活科」の学びとのつながりを再確認

☐【効果】子どもが“学びの主体者”となる「丹後学」に！



④「SDGs」の視点の導入

地域素材というローカルなテーマに「SDGs」というグローバルな視点を重ねることで学びの質的向上を促進

☐【効果】「丹後学」がより課題解決的・グローバルな学びに！

※「グローバル」=地域性を考慮しながら地球規模で考え、
地域で行動すること



R4年度改訂時のポイント①～④を引き継ぎつつ…



⑤「デザイン思考」・「STEAM教育」の導入

「丹後学」における課題解決・探究の過程に、「Kyotango Sea Labo」のMindSetや手法を活用

☐【効果】“人”を真ん中に置いたクリエイティブな課題解決・目的達成型の学びを積み上げることで、子どもたちの自発性・創造性・判断力・問題解決力などを育てる「丹後学」に！



3 教育の現状 -京丹後市の教育施策-

②特徴的な教育施策 (ウ)コミュニティスクール(学校運営協議会)

- 学校(保育所、認定こども園含む。)、保護者、地域住民等が相互に密接に連携し、一体となって学校運営の改善及び地域の特色を生かした学校づくりを進め、子ども達の健全育成に取り組むため、令和2年4月に「京丹後市学校運営協議会規則」を制定し、各中学校区(6つの学園)に、保育所・子ども園・小中学校合同の学校運営協議会を設置。

■組織構成(R4)

各学園運営協議会	構成員数	区分内訳				委嘱期間
		(1)	(2)	(3)	(4)	
峰山学園学校運営協議会	21	3	15	2	1	自 令和4年4月1日 至 令和6年3月31日
大宮学園学校運営協議会	22	5	14	2	1	
網野学園学校運営協議会	21	3	16	1	1	
丹後学園学校運営協議会	22	6	10	5	1	
弥栄学園学校運営協議会	16	3	11	1	1	
久美浜学園学校運営協議会	22	2	18	1	1	
計	124	22	84	12	6	

<構成員区分>

- (1) 学校の保護者
- (2) 学校の校区内の地域住民
- (3) 校長及び教職員
(保育士及び保育教諭を含む)
- (4) その他教育委員会が適当と認める者

- 学校運営協議会・・・保護者や地域の方々に学校運営に参画し、学校・家庭・地域が一体となって子ども達を育んでいくための組織
- コミュニティスクール・・・学校運営協議会が設置されている学校



3 教育の現状 -京丹後市の教育施策-

②特徴的な教育施策 (エ)グローバルリーダー育成事業



○ 背景・趣旨

令和3年、京丹後市が国の「SDGs未来都市」に選定されたことを受け、「京丹後市SDGs未来都市計画」を策定し、より一層グローバル社会の一員として協力していくこととなった。

教育を通じて、一人ひとりの子どもが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、すべての年代において持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力をはぐくむこととする。

特に、学校教育では、児童生徒が主体的に課題を発見し、多様な人と協働しながら問題解決的な学習や教科横断的な学習(STEAM教育につながる学習を含む。)の充実を図り、ものごとに柔軟に対処する力や新しい価値を創造する力を育成します。さらに、グローバルな視点をもって国内外問わずどこでも活躍するための基盤として外国語教育を充実させ、英語運用能力を高め、世界に目を向けながら、地域や社会の発展に貢献できる子どもの育成を目指す。

○ 育てたい3つの資質・能力

Design ～未来をつくり出す力～

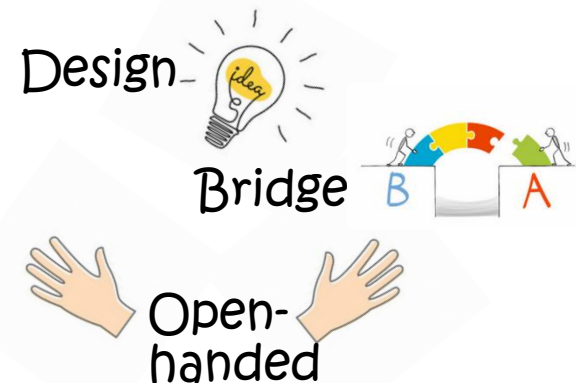
- ◆様々なことに興味をもち、新しいことに挑戦することができる
- ◆長い時間軸でものごとを考え、新しい未来(価値)をつくり出すことができる

Bridge ～世界の人とつながるコミュニケーションの力～

- ◆相手の立場を尊重しつつ、自分の思いや考えを自信をもって伝え合うことができる
- ◆相手の考えを肯定的に受け入れ、考えや視点を広げることができる

Open - handed ～お互いを認め合う心～

- ◆自分のよさや可能性を認識し、個性の違いや多様性を認めることができる
- ◆郷土への誇りと愛情をもつとともに、他国の歴史と文化を尊重することができる



3 教育の現状 -京丹後市の教育施策-



育てたい
3つの資質・能力

未来をつくり出す力の育成

Design



世界の人とつながる
コミュニケーション力の育成

Bridge



お互いを認め合う心の醸成



関連する京丹後市の主な事業

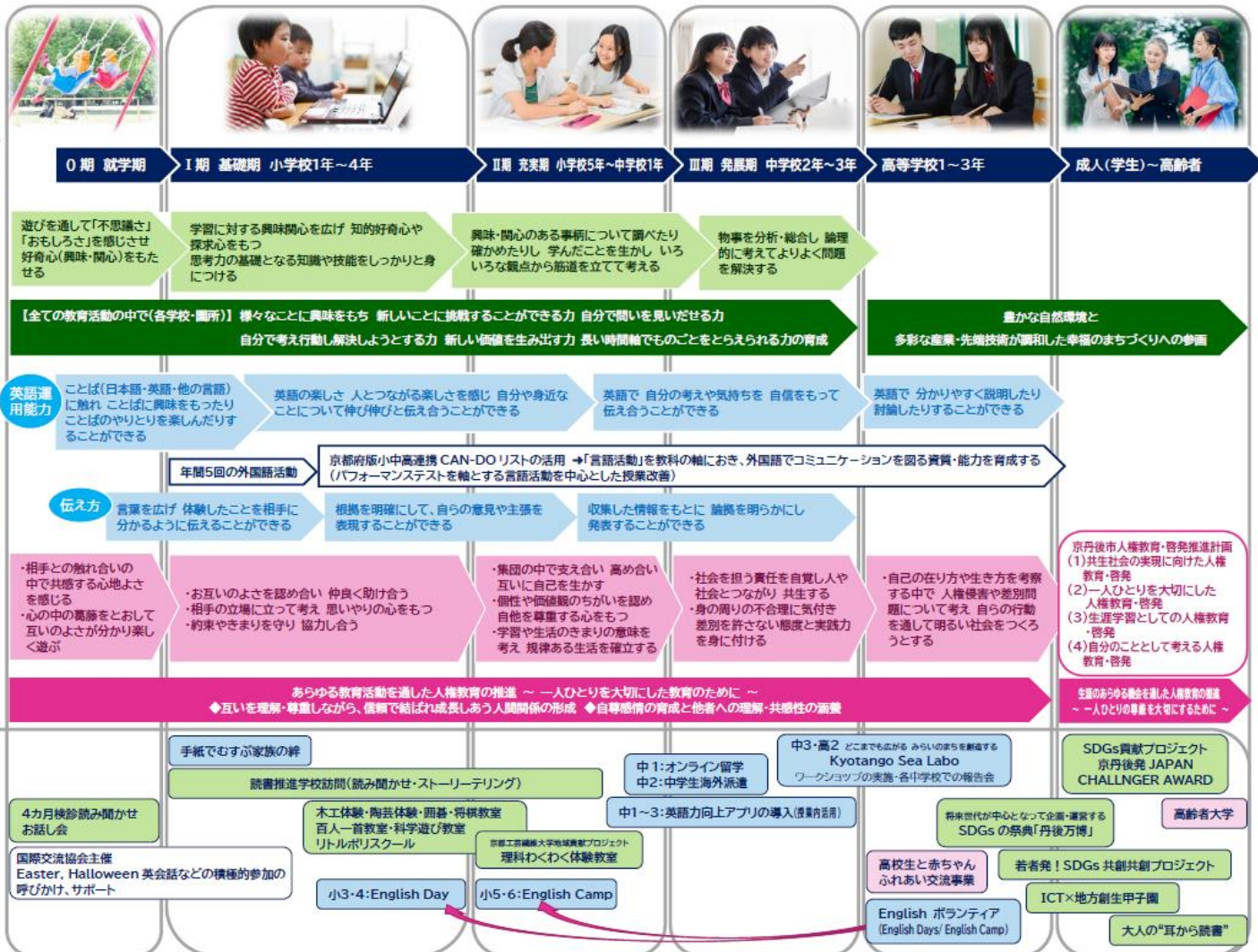


グローバル人材を育てるために ~The Development of Global Leaders in Kyotango~

国際感覚を持ち 将来グローバル社会で活躍できる人材を育成するため 年代・世代に応じ 多様な価値に触れる機会等を創出します

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

令和5年1月
京丹後市教育委員会



3 教育の現状 -京丹後市の教育施策-

○ グローバリリーダー育成事業 主な取組

Kyotango English Day(小学3・4年生対象)

小学校中学年外国語活動の学びを基盤に、AETを中心としたネイティブスピーカーと触れ合う中で、英語でコミュニケーションをとる楽しさを感じさせ、英語学習への興味関心を高める。

【特に高めたい資質・能力】
世界の人とつながるコミュニケーションの力

オンライン留学(中学1年生対象)

海外の生徒とのオンライン交流を通して、京丹後市の魅力を再発見し、外国の文化や生活を知り、視野を広げる。
自身の英語力の伸びを感じ、学習意欲を向上させる。

【特に高めたい資質・能力】
世界の人とつながるコミュニケーションの力・お互いを認め合う力

どこまでも広がる 미래のまちをそうぞうする

Kyotango Sea Labo (中学3年生・高校2年生対象)

「丹後学×デザイン思考×STEAM教育」の教育プログラムのもとに、京丹後市の素材を生かし、人間中心の発想プロセスを通して、未来のまちをデザインする次世代型リーダーの育成を目指す。

参加生徒による報告会を各校で行い、学びを波及する。

【特に高めたい資質・能力】未来をつくり出す力
世界の人とつながるコミュニケーションの力・お互いを認め合う力

English Days English Campのボランティア(高校生対象)

本事業に参加する児童のサポートをする。各事業の運営に参画する中で、自身の英語力の自信を高め、国際感覚の醸成を図る。

【特に高めたい資質・能力】未来をつくり出す力
世界の人とつながるコミュニケーションの力・お互いを認め合う力

Kyotango English Camp(小学5・6年生対象)

AET及び海外からの留学生等との合宿を通して、英語漬けの1泊2日を体験する。
児童の積極的な発話を生む活動を行い、英語でつながる喜びを体感する。

【特に高めたい資質・能力】
世界の人とつながるコミュニケーションの力・お互いを認め合う力

中学生海外派遣事業(中学2年生対象)

海外でのホームステイや現地の学校との交流を通して、外国の生活や文化を直接体験する。
10日間プログラムにより、英語でのコミュニケーションに自信をつける。

【特に高めたい資質・能力】
世界の人とつながるコミュニケーションの力・お互いを認め合う力

英語力向上アプリ(教育課程内:中学1～3年生対象予定)

市内中学生全員に配布し、言語活動を中心とした授業を通して、「自分の思いや考えを英語で自信をもって発信できる生徒の育成」を目標に、学校教育課程内で活用する。

【特に高めたい資質・能力】
世界の人とつながるコミュニケーションの力



3 教育の現状 -京丹後市の教育施策-

- 英語力向上アプリ「ELSA Speak」をすべての中学2年生に導入。
- 「ELSA Speak」をすべての中学校、全学年(1年・3年に拡充予定)に導入し、継続した発音学習等の機会を提供。

- 1. 背景** ・R4年度より市内中学2年生を対象に導入した英語力向上アプリ「ELSA Speak」は、導入から約半年で生徒の英語に対する意欲の向上や意識変化がみられる。
・本アプリを中学3年間を継続して使用することで、英語力の向上等、一層の効果が期待できる。
- 2. 目的** ・市内中学2年生を対象としていた本アプリ導入に**中学1年生・3年生を追加**することで、学校や家庭において、継続した発音や会話学習の機会を提供し、英語で自分の思いや考えを自信をもって伝え合うことができる生徒の育成を目指す。

3. 事業内容

- AIによる英語力向上アプリ「ELSA Speak」の導入
対象：**市内全中学1～3年生全員**
内容：・英単語や英文の発音矯正
・専門員による対面またはオンラインでの指導助言の実施（各学期1回）
・英検（実用英語技能検定）準2級・3級・4級に対応した教材の追加（追加）

5. これまでの取り組み状況

- R4.4 市内全中学2年生にアカウント配布、各校にて使用開始

4. 想定される効果

- 生徒の「英語力」を確実に伸ばす。
 - ・発音を向上させ、英語を話す自信をつける。
 - ・英語科担当者が、学習状況を把握し、生徒の課題克服に働きかける。
- 「確かな力」と「自信」を身につけ、進路、将来につなげる。
- 「ICT×英語教育」で、都市部に負けない教育の充実を図り、グローバルリーダーを育成する。



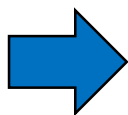
導入後にみられた変化（教員の声、生徒の感想から）

【教員の声から】

- ・「聞く」「話す」をアプリを使って**繰り返し練習することで、英文の文構造に慣れ**、英文が書けなかった生徒が**書けるようになった**。（定期テストでも、成果が見られた。）
- ・**英語の学習に課題のある生徒**も、ゲーム感覚で取り組めることから、**意欲的**になった。

【生徒の感想から】

- ・集中的に家庭学習することでだんだん単語や英文が読めるようになり**自信がついた**。
- ・**自分の苦手なところが分かって**、より良い発音ができるように意識して練習できた。
- ・**LやSHの発音**がうまくできていなかったけど、**ELSAでコツがつかめた**。
- ・パフォーマンステストで満点が取れたり、**自分でも以前より上手に発音できるようになっていると実感**している。
- ・**苦手だった英語が好き**になり、ELSAで身につけたことや英語で勉強したことを活かして、**ALTとたくさん話してみたい**。



導入から半年後

従来の英語の授業 教員の悩みと子どもたちの思い

【教員】一斉指導では限界がある！

- ・発音や音読指導は行いが、個別の指導にまでは至らず。
- ・生徒一人ひとりの発音の伸びや変容を確認することは難しい。
- ・リスニングの指導の機会はあるが、一斉に同じ回数聞かせる。

【生徒】自分の伸びが分からないから自信がもてない！

- ・十分に教えてもらっていないのに、テストはある。
- ・発音や音読練習をがんばっても、何をどのように改善すべきか分からない。



3 教育の現状 -京丹後市の教育施策-

- どこまでも広がる 미래のまちを創造する「Kyotango Sea Labo」
- 丹後学、デザイン思考、STEAM教育の要素を融合させた6日間のプログラム(ワークショップ)を実施

- 1. 背景**
- ・「全国学力・学習状況調査」(R3年)において、「自分にはよいところがある」、「将来の夢がある」の項目で、肯定的回答が全国を下回る。
 - ・「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表わされている」、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」の項目で、肯定的回答が全国や府を下回る。
 - ・京丹後市には高等教育機関(大学等)が存在せず、教育における地理的ハンディキャップを超えた質の高い教育機会が求められる。

2. 事業内容等

① 目的

本市の産業集積の特色等を生かしつつ、SDG sにも通じるSTEAM教育を通して、「**国際感覚を持ち、グローバル社会で活躍できるイノベティブなリーダー人材を育てる**」ことを目指します。

② 参加対象

市内中学校に通う**中学3年生**
市内在住の**高校2年生**

※R4年度は35人(中3:28人、高2:7人)が参加

③ プログラムの流れ

Day1~Day6の6日間プログラム

京丹後はこんなに面白い
地元の企業と交流しよう



<R4年度参画地元企業等>

- ・木下酒造(有) (日本酒蔵元)
- ・(株)Sazae Japan (ITコンサルティング)
- ・(株)U設計室 (建築設計)
- ・社会福祉法人みなやま福祉会 (児童・高齢者・障害福祉)
- ・田勇企業(株) (織物)
- ・丹後織物工業組合 (織物)
- ・日本玄承社 (刀鍛冶)
- ・ヒロセ工業(株) (精密部品加工・金型)
- ・描く人 (デザイナー兼アーティスト)

地域課題の解決の仕方
海外大学からデザイン思考を学ぼう



<連携推進体制>

- ・トロント大学 (カナダ)
- ・スタンフォード大学 (アメリカ)
- ・一般社団法人スカイラボ

<支援体制>

R4年度は9名のバイリンガル大学生がサポート

わたしたちが作る京丹後
未来の姿をデザインしよう



京丹後市でこんなこともやってるの？
こうすればもっと面白いまちになるかも！
「京丹後の潜在力や可能性」を地元企業の関係者
から学びます。

そういう発想があったなんて……
となると、この問題の解決方法はこうだ！
探求型カリキュラムを通して、ものづくり課題解決の
ための人間中心の「新しい発想方法」を学びます。

まちをこう創ればきっと楽しい！
自分がデザインしたまちに変えていく！
一緒に「未来の京丹後をデザイン」し、
英語でプレゼンテーションをします。

④ 得られる スキル・経験

進路選択に役立ちます！

企業の方との交流を通し、将来のキャリア
や進路を考える機会となります。

新しい時代に適したデザイン・提案力が身に付きます！

アメリカシリコンバレーで注目の最新のデザインメソッド「デ
ザイン思考」を学べます。

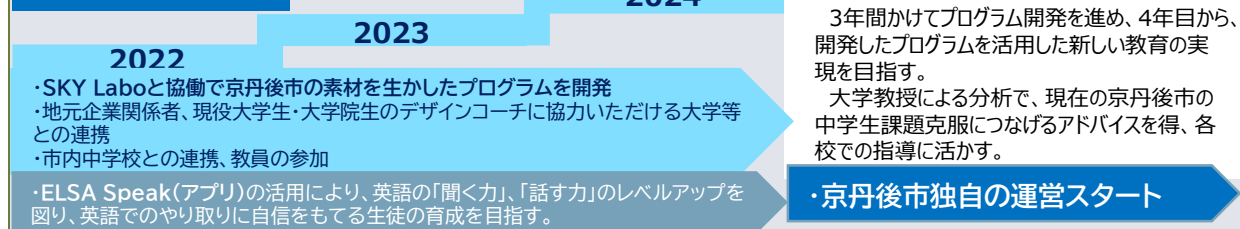
実践的な英語力UP！

英語でプレゼンテーションする力が身に付きます。

⑤ 期待する効果

- ✓ STEAM領域への関心・イメージの向上
- ✓ クリエイティブコンフィデンス(自らの創造性に対する自信)向上
- ✓ エンパシー(共感力)向上
- ✓ キャリアに対する意識変革

⑥ 実施スケジュール



3 教育の現状 -京丹後市の教育施策-

②特徴的な教育施策 (オ)GIGAスクールの整備状況、活用状況

- 国のGIGAスクール構想に基づき、令和2年度、児童生徒・教職員への1人1台タブレット、高速校内LAN・電子黒板などのICT環境を全小中学校で整備。
- 令和2年度Microsoft TEAMSを活用したオンライン授業を開始、令和3年度タブレットの持ち帰り学習を試行的に開始し、令和4年度からは全小中学校で実施している。
- インターネット環境がない家庭への普及促進、低所得世帯への金銭的支援・Wi-Fiルータ貸出しなどを行い、ICTを活用した家庭学習に取り組んでいる。

■GIGAスクール整備状況

ハード	・高速校内LAN(無線)整備 ・児童生徒教職員1人1台のタブレット端末(iPad)整備 ・全普通教室・特別支援教室へ電子黒板整備 ・オンライン授業用Wi-Fiルータ整備	全23校 4,252台 全23校 300台
ソフト	・授業支援システム「ロイロノート」を導入 ・AIドリルシステム「ミライシード」を導入 ・英語力向上アプリ「ELSA Speak」を導入	全23校 全23校 全中学2年生

■GIGAスクール活用状況

児童生徒 教職員	・日々の授業や校内・校外活動でタブレット端末を活用 ・コロナ学級閉鎖などでオンライン授業や授業配信の実施 ・各種会議・研修会などのオンライン化・ペーパーレス化 ・タブレット持ち帰り学習を実施 (インターネット環境がない低所得世帯にはWi-Fiルータ貸出)	全23校 全23校 全23校 全23校
-------------	---	------------------------------



高速校内LAN整備



1人1台タブレット整備



電子黒板整備



オンライン授業用Wi-Fiルータ整備



3 教育の現状 -京丹後市の教育施策-

②特徴的な教育施策 (カ)学校適正配置

- 京丹後市学校再配置基本計画【平成22年12月策定】
複式学級の早期解消が基本方針。京丹後市が誕生した平成16年4月に31校あった小学校が17校、9校あった中学校が6校に。
- 京丹後市学校適正配置基本計画【令和4年2月策定】
「学校再配置基本計画」の基本方針を引き継ぎ、令和3年度から概ね10年間を計画期間とする。
義務教育課程修了時における「生きる力」を育てるため、また、町域内での保幼小中一貫教育の実現を展望し、複式学級の出現を未然に防止するとともに、児童生徒数の推移と地理的な条件や財政的な影響も参酌しつつ、原則、前期計画期間内に10人を下回る学級の出現が複数予想される小学校を、適正配置の検討の対象校とする。

■京丹後市合併以降の小中学校数の推移

※令和5年度まで小学校17校、中学校6校を維持。その後、**京丹後市学校適正配置基本計画**では、前期計画期間内(令和7年度まで)に複式学級の発生が予測される2つの小学校を適正配置としている。



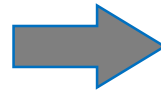
年月	京丹後市		
	小学校	中学校	計
H16.4	31	9	40
H17.4			
H18.4			
H19.4			
H20.4			
H21.4	30	9	39
H22.4			
H23.4	29	9	38
H24.4	26	8	34
H25.4	20	7	27
H26.4	20	6	26
H27.4	19	6	25
H28.4	19	6	25
H29.4	18	6	24
H30.4	17	6	23
H31.4			



3 教育の現状 -京丹後市の教育施策-

■学校再配置基本計画(平成22年12月策定)に基づく配置状況

【平成23年度】**中学校9校、小学校30校**



【令和3年度】**中学校6校、小学校17校**

＜再配置前（平成23年度）＞

町域	中学校区	生徒数	学級数	学校名	児童数	学級数
峰山町域	峰山中学校	421	13	峰山小学校	201	9
				吉原小学校	139	6
				五箇小学校	56	6
				新山小学校	202	9
				丹波小学校	91	6
				長岡小学校	102	6
大宮町域	大宮中学校	329	10	大宮第一小学校	547	20
				大宮第二小学校	90	6
				大宮第三小学校	40	6
網野町域	網野中学校	389	12	網野北小学校	282	12
				網野南小学校	232	10
				郷小学校	54	5
				島津小学校	101	6
				三津小学校	21	4
	橘中学校	92	3	橘小学校	162	7
丹後町域	間人中学校	124	4	豊栄小学校	83	6
	宇川中学校	39	3	間人小学校	151	6
弥栄町域	弥栄中学校	196	7	宇川小学校	61	6
				吉野小学校	74	6
				湯谷小学校	60	6
				鳥取小学校	99	6
				黒部小学校	73	6
				新間小学校	7	3
久美浜町域	久美浜中学校	174	6	久美浜小学校	132	6
				田村小学校	45	6
				神野小学校	70	6
				湊小学校	55	5
	高龍中学校	104	4	川上小学校	48	6
				海部小学校	54	6
				佐妻小学校	73	6
計	9校	1,868	62	30校	3,405	204



＜再配置後（令和3年度）＞

町域	中学校区	生徒数	学級数	学校名	児童数	学級数
峰山町域	峰山中学校	321	10	峰山小学校	119	6
				いさなご小学校 (平成28年4月)	182	8
				しんざん小学校 (平成30年4月)	194	6
				長岡小学校	63	6
大宮町域	大宮中学校	270	9	大宮第一小学校	422	15
				大宮南小学校 (平成25年4月)	93	6
網野町域	網野中学校 (平成27年4月)	300	9	網野北小学校	172	6
				網野南小学校 (平成26年4月)	155	6
				島津小学校 (平成24年4月)	56	6
				橘小学校	90	6
丹後町域	丹後中学校 (平成26年4月)	106	5	丹後小学校 (平成31年4月)	148	7
				宇川小学校	44	6
弥栄町域	弥栄中学校	121	5	吉野小学校	60	6
				弥栄小学校 (平成26年4月)	139	6
久美浜町域	久美浜中学校 (平成25年4月)	208	6	久美浜小学校	112	6
				かぶと山小学校 (平成25年4月)	149	7
				高龍小学校 (平成26年4月)	145	6
計	6校	1,326	44	17校	2,343	115



3 教育の現状 -京丹後市の教育施策-

②特徴的な教育施策 (キ)奨学金制度

- 経済的理由により修学困難なかたに対した奨学金の給付及び貸付
- 地域産業などの担い手となる若者の人材確保及び定住を推進するため、京丹後市内に定住するかたに対した定住促進奨学金返還支援制度

■給付奨学金

(ア) 対象者

- ・市民税非課税世帯及び市民税所得割非課税世帯
- ・大学等、専修学校に在学する人
- ・他制度の給付型奨学金を受けていない人 など

(イ) 給付金額

- ・市民税非課税世帯に属する学生 月額12,000円
(年額14万4,000円)
- ・市民税所得割非課税世帯に属する学生 月額10,000円
(年額12万円)

■貸付奨学金

(ア) 対象者

- ・申請年度の4月に大学等、専修学校への進学希望者 など

(イ) 貸付限度額

- ・修学支度金(正規の修業年限の範囲内) 年額100万円
- ・入学支度金(大学等に進学するときの1回限り) 70万円

■定住促進奨学金返還支援補助金

京丹後市に定住し、かつ就業(京丹後市通勤圏)するかたの奨学金の返還を最大10年間で360万円補助

(ア) 対象者

大学等を卒業した満30歳未満のかたで、京丹後市に継続して10年以上定住し、かつ正規雇用等により就業するかた(国家公務員又は地方公務員は除く。)

(イ) 支援となる奨学金

独立行政法人日本学生支援機構ほか

(ウ) 支援の内容

補助金の交付を申請する年度の前年度の10月1日から起算した1年間における各月の奨学金返還金相当額(3万円を限度)の合計額として年額36万円以内、期間は、継続して10年以内とする。

京丹後市に
定住し、かつ就業する方の
**奨学金の返還を
支援します!**
最大10年間で360万円補助

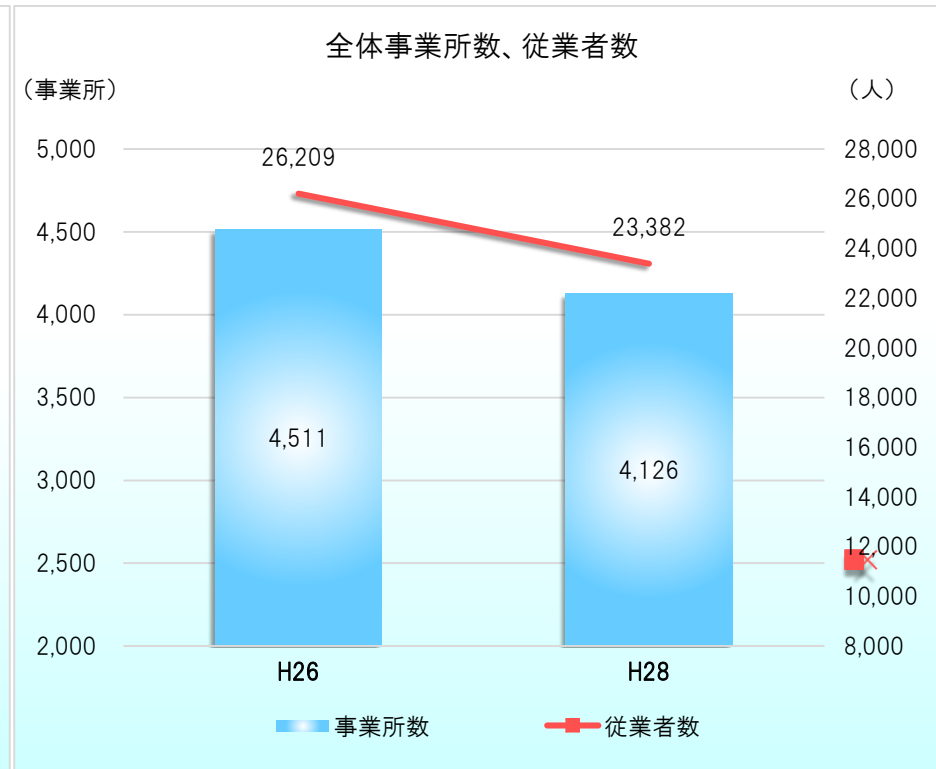
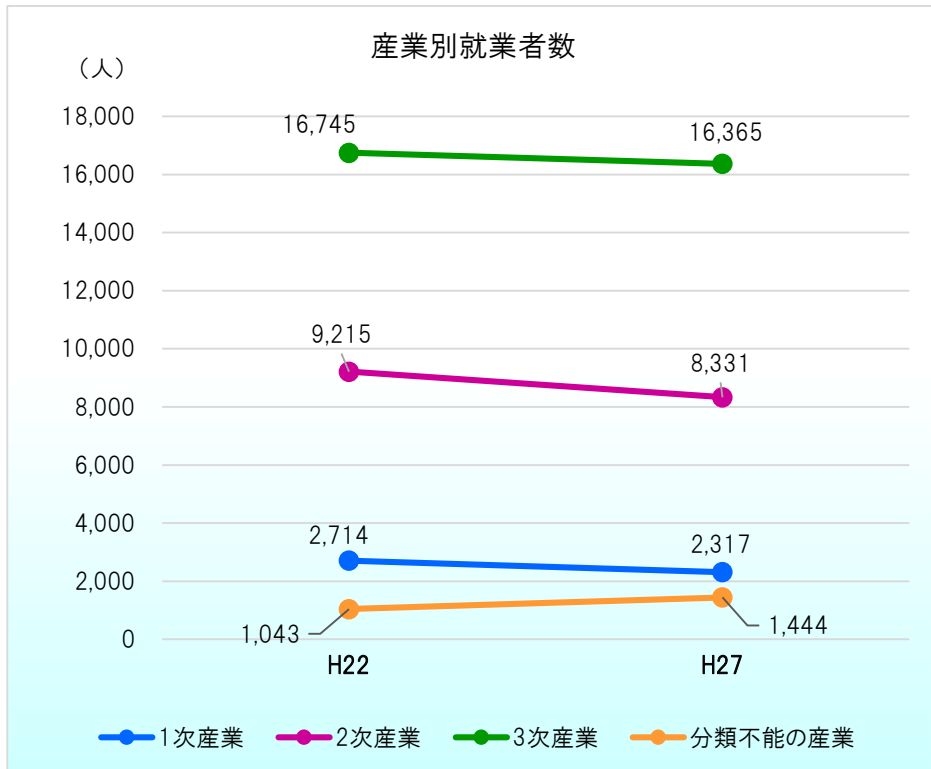
期間中に返還した奨学金の月額3万円(年額36万円)を限度とします。

京丹後市では、地域産業などの担い手となる若者の人材確保及び定住を応援するため、市内に定住し、かつ就業する方を対象に、大学等の在学中に借り入れた奨学金の返還相当額について補助します。



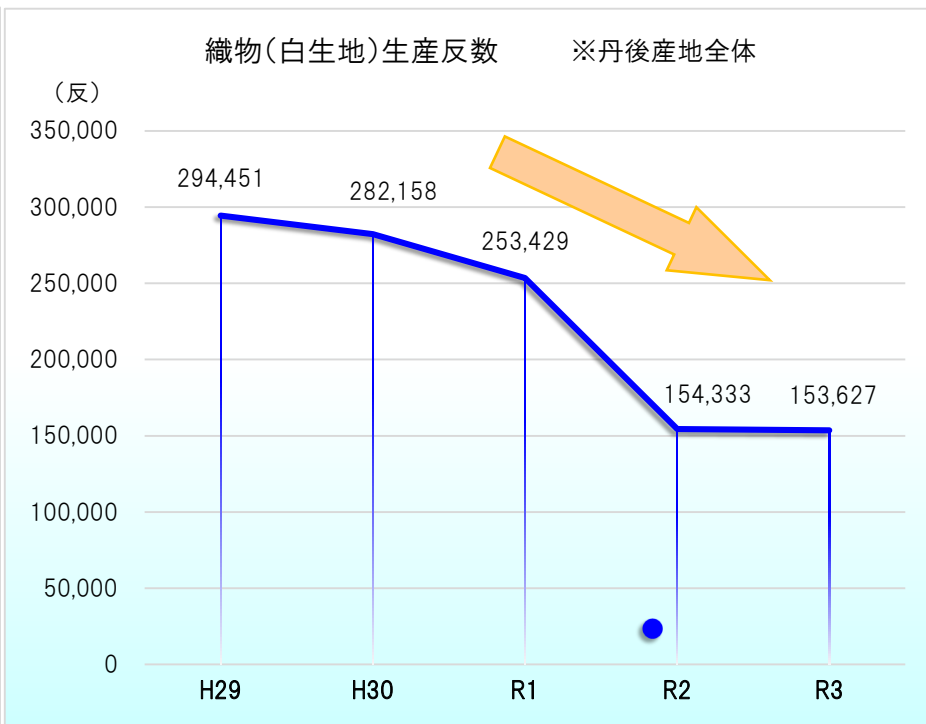
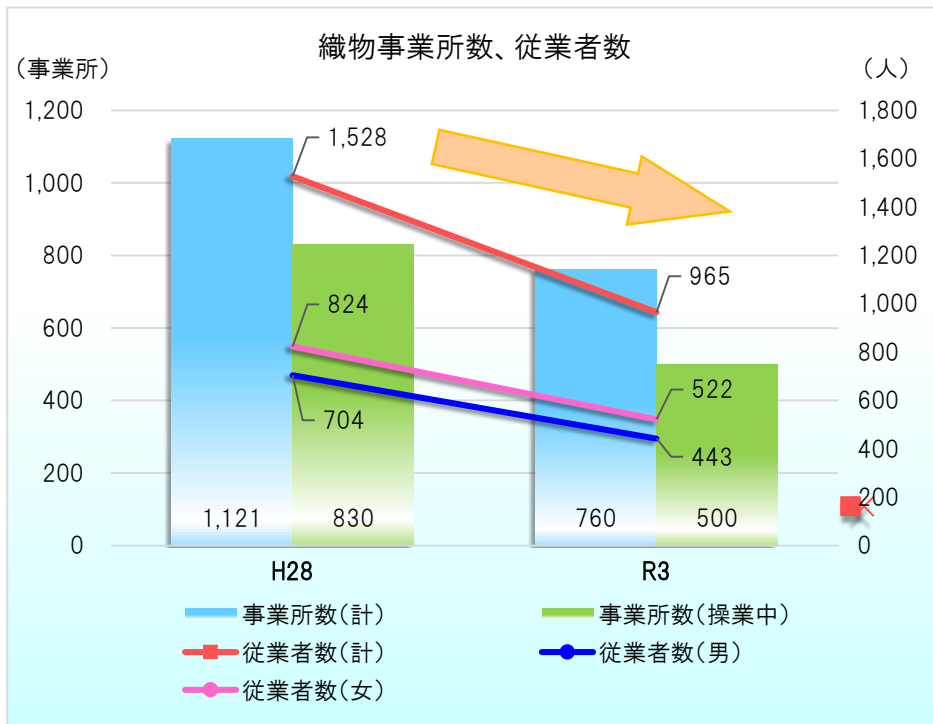
4 産業の現状 -産業別就業者数、全体事業所数・従業員数-

- 長期的にみると、本市では、就業人口全体の縮小とともに、就業人口比率が大きく変わっており、第一次産業、第二次産業が大幅に減少(主に織物業)し、相対的には第三次産業が増加(主要因はサービス業)している。
- 平成27年の産業別就業人口は、第一次産業が8.6%、第二次産業が30.8%、第三次産業が60.6%を占めている。
- 事業所の減少が多い要因としては、小規模事業者の高齢化による廃業が多いことなどによる。



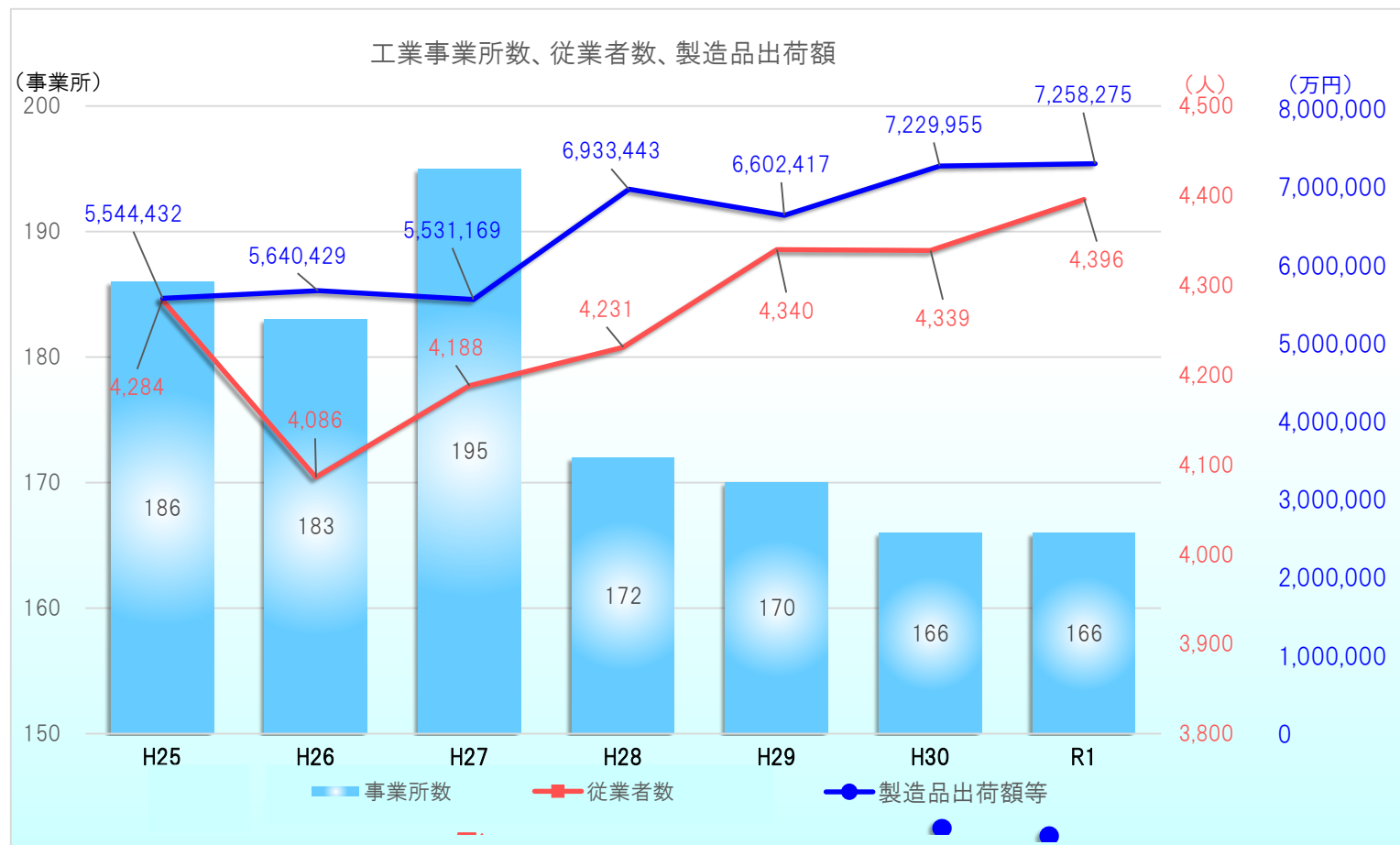
4 産業の現状 -織物業-

- 丹後の発展を担ってきた丹後ちりめんを中心とする織物業は、和装需要の減退や個人消費の減少、海外製品の相対的な増加などにより、織物事業所数、従業員数ともに大きく減少している。
- 織物(白生地)生産量は、昭和48年の920万反をピークに減少を続け、令和3年には、新型コロナウイルス感染症の影響もあり15万反まで減少、最盛期の約1.6%の生産量まで減少している。



4 産業の現状 -工業-

- 基幹産業である機械金属業が製造品出荷額、雇用の面においても本市の産業を牽引しており、増加傾向で推移している。

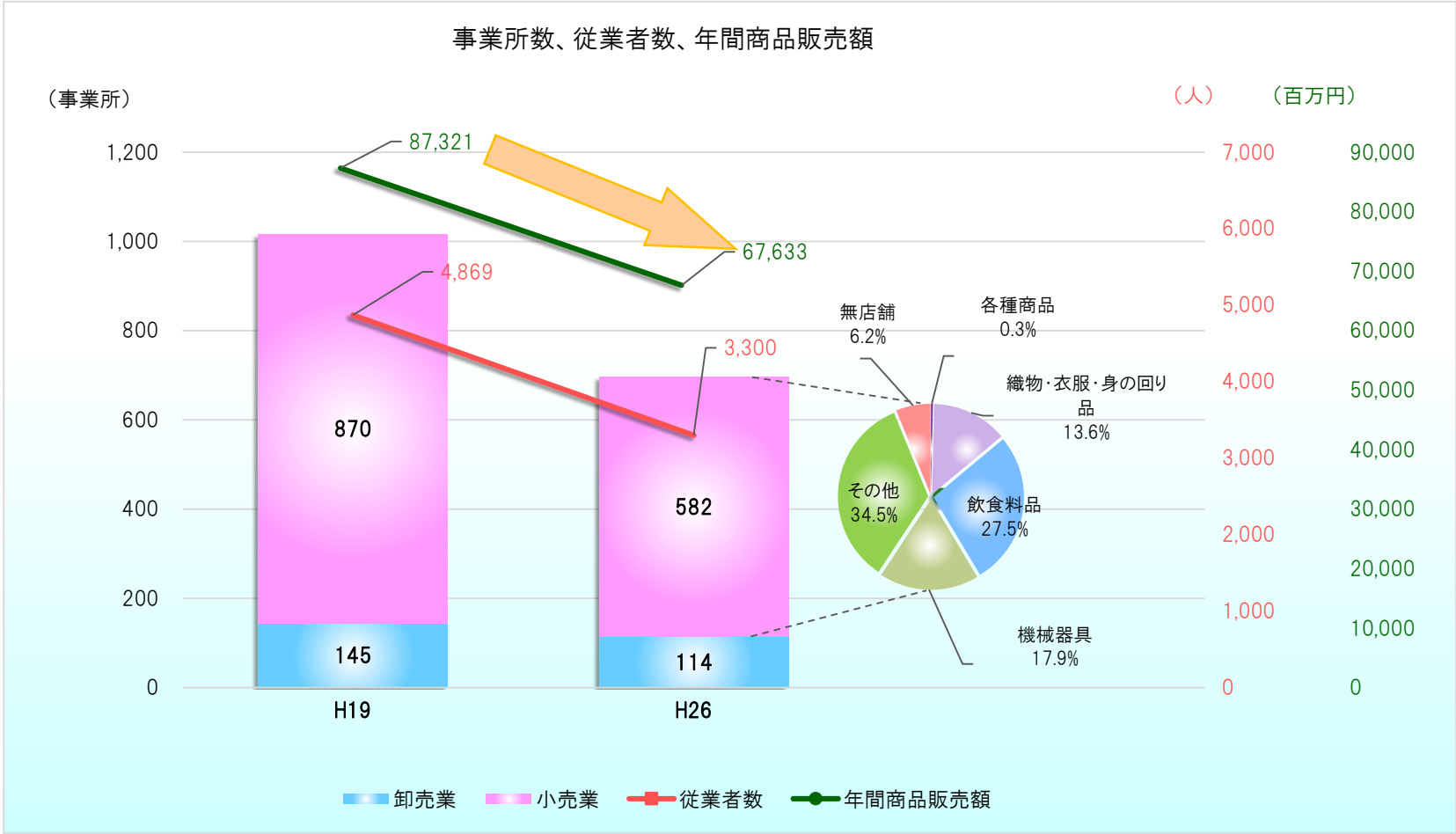


出典：市総務課(工業統計調査)



4 産業の現状 -商業-

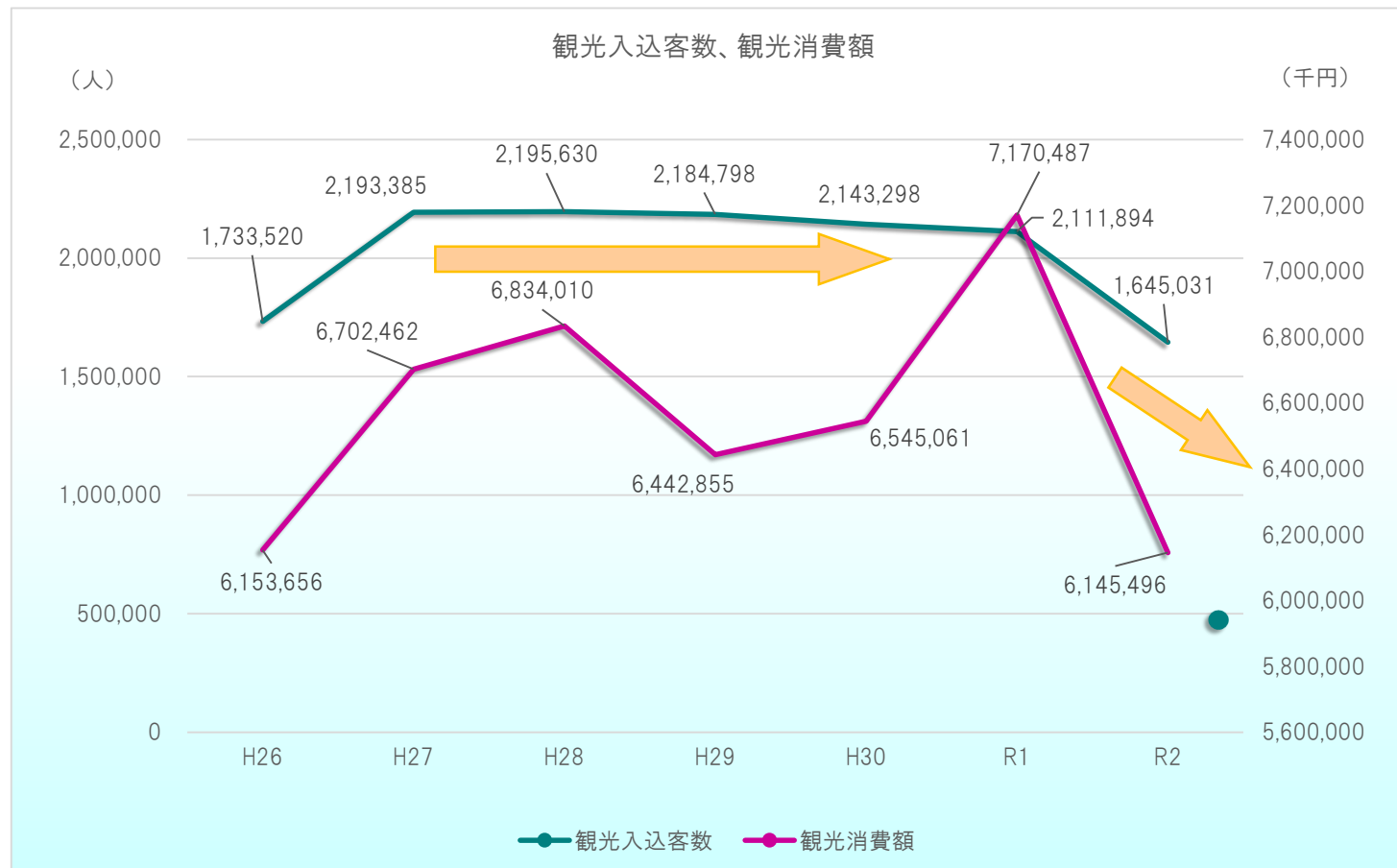
○ 人口減少、小売業の形態や消費者の購買ニーズの変化(大型店の出店、ネット販売の普及など)により、地域の小規模小売店は、高齢化とともに廃業、閉店による減少が続いている。



出典：市総務課(商業統計調査)

4 産業の現状 -観光業-

- 京都縦貫自動車道の全線開通、「海の京都」構想の推進などにより増加傾向にあったが、新型コロナウイルスの発生で大きく減少。



5 その他の取組 -ICT×高校生のアイデアで生み出す地方創生-

- 令和3年より、全国の高校生からICT技術を活用した新たなビジネスアイデアを募集し、コンテストを開催。
- グランプリに輝いたアイデアは、実際にビジネスモデル化して、社会問題解決×地方創生に貢献。

令和3年開催

9:00-12:00

ICT×地方創生 甲子園

2021.
11.7
(SUN)

全国の高校生が地方創生事業のビジネスアイデアを
発表！柔軟な発想で地域創生につながるムーブメントを
ここ京丹後から生み出す！！

ファイナリスト

●専修大学附属高等学校	●千葉県立銚子商業高等学校
●武蔵野大学附属千代田高等学院	●東京都立多摩高等学校
●埼玉県立所沢中央高等学校	●聖学院高等学校
●大手前高松高等学校	●東京都立多摩高等学校
●秋田県立平成高等学校	●屋久島おおぞら高等学校・筑波大学附属坂戸高等学校
●和歌山県立日高高等学校中津分校	●京都府立丹後緑風高等学校 網野学舎
●慶應義塾湘南藤沢高等部	●京都府立清新高等学校

全国109チームのエントリー

選抜14チームの高校生が出場！！

グランプリ 【みらいのジュータロー賞】



山口 由人さん(聖学院高等学校:東京都)

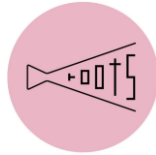
「気候変動」や「LGBTQ」など、未成年が自ら
課題発見・提起を行い、その解決のために企
業と共創する際、サポートと橋渡しをする仕組
みを構築するというもの。

これまで40社以上と共創してきたノウハウを
生かし、京丹後市で実証実験を行いたい。



5 その他の取組 -京丹後市未来チャレンジ交流センター(愛称:roots)-

- 高校生や若者が一緒になって未来のまちづくりのためのアイデアを出し合いながら、その企画やプロジェクト化に取り組む。
- ここを拠点に本市出身者を含め現役大学生や地域の事業者等も巻き込み、未来のまちづくりを一緒に考えたり、地域を知るための機会を創り出したりすることで、地元への愛着心を育て、将来のUターン者や関係人口の増加につなげる。



主な事業内容

プロジェクト化・実施のコーディネート

アイデア・企画の相談・コーディネート

地域、企業、関係団体等、
プロジェクトの協力・交流・支援して
くれる団体とのつなぎ役

例えば/

(例) <地域の職業探究>

地元で頑張っている起業家や、
地域を支える伝統産業や、魅力
あふれる企業の方などに来てもらい、
京丹後市で働くことの面白さや、魅力を発見する。
将来戻ってくる時の仕事や働き方
を考えるきっかけづくりをする。

(例) <商品開発>

高校生が集まり、力を合わせて
地域の魅力を発信する商品開発にチャレンジする。
商品の企画やPR、クラウド
ファンディングのやり方を学び、
自分たちでモノづくりができる
機会を応援する。



イベント事例

ダンスイベント

高校生にとっての人生初企画
「地域に刺激を」コロナ禍でも楽しむ



Talk of roots
～「産地」の魅力を知ろう～
事業者の話を直接機会づくり



公開企画会議

あなたの「やってみたい!」と、
誰かの「やってみたい!」を掛け合わせて、
実際に企画を動かしてみませんか?





丹後万博2022 — 伝統 × 革新 — 開催概要

■テーマ

つながり、つなげる

人と人 人とのものとの 過去と現在 現在と未来

■事業コンセプト・3つの柱

I 未来の丹後を「探る」 II 未来の丹後を「創る」 II 未来の丹後に「触れる」

丹後万博開催実行委員会

1. 開催概要

- 日時 10月30日（日） 9時～16時
- 会場 丹後王国「食のみやこ」
- 来場者数 2,500人（目標500人）
- 主催 丹後万博開催実行委員会
- 共催 京丹後市
- 後援 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
- 予算 市からの補助金150万円（会場費、音響、原材料費等）

【丹後万博開催のねらい】

- ① SDGsを「自分事」に
- ② 将来のまちの姿を考える機会に
- ③ 大阪・関西万博に向けた機運を高める



実行委員会メンバーが
デザインしたポスター

2. 主なコンテンツ

【高】＝高校生が中心となって企画運営するコンテンツ

ステージイベント

- ・【高】ステージ企画運営・丹後万博オリジナルテーマソングの作成
- ・【高】SDGsファッションショー
- ・【高】高校軽音楽部、吹奏楽部等多世代交流ステージ
- ・【高】高校新体操部による丹後万博オリジナルステージ
- ・サザエさん体操
- ・ゼロカーボンクイズ大会

企画展示・販売イベント

- ・【高】高校生SDGsレストラン
- ・【高】Food Loss ran～無駄の中の可能性～
- ・【高】海ごみアップサイクル製品の販売
- ・【高】海洋ごみアートの展示
- ・【高】高校生による研究成果の展示
- ・【高】SNSを使ったSDGs発信ブース
- ・子育て応援フリーマーケット
- ・地元企業・団体出展コーナー

体験・交流イベント

- ・【高】ワールドカフェ
- ・【高】つくろう。電気。
- ・【高】木工体験
- ・健康ウォーキング
- ・地元企業・団体出展コーナー

その他

- ・SDGsの普及促進ツール「まちのコイン」の実証実験（各種体験に参加してSDGsポイントを獲得）
- ⇒【高】ポイントに応じて高校生が地元事業者と連携して作成した景品（木工製品、丹後ちりめんアップサイクル製品等）と交換

※市主催の「環境フェア」、「ICT×地方創生甲子園」と合同開催

6 参考 -Society5.0に対応した教育・人材育成に係る国・府の動き-

- 中央教育審議会において、令和の日本型学校教育が目指す姿として、これまでのグローバル人材の育成等とはもとより、STEAM教育やデジタルを活用した教育等の新しい時代に対応した教育の推進について提言。

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)(中央教育審議会(令和3年1月26日))(抜粋)①

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

○STEAM 教育等の教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成

STEAM 教育は、「社会に開かれた教育課程」の理念の下、産業界等と連携し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていく高度な内容となるものであることから、高等学校における教科等横断的な学習の中で重点的に取り組むべきものであるが、その土台として、幼児期からのものづくり体験や科学的な体験の充実、小学校、中学校での各教科等や総合的な学習の時間における教科等横断的な学習や探究的な学習、プログラミング教育などの充実に努めることも重要である。さらに、小学校、中学校においても、児童生徒の学習の状況によっては教科等横断的な学習の中で STEAM 教育に取り組むことも考えられる。

6. 遠隔・オンライン教育を含むICTを活用した学びの在り方について

○教師の対面指導と遠隔授業等を融合した授業づくり

- 学習活動の質を高めるため、児童生徒の発達の段階を踏まえ、学校の授業時間内において、教師による対面指導に加え、目的に応じ遠隔授業やオンデマンドの動画教材等を取り入れた授業モデルを展開するべきである。

○高等学校における遠隔授業の活用

- 高等学校における同時双方向型の遠隔授業の実施について、単位数の算定、対面により行う授業の実施などの要件の見直しを行い、教師による対面指導と遠隔授業を融合させた柔軟な授業方法を可能とし、多様かつ高度な学習機会の充実に努めるべきである。



6 参考 -Society5.0に対応した教育・人材育成に係る国・府の動き-

- 中山間地等にあっても、デジタルを活用することにより、地理的制約等を超えて質の高い教育を子供たちに提供していくことの必要性について提言。

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)(中央教育審議会(令和3年1月26日))(抜粋)②

8. 人口動態等を踏まえた学校運営や学校施設の在り方について

○中山間地域や離島などに立地する学校における教育資源の活用・共有

- 中山間地域や離島などの地域に立地する小規模な学校においては、自校の教育資源に限りがあり、単独で児童生徒の多様なニーズの全てに対応することは困難であることから、「自前主義」からの脱却を図る必要がある。
- 例えば、義務教育段階においては、山間・へき地や、小規模校などの学校で児童生徒間の多様な交流や専門家による対面での指導が困難な場合に、遠隔授業を積極的に活用することにより、児童生徒が多様な意見や考えに触れたり、協働して学習に取り組む機会の充実を図り、また、児童生徒の学習活動の質を高めるとともに、教師の資質向上を図る必要がある。
- また、高等学校段階においては、中山間地域や離島などの地域に立地する複数の高等学校を含めたネットワークを構築し、遠隔授業を実施するなど、ICTも活用してそれぞれが強みを有する科目を選択的に履修することを可能とし、様々な教育資源を活用することによって、小規模校単独ではなし得ない教育活動を行うことが求められている。こうした取組を可能とするため、学校間連携の見直しや遠隔授業の推進を図り、複数の学校による連携・協働体制を整備するための制度的・財政的措置を講じることが必要である。



6 参考 -Society5.0に対応した教育・人材育成に係る国・府の動き-

- 中央教育審議会のみならず、政府の閣議決定文書において、STEAM教育や起業家教育(アントレプレナーシップ教育)の重要性について提言。

経済財政運営と改革の基本方針 2022(令和4年6月7日閣議決定)(抜粋)

発達段階も踏まえつつ、同一の年齢・内容・教材等の前提に過度にとらわれず、全ての学校段階において、探究・STEAM・起業家教育等の抜本強化を図る。

スタートアップ育成5か年計画(新しい資本主義実現会議決定(令和4年11月))(抜粋)

小中高生を対象にして、起業家を講師に招いての起業家教育の支援プログラムの新設や、小中高生向けに総合的学習等の授業時間も活用した起業家教育の実施の拡大を図る。さらに、起業家教育に体系的に取り組む高校・高等専門学校や、STEM分野で高い能力を有する小中高生に対する教育機会の支援を強化する。



6 参考 -Society5.0に対応した教育・人材育成に係る国・府の動き-

- 令和4年3月に「府立高の在り方ビジョン」を策定し、新しい時代において府立高校が目指すべき方向性や将来像を提示。
- 令和4年11月に「魅力ある府立高校づくり懇話会」を設置し、当該ビジョンを基に具体化するための検討を開始。

府立高の在り方ビジョン(京都府教育委員会(令和4年3月))(抜粋)

○新しい時代に応じた探究的な学びや学習スタイルの構築

【目指す方向性】

- ① 探究的な学びや教科等横断的な学びの充実
 - ・課題解決型の探究的な学びや、文系・理系という枠組みにとらわれない教科等横断的な学習(STEAM教育)を推進し、幅広い分野で新しい価値を提供できる人材を育成する。
- ② 生徒1人1台端末を導入した新たな学びの推進
 - ・学習用端末(タブレット)の生徒1人1台の導入をはじめとするICT教育環境の整備・充実により、個別最適な学びと主体的・協働的な学びを推進する。
- ③ ハイブリッド型の新たな学習スタイルの構築
 - ・オンライン教育と対面式教育を組み合わせたハイブリッド型の教育形態により、生徒が自らの学習進度や興味・関心等に応じて学べるようにするなど、新たな学習スタイルを構築する。
- ④ 情報活用能力の育成
 - ・デジタルトランスフォーメーション(DX)の進展を見据え、ICTの活用等を通じて、情報を収集・整理・発信する力など、よりよい未来社会を切り拓くために必要な能力を育成する。

○地域や企業、高等教育機関・研究機関等との連携強化

既に北部地域の一部の市町においては、地域内に設置されている府立高校の教育活動に対する企画提案や高校の魅力の発信、高校と地域との連携に関わる支援などを担うコーディネーターを配置していただいている。今後は、地域の実情を踏まえつつ、こうした地域社会への参画や協力を得る仕組みを通じて、府立高校を取り巻く関係者間に当事者意識が醸成され、共有されることが望まれる。



論点整理① -教育内容-



令和5年4月25日
京丹後市教育委員会事務局・市長公室

本市が目指す教育・人材育成像の方向性

- ・ 本市が目指す教育・人材育成像の方向性を、丹後ちりめんに準え、経糸と緯糸で捉え直し、当該方向性を地域全体で共有し、本市の教育・人材育成の経糸と緯糸を紡いでいくこととする。

緯糸の
考え方

【変遷するもの】

グローバル化といった社会の大きな趨勢と、それに対応する教育・人材育成の新たな施策を指す。

経糸の
考え方

【不易的なもの】

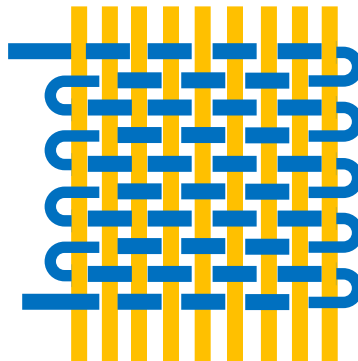
社会や教育現場の昨今の変化の中にあっても大きく変わらない地域固有の価値を指す。

■ 人材像

世界を舞台に活躍することができる
とともに、地域に還ったり、域外から地
域に関わったりすることも通じて、未
来を創っていく人材

- ✓ 丹後人や日本人として世界で渡り合うことができる人材
- ✓ 地域の良さを域外に発信することができる人材

- ✓ 地域の良さを理解し、地域に戻ってくることができる人材
- ✓ 地域の外にいても、持続的に地域にかかわることができる人材



■ 教育像

テクノロジーの活用によりSociety 5.0に
対応しつつ、京丹後市固有の伝統・
文化・暮らし等の地域資源を通じて更
なる付加価値を共創していく教育

- ✓ GIGAスクール構想を基盤としつつ、STEAM教育や英語教育、アントレプレナーシップ教育等のSociety 5.0に対応した教育

- ✓ 地域固有の伝統・文化・暮らしや特筆すべき技術等のこれまで地域で培われてきた地域資源を活用した教育



本市の目指す人材像に求められる資質能力の例(イメージ)

- ・ これからの時代に求められる資質能力の一部※を船に喩え、各資質能力の位置づけを可視化している。
- ・ その上で、社会を生き抜く力の育成に向けて、保幼小中一貫教育を核とした魅力的な事業・教育活動、地域に開かれた学校、安全・安心な学校づくりを進めてきており、高等学校教育に繋げて、資質能力を育てていくことが重要である。

※必要な資質能力の全体像を示したものではない点に留意。

社会を生き抜く力

相互理解
共感性

コミュニケーション
協働性

創造性
柔軟性

英語運用能力

丹後学・Kyotango Sea Labo

- 郷土への愛着と誇り
- 自らの生き方・あり方の思考
- 人間中心の発想法(デザイン思考)
- 自らの創造性に対する自信向上 etc.

- キャリアに対する意識変革
- 社会変化に対する受容力 etc.

【アントレプレナーシップ教育】

- 諸領域を横断・統合しながら問題を発見・解決していく力
- 科学的・客観的な根拠に基づいて論理的に考え、表現する力 etc.

【STEAM教育】

- 目的意識をもった行動力
- 情報を適切に収集・分析・活用する力 etc.

【探究的な学び】

言語能力

母国語＆外国語(英語)
語彙力・理解力・表現力・多文化理解 etc.

非認知能力

自己肯定感・積極性・粘り強さ・向上心・挑戦心・リーダーシップ etc.

船体の行先の決定

【フォアマスト】
船体の前進力の創出

【メインマスト】
船体の安定性の確保

【ミズンマスト】
船体の舵取り等

船体の基盤



- 令和の日本型学校教育が目指す学びとして、「個別最適な学び」と「協働的な学び」※を一体的に充実していくこととされており、こうしたことを前提としながら、本市の目指す人材像の育成に必要な資質能力を育んでいくことが重要である。

個別最適な学び

【指導の個別化】

全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」が必要である。

【学習の個性化】

言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」も必要である。

協働的な学び

探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要である。

※出典：文部科学省

- このため、準備会において設定した検討事項について、既存の枠組みにとらわれることなく、当事者である子供の視点や本市独自の地域性の観点を踏まえた議論を行う。

＜検討事項＞

- ✓ 地域資源を織り込んだSociety5.0に対応する教育内容【本日】
 - STEAM教育やアントレプレナーシップ教育、グローバル人材育成、デジタル人材育成等の教育課程における体系的な再構築
 - 上記のSociety5.0に対応する教育と丹後学等の地域に根差した教育を融合するための具体的な方策
- ✓ 教育効果と地域の付加価値を最大化するシームレスな制度の在り方
- ✓ 地域・産業界と連携した教育・人材育成の在り方



標準授業時数について

標準授業時数の位置付け

標準授業時数は、学習指導要領で示している各教科等の内容を指導するのに要する時数を基礎として、学校運営の実態などの条件を考慮して国が定めたもの。

小学校・中学校・義務教育学校・中等教育学校の前期課程では、学校教育法施行規則において、教科等ごと、学年ごとに標準授業時数を定めている。

各学校においては、標準授業時数等を踏まえ、学校の教育課程全体のバランスを図りながら、児童生徒・学校・地域の実態等を考慮し、学習指導要領に基づいて各教科等の教育活動を適切に実施するための授業時数を具体的に定め、適切に配当する必要がある。

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～
(令和3年1月26日中央教育審議会答申)(抄)

第Ⅱ部 各論

2. 9年間を見通した新時代の義務教育の在り方について

(2) 教育課程の在り方

③ カリキュラム・マネジメントの充実に向けた取組の推進

(略)

○ 標準授業時数については、学習指導要領に示す各教科等の内容の指導の質を担保するための、いわば量的な枠組みとして、教育の機会均等や水準確保に大きな役割を果たしてきた。特に資質・能力のうち、定量的に質を測定できるのは知識・技能等の一部にとどまることから、学習指導要領が求める教育の質を量的に支えるものとして標準授業時数は重要な意義を持っている。

○ 一方で、標準授業時数の在り方をめぐっては、児童生徒や教師の負担について考慮すべきとの指摘や、学習状況に課題のある児童生徒も含めて指導すべき内容を一般的に教えることが可能なものとなっているのか、ICTを活用した学習指導を踏まえた柔軟な在り方について検討が必要、といった指摘がある。

(略)

○ また、学習指導要領のねらいとする資質・能力の育成と、一定の総授業時数の確保による教育の機会均等の観点を踏まえ、総枠としての授業時数(学年ごとの年間の標準授業時数の総授業時数)は引き続き確保した上で、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成や探究的な学習の充実等に資するよう、カリキュラム・マネジメントに係る学校裁量の幅の拡大の一環として、教科等の特質を踏まえつつ、教科等ごとの授業時数の配分について一定の弾力化が可能となる制度を設けるべきである。その際、この制度を利用する学校は、家庭・地域に対して特別の教育課程を編成・実施していることを明確にするとともに、他の学校や地域のカリキュラム・マネジメントに関する取組の参考となるよう、教育課程を公表することとするべきである。

(出典)文部科学省



学校教育法施行規則に定める標準授業時数

小学校の標準授業時数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	306	315	245	245	175	175
社会	-	-	70	90	100	105
算数	136	175	175	175	175	175
理科	-	-	90	105	105	105
生活	102	105	-	-	-	-
音楽	68	70	60	60	50	50
図画工作	68	70	60	60	50	50
家庭	-	-	-	-	60	55
体育	102	105	105	105	90	90
特別の教科 道徳	34	35	35	35	35	35
特別活動	34	35	35	35	35	35
総合的な 学習の時間	-	-	70	70	70	70
外国語活動	-	-	35	35	-	-
外国語	-	-	-	-	70	70
合計	850	910	980	1015	1015	1015

備考

- 一 この表の授業時数の一単位時間は、四十五分とする。
- 二 特別活動の授業時数は、小学校学習指導要領で定める学級活動(学校給食に係るものを除く。)に充てるものとする。
- 三 第五十条第二項の場合において、特別の教科である道徳のほか宗教を加えるときは、宗教の授業時数をもつてこの表の特別の教科である道徳の授業時数の一部に代えることができる。(別表第二から別表第二の三まで及び別表第四の場合においても同様とする。)

中学校の標準授業時数

	1年	2年	3年
国語	140	140	105
社会	105	105	140
数学	140	105	140
理科	105	140	140
音楽	45	35	35
美術	45	35	35
保健体育	105	105	105
技術・家庭	70	70	35
外国語	140	140	140
特別の教科 である道徳	35	35	35
総合的な 学習の時間	50	70	70
特別活動	35	35	35
合計	1015	1015	1015

備考

- 一 この表の授業時数の一単位時間は、五十分とする。
- 二 特別活動の授業時数は、中学校学習指導要領で定める学級活動(学校給食に係るものを除く。)に充てるものとする。

(出典)文部科学省



本市の教育課程の編成状況(中学校の例)

- 本市の中学校における教育課程の編成については、国が定める標準授業時数に則った編成となっており、その中で学校ごとの方針に沿った取組を行っている。

A 中学校

学年	時数	教科										総合	学活	合計	特活		総計
		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	外国語	道徳				生徒会活動	学校行事	
1年	実績	146	113	152	122	48	47	111	75	150	35	52	53	1104	2	12	1118
	標準との差	6	8	12	17	3	2	6	5	10	0	2	18	89			
2年	実績	146	116	120	146	42	39	111	76	155	35	70	46	1102	2	11	1115
	標準との差	6	11	15	6	7	4	6	6	15	0	0	12	88			
3年	実績	107	140	144	141	39	35	109	41	141	35	71	38	1041	2	28	1071
	標準との差	2	0	4	1	4	1	4	6	1	0	1	3	27			

B 中学校

学年	時数	教科										総合	学活	合計	特活		総計
		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	外国語	道徳				生徒会活動	学校行事	
1年	実績	140	113	140	115	50	47	107	75	147	35	50	42	1061	2	20	1083
	標準との差	0	8	0	10	5	2	2	5	7	0	0	7	47			
2年	実績	147	111	119	140	39	42	108	70	148	36	70	50	1080	2	18	1100
	標準との差	7	6	14	0	4	7	3	0	8	1	0	15	65			
3年	実績	107	140	140	140	35	38	105	35	140	35	70	50	1035	2	38	1075
	標準との差	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	17			

C 中学校

1年	実績	143	111	146	109	50	47	109	73	143	35	50	46	1062	3	17	1082
	標準との差	3	6	6	4	5	2	4	3	3	0	0	12	48			
2年	実績	147	116	119	146	38	39	110	76	145	35	70	46	1087	3	14	1104
	標準との差	7	11	14	6	3	4	5	6	5	0	0	12	73			
3年	実績	106	140	140	140	35	35	106	38	140	35	70	37	1022	3	34	1059
	標準との差	1	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	2	7			

D 中学校

1年	実績	144	120	142	113	48	49	105	81	152	36	61	57	1108	1	22	1131
	標準との差	4	15	2	8	3	4	0	11	12	1	11	22	93			
2年	実績	142	115	111	142	44	43	106	80	152	35	74	53	1097	2	23	1122
	標準との差	2	10	6	2	9	8	1	10	12	0	4	18	82			
3年	実績	106	140	141	140	41	39	105	36	144	36	70	42	1040	2	39	1081
	標準との差	1	0	1	0	6	4	0	1	4	1	0	7	25			

E 中学校

1年	実績	142	107	142	117	47	51	105	75	145	38	52	44	1065	5	18	1088
	標準との差	2	2	2	12	2	6	0	5	5	3	2	9	50			
2年	実績	141	109	111	141	38	47	106	74	140	36	79	43	1065	5	19	1089
	標準との差	1	4	6	1	3	12	1	4	0	1	9	8	50			
3年	実績	112	140	142	140	35	38	105	38	142	36	71	37	1036	5	37	1078
	標準との差	7	0	2	0	0	3	0	3	2	1	1	2	21			

F 中学校

1年	実績	144	110	145	116	47	46	110	74	147	37	55	36	1067	4	7	1078
	標準との差	4	5	5	11	2	1	5	4	7	2	5	1	52			
2年	実績	142	112	115	142	37	38	109	74	146	36	78	40	1069	4	8	1081
	標準との差	2	7	10	2	2	3	4	4	6	1	8	5	54			
3年	実績	111	143	142	143	40	37	108	37	145	36	72	38	1052	4	8	1064
	標準との差	6	3	2	3	5	2	3	2	5	1	2	3	37			

※令和3年度実績



本市の特徴的な取組例 - 総合的な学習の時間 -

- ・「ひと・みず・みどり 市民総参加で飛躍するまち」京丹後市の学習を通して郷土への誇りと愛情を育て、地域を通して自己の生き方・あり方を考える学習として、平成28年度から市内全小中学校で実施している。
- ・現在、モデルカリキュラムの改訂を行っているところであり、より探究的な学びへの転換が求められている。

平成28年度版「丹後学モデルカリキュラム」に基づく各校の授業実践【概要】

【ねらい】

- 京丹後市に対する関心・愛着
 - 京丹後市についての知識・理解
 - 市民としての自覚、実践的な態度
 - 問題解決を通じた生き方・あり方の探求
- の4観点で設定。さらに、そのそれぞれについてⅠ期～Ⅲ期の指導目標を設定

【対象学年】

小学校3年生から中学校3年生

【指導時間】

「総合的な学習の時間」の中で、年間15～20時間程度を実施

(例) 5年「うまいはずだ！丹後米」 全26時間

- ・丹後米に興味をもち、学習課題をたてる。 2時間
- ・調べる方法の計画と情報収集をする。 2時間
- ・課題別に解決する方法を考え情報を収集する。 10時間
- ・調べたことを整理・分析する。 5時間
- ・丹後米のPRを考え、発信する。 6時間
- ・学習したことを振り返る。 1時間

【各学年の必須指導内容】

- 小学校3年生 …農業・漁業・伝統文化等、校区の特色
- 小学校4年生 …丹後ちりめん / 2分の1成人式 / (地域の発展に尽くした先人)
- 小学校5年生 …(市の米作り)
- 小学校6年生 …山陰海岸ジオパーク【大地の学習】
- 中学校1年生 …市の観光 / (市の機械金属工業)
- 中学校2年生 …職場体験 / 立志式
- 中学校3年生 …市の将来への提言



市の米作り(稲刈り体験)



山陰海岸ジオパーク【大地の学習】



地域の環境保全(海岸清掃)



地域の事業所見学



地域の特色(古墳)



お魚料理教室(ビュウオ料理)



夢未来式(2分の1成人式)

教育内容に係る主な論点

1. Society5.0に対応した教育内容

主なご意見

- 緯系の「地域の良さを域外に発信」や「STEAM教育、アントレプレナーシップ教育」を京丹後市の経系「地域の良さの理解」「地域資源の活用」によって、中身を組立てて京丹後市ならではの方向性を見出すのがよい。
- GIGAスクール構想と学校との関係をどのようにしていくのかを考えていかなければならない。GIGAスクール構想により、先生の学習観、学力観、指導観変えていくことが重要である。
- 細かい指示を多くすると、シングルな作業はできるが指示を待つチームになる。しっかり自らが考え仲間同士助け合うようなチームをつくる教育を、GIGAスクールと文部科学省の「個別最適な学び」は目指している。これを京丹後で行い、京丹後で学べばイニシアチブを自分が持っている子どもたちが思えるような教育にしていきたい。
- シリコンバレーでイノベティブな活動をしている人々を調査・研究した成果をプログラム化した「Kyotango Sea Labo」のような教育課程外の取組を、公教育の中に入れていくことができればよいのではないか。
- グローバルな活動とは、新しいものを獲得していくような活動であり、対してローカルな活動は、地域に埋め込まれているものを改めて自覚し、それを大切にすることである。京丹後市出身者として、これらの活動をあわせ持てる人材がグローバルリーダーと言える。グローバルリーダーを駆動させるエンジンにあたるものがアントレプレナーシップであると認識している。
- 地理的な制約をオンラインとのハイブリッドや、ある種学びの市町間で遠隔地同士の連携ができないか。また、地域プレイヤーの持続可能な巻き込みという点では、善意に頼り続けるということだけではなく、例えばアントレプレナーシップで言えば年齢に関係なく、小学生から高齢者まで学べるオープンスクールのような場を作るのもおもしろいのではないか。
- 子供のころからデジタルに慣れ親しんだ若者が、新しい発想や機械を駆使して技能を継承して発展させることが、これからの製造現場の大きな目標であり、丹後地域だけでなく日本のモノづくりの課題だと感じている。

議論のポイント

- ✓ 学ぶワクワク感や教科の学びが自ら設定した課題を探究する上で生きるという実感が持てるような教育内容やその重点化をどのように考えるか。
- ✓ その上で、本市における教育課程の現状を踏まえつつ、STEAM教育の教育課程への取り込み、英語教育やデジタル教育、アントレプレナーシップ教育の在り方をどのように考えるか。

※主なご意見については、準備会におけるものを引用



教育内容に係る主な論点

2. 地域に根差した教育内容

主なご意見

- 学校や教育委員会だけでなく、地域の視点も入れることで、「この地域だからできる」という教育をつくっていく必要がある。
- 地域以外の「資源」は限定的であり、地域内の「資源」は豊富であるが十分活用できていないとなっているが、それらの「資源」が具体的に何をさしていて、なぜ限定的で、十分活用できていないのか。また、それをICTの活用で解決できるのかを検討するとよいのではないか。
- 緯系の「地域の良さを域外に発信」や「STEAM教育、アントレプレナーシップ教育」を京丹後市の経系「地域の良さの理解」「地域資源の活用」によって、中身を組立てて京丹後市ならではの方向性を見出すのがよい。【再掲】
- 丹後学は一定の成果はあるが、京丹後市をどうしたいのかということまでの学びをできているかは自問している。
- 都道府県立高校と地域、市町村の連携協働が必要である。教科の中の学びだけでなく、それと社会とのつながり、地域を窓にして社会や世界とつながっていく、学んだことを社会で実際に活かしてみる、いろいろな体験をしてもっと学ぶことが必要だと感じて教科の学びに帰ってくるといった循環を引き起こしていくことが重要である。
- 子供たちが地域を出ていくのは高校卒業時であり、それまでに地域のことを学んでもらうことが重要であるため、飯田市では市と高校が協定を結び、地元の方と一緒にやって地域人の育成のためのカリキュラムを作成した。
- 飯田市においても義務教育と高校教育には壁があったが、学校教育ではなく社会教育の観点からかわることにより、社会教育を通じて地域と学校を結び付けることで地域人材育成のカリキュラムを作成した。
- どのように地域の素材を学校現場に落とし込めるかが重要であり、地方から特色のある教育にしていきたい。
- 丹後ならではの自然にもっと触れて学べる環境や、オーケストラやジャズ、落語、映画等芸術鑑賞の機会を増やし、印象に残るような学業の時間があるとよい。

議論のポイント

- ✓ 本市が「有している資源」と「有していない資源」とは何か。丹後学にはそれらの資源をどのように活用していくべきか。
- ✓ 「1. Society5.0に対応した教育内容」と「2. 地域に根差した教育内容」を丹後学の中でどのように具体化を図っていくことができるか。また、そのための総合的な学習の時間の在り方をどのように考えるか。

※主なご意見については、準備会におけるものを引用



教育内容に係る主な論点

3. 義務教育から高校教育まで意識した教育の在り方

主なご意見

- 京丹後市で育つ子供がどのような学びでどのような知識やスキルを身につけ、そして目指す人材像は何なのか、という点を 就学前から高等教育まで一貫したものを教育者と地域が共有することが重要である。
- 高校が義務教育の取組の流れをしっかりと受け止めていくことが重要である。
- 都道府県立高校と地域、市町村の連携協働が必要である。教科の中の学びだけでなく、それと社会とのつながり、地域を窓にして社会や世界とつながっていく、学んだことを社会で実際に活かしてみる、いろいろな体験をしてもっと学ぶことが必要だと感じて教科の学びに帰ってくるといった循環を引き起こしていくことが重要である。【再掲】
- 京丹後市をベースに考えた場合、強み・活かせるソースとしては、京丹後市特有のちりめんなどの伝統的産業、あるいは観光等の復興が予測される産業に加え、高校の専門科が結構あるため、小中学生の巻き込み先として高校の専門科が連携しやすいのではないかと感じる。また、グローバルやデザイン思考等のプログラムで育まれているので、連携できることが多々あるのではないかと。
- 子供たちが地域を出ていくのは高校卒業時であり、それまでに地域のことを学んでもらうことが重要であるため、飯田市では市と高校が協定を結び、地元の方と一緒に地域人の育成のためのカリキュラムを作成した。【再掲】
- 飯田市においても義務教育と高校教育には壁があったが、学校教育ではなく社会教育の観点からかかわることにより、社会教育を通じて地域と学校を結び付けることで地域人材育成のカリキュラムを作成した。【再掲】

議論のポイント

- ✓ 義務教育において身に着けた資質能力を一層伸ばしていくためには、設置者の異なる高校教育へどのようにつないでいくことが考えられるか。

※主なご意見については、準備会におけるものを引用



本市の特徴的な取組例 -技術家庭の時間-

- ・ 生徒が自ら問題を提起し、その解決について、友達との対話を通して対策を提案する発展的なプログラミング教育の実現を目指し、初心者でも簡単にプログラミングができる「MESH」を活用している。
- ・ 今後は共通テストにおいて情報が新設されることとなっているなど、プログラミングやデータサイエンスに必要な統計処理、情報リテラシーの知識等が重要となってきた。

中学校(第3学年)技術分野「計測・制御のプログラミングによる問題解決」単元

MESH(アプリ・機器)を活用した授業

計測となるブロック

1時	計測と制御とは何か	講師の講義(オンラインによる動機付けを行うMESHの使い方を学習する。
2時	MESHを使った制御	MESHで信号機を作成する。 簡単なプログラミングを学習する。
3時	課題解決のアイデア出し	以下を満たすように話し合いを行い、設計書を作る。 ① 順次、反復、分岐を意識している。 ② 社会からの欲求(満足度)、安全性、環境への負荷、経済性を考えている。 ③ 目新しさ、社会に役立つものを考えている。
4時	プロトタイプ作成	作成後、教員等に批評やアドバイスを求める。
5時	改善作業・発表準備①	アドバイスを受け、改善を繰り返す。
6時	改善作業・発表準備②	発表練習を行う。
7時	発表	発表を行う。振り返りを行う。



制御するiPad用アプリ

学習指導要領 技術分野「D情報の技術」内容及び時数

- (1) 基礎的な技術の仕組み及び情報モラルの必要性 ……第1学年：年35時間中9時間
- (2) 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決…第2学年：年35時間中6時間
- (3) 計測・制御のプログラミングによる問題解決 ……第3学年：年17.5時間中13時間

技術分野「D情報の技術」において、上記(1)(2)(3)の内容を指導することが位置づいています。京丹後市中学校教育研究会技術部では、中学校3年「計測・制御のプログラミングによる問題解決」の力を身に付けさせるため、「生活に役に立つものを作ろう」をテーマに、MESHを活用し、ペアでアイデアを出し合い、試行錯誤を繰り返しながらプログラミングを行い、オリジナル製品を創り上げる単元計画を作成しました。

本部会の公開授業では、オリジナル製品について「発表する側」と「聞く側」(評価する側)にわかれ、ローテーション形式で発表会を実施しました。発表する生徒は相手意識をもち、製品のセールスポイントを生き生きと説明し、発表を聞いて評価する生徒は、「社会からの欲求(このアイデア面白い!)」「安全性(利用者または環境にとって安全!)」「経済性(役立つ、便利で欲しい!)」「プログラミング(こうなっていたのか、なるほど!)」という4つの視点で評価していました。和やかな雰囲気の中で、「主体的・対話的で深い学び」が実現された授業でした。公開授業後の事後研究会では、「授業が楽しかった。」「参観された先生方に褒めてもらえてとても気持ちがよかった。」という生徒の声が多かったと、授業者から報告を受けました。生徒が解決したい問題を見だし、問題解決の過程を充実させることができた成果であると考えています。



組み合わせて様々な課題解決に利用

アイデア例

- ・ 二度寝防止
- ・ 応援えんぴつ(→集中して学習)
- ・ 落ち込んだときに気力を上げる
- ・ 親が来たら知らせてくれる
- ・ ゲームのしすぎ防止
- ・ 電気代を通知
- ・ 防犯対策
- ・ 花の水とり
- ・ 熱中症予防
- など



論点整理② -教育内容・制度-



令和5年6月5日
京丹後市教育委員会事務局・市長公室

本市が目指す教育・人材育成像の方向性

- ・ 本市が目指す教育・人材育成像の方向性を、丹後ちりめんに準え、経糸と緯糸で捉え直し、当該方向性を地域全体で共有し、本市の教育・人材育成の経糸と緯糸を紡いでいくこととする。

緯糸の 考え方

【変遷するもの】

グローバル化といった社会の大きな趨勢と、それに対応する教育・人材育成の新たな施策を指す。

経糸の 考え方

【不易的なもの】

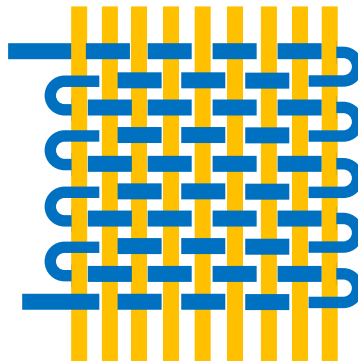
社会や教育現場の昨今の変化の中にあっても大きく変わらない地域固有の価値を指す。

■ 人材像

世界を舞台に活躍することができるとともに、地域に還ったり、域外から地域に関わったりすることも通じて、未来を創っていく人材

- ✓ 丹後人や日本人として世界で渡り合うことができる人材
- ✓ 地域の良さを域外に発信することができる人材

- ✓ 地域の良さを理解し、地域に戻ってくることができる人材
- ✓ 地域の外にいても、持続的に地域にかかわることができる人材



■ 教育像

テクノロジーの活用によりSociety 5.0に対応しつつ、京丹後市固有の伝統・文化・暮らし等の地域資源を通じて更なる付加価値を共創していく教育

- ✓ GIGAスクール構想を基盤としつつ、STEAM教育や英語教育、アントレプレナーシップ教育等のSociety 5.0に対応した教育

- ✓ 地域固有の伝統・文化・暮らしや特筆すべき技術等のこれまで地域で培われてきた地域資源を活用した教育



本市の目指す人材像に求められる資質能力の例(イメージ)

- ・ これからの時代に求められる資質能力の一部※を船に喩え、各資質能力の位置づけを可視化している。
- ・ その上で、社会を生き抜く力の育成に向けて、保幼小中一貫教育を核とした魅力的な事業・教育活動、地域に開かれた学校、安全・安心な学校づくりを進めてきており、高等学校教育に繋げて、資質能力を育てていくことが重要である。

※必要な資質能力の全体像を示したものではない点に留意。

社会を生き抜く力

相互理解
共感性

コミュニケーション
協働性

創造性
柔軟性

英語運用能力

丹後学・Kyotango Sea Labo

- 郷土への愛着と誇り
- 自らの生き方・あり方の思考
- 人間中心の発想法(デザイン思考)
- 自らの創造性に対する自信向上 etc.

- キャリアに対する意識変革
- 社会変化に対する受容力 etc.

【アントレプレナーシップ教育】

- 諸領域を横断・統合しながら問題を発見・解決していく力
- 科学的・客観的な根拠に基づいて論理的に考え、表現する力 etc.

【STEAM教育】

- 目的意識をもった行動力
- 情報を適切に収集・分析・活用する力 etc.

【探究的な学び】

言語能力

母国語 & 外国語(英語)
語彙力・理解力・表現力・多文化理解 etc.

非認知能力

自己肯定感・積極性・粘り強さ・向上心・挑戦心・リーダーシップ etc.

船体の行先の決定

【フォアマスト】
船体の前進力の創出

【メインマスト】
船体の安定性の確保

【ミズンマスト】
船体の舵取り等

船体の基盤



- 令和の日本型学校教育が目指す学びとして、「個別最適な学び」と「協働的な学び」※を一体的に充実していくこととされており、こうしたことを前提としながら、本市の目指す人材像の育成に必要な資質能力を育んでいくことが重要である。

個別最適な学び

【指導の個別化】

全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」が必要である。

【学習の個性化】

言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」も必要である。

協働的な学び

探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要である。

※出典：文部科学省

- このため、準備会において設定した検討事項について、既存の枠組みにとらわれることなく、当事者である子供の視点や本市独自の地域性の観点を踏まえた議論を行う。

＜検討事項＞

- ✓ 地域資源を織り込んだSociety5.0に対応する教育内容
- ✓ 教育効果と地域の付加価値を最大化するシームレスな制度の在り方
 - デジタルを活用することにより、ヒト・モノ・カネ・情報・コミュニティ等の教育資源の制約を乗り越えるための制度の在り方（遠隔教育等）
 - これからの社会に求められる人材育成に向けて、就学前教育段階から中等教育段階まで切れ目ない教育を行うための制度の在り方（中高の連携の在り方等）
- ✓ 地域・産業界と連携した教育・人材育成の在り方



中央教育審議会「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会(第4回)」
堀田龍也部会長代理(東北大学大学院情報科学研究科教授、東京学芸大学大学院教育学研究科教授)の発言抜粋

- 我が国の学校教育の制度というのは非常に堅牢で、国とか任命権者とか設置者とかいろいろなところが、いろいろなことをきちんと安定的にやる仕組み、がっちりした仕組みがあるわけで、そのことと現在の社会の流動性、子供たちの多様性みたいなことが、いろいろなコンフリクトを起こしているんだと思います。
- これから、社会がもっと安定していくかという、ちょっと僕は微妙な気がしていて、そう考えると、ある意味、学校教育のこの堅牢な仕組みをどれだけ柔軟にできるかが大事なのかなと。そのこととデジタルは非常に大きく関係していると思います。例えば、教育内容を考えたときに、先ほどの神野委員の話で分かるように、ChatGPTのようなものが出てきたら、そのツールをどう使うかという話のレベルではなくて、そもそも今までの教育内容がこのままで良いのかというレベルの議論が必要になると思います。
- またさらに、この二つのワーキングの報告とCOCOLOプランにも書いてありますけれども、ICTとかオンライン、いっぱい書いてあって、一方で現実には、先生のパソコンは持ち出しはいけないとか、あとは、これはインターネットにアクセスできないとか、やたら制約が入っていて、インターネットとかが、ICTが入っているんだけれども、実は先生たちは働き方はあまり楽になっていないという現実があります。
- こういういろいろな制約、これをどうするかというのは、教師の働き方にとって大きな問題だと思いますし、例えば、先ほど富塚教育長がおっしゃいましたが、情報モラルも、そもそも情報活用能力の一部なので、適切な使い方、判断力、態度みたいなことが情報モラルという言葉の概念ですけれども、それを何かこう、携帯を使わせないみたいな禁止教育に使ってきた、そういうふうな制約として使ってきたという歴史があって、今ちょっといびつな形になっているんだと思います。そういう意味では、これからの学校の在り方を、我が国の良さとしての堅牢さをある程度残しつつも柔軟にして、それぞれの持ち場で判断できるような、様々なことを連携できるようなやり方を具体的にどうするかということを考えたときに、次の学習指導要領とか、それに向かっていく指導体制とか、教員養成の在り方とか、いろいろなところに大きなメスを入れるということが必要になるのではないかなと思います。



教育制度に係る主な論点

1. 教育内容の重点化

主なご意見

- 丹後学やSTEAMの取組がスポット的であり、学校教育に落とし込まれていない。どういう授業が必要なのかというのは、概念の方からカリキュラムに落とし込んでいく作業が必要になってくる。
- STEAM教育だけでカリキュラムを組めるわけではないというところがあるため、どのように重点化していくかということを考えることが重要である。
- 京丹後市の教育と人材育成に関わる問題意識について、具体的な取組例として、Kyotango Sea Laboがある。(中略)このプログラムを通じて京丹後市への興味、関心、思いが強くなっていることは興味深い。押し付けでなく、京丹後市に個別最適化したプログラム。課題としては、これを公教育を通じてインパクトを広めていくことができればと考えている。
- Sea Laboは親が声をかけた子どもや英語が好きな生徒が中心になっていたイメージ。学級のトップだけに向けたものではない。プログラム最後のプレゼンを聞いて地域の子どもたちの潜在力の高さを感じた。デザイン思考を学ぶことで普段にはないことから学ぶことの楽しさを学び、破壊的イノベーションに繋がる新しい発想が生まれることを体験する場。英語は一部のみ導入して、デザイン思考に重点化した公教育にということも考えられる。
- Scratch(コーディングのコミュニティサイト)のユーザーが日本で3倍に増えている。小学校でのプログラミング教育にも取り組んでいくことが重要である。
- 中学校のSTEAMのMESHの取組を、小学校6年生から導入してはどうか。中学校ではさらに高度な内容、高校ではPythonを使って統計をやるという話もある。小中学校で興味関心が高ければ、高校で勉強したいという状態で高校につなげることができる。
- 高校は出口の部分が大きな課題・使命としてある。生徒の希望する進路をどのように保証していくか。そこからカリキュラムを考えていかなければならないと感じている。中学校までの学びについて高校の理解が不足していると改めて感じている。小中の系統的な学びをどのようにつないでいくかという発想をもっとしていく必要がある。探究の時間について改善の余地があると感じている。

議論のポイント

- ✓ 地域が考える「これからの社会を生きる子供たちに必要な教育」(教育内容の重点化)とは何か。
- ✓ これからの社会を見据えたとき、学校現場では現在の教育課程をどのように考えるか。教育内容の重点化を図るための学校現場における課題は何か。

※主なご意見については、これまでの会議におけるものから抜粋



教育制度に係る主な論点

2. デジタルを活用した教育展開の在り方

主なご意見

- 地域以外の「資源」は限定的であり、地域内の「資源」は豊富であるが十分活用できていないとなっているが、それらの「資源」が具体的に何をさして、なぜ限定的で、十分活用できていないのか。また、それをICTの活用で解決できるのかを検討するとよいのではないか。
- 地理的な制約をオンラインとのハイブリッドや、ある種学びの市町間で遠隔地同士の連携ができないか。
- 義務教育なので、全ての子どもたちに等しく機会を提供してあげたい。今回教えていただいた良い取組を、初めは遠隔で様子を見ているだけでも次回はオンサイトで参加するなど、面で展開できるように端末を上手に活用できればと思う。

議論のポイント

- ✓ これまで学校現場においてできなかったことが、デジタルの活用によりできるようになることは何か。デジタルを活用した教育の質の向上や機会均等の実現をどのように図るか。
- ✓ 本市のような地理的背景を前提とする中で、遠隔教育に係る特例制度の活用をどのように考えるか。
 - 臨時免許状や特別免許状の活用による外部人材を活用した発展的な授業の実施
 - 免許外教科担任を発令している場合において、免許を有する者による授業の実施

※主なご意見については、これまでの会議におけるものから抜粋



教育制度に係る主な論点

3. 中高の連携の在り方

主なご意見

- 学校の設置者ごとにまる抱えでやらないといけない一方で、シームレスのシームの部分ブレイクスルーするようなやり方の発案を期待する。
- 進路とともに教育内容をどのようにしていくかという点が重要である。制度でそれをどのようにつないでいけるかということを考えていくことが必要である。
- 高校が義務教育の取組の流れをしっかりと受け止めていくことが重要である。
- 高校は出口の部分が大きな課題・使命としてある。生徒の希望する進路をどのように保証していくか。そこからカリキュラムを考えていかなければならないと感じている。中学校までの学びについて高校の理解が不足していると改めて感じている。小中の系統的な学びをどのようにつないでいくかという発想をもっとしていく必要がある。探究の時間について改善の余地があると感じている。【再掲】
- 高校の専門科が結構あるため、小中学生の巻き込み先として高校の専門科が連携しやすいのではないかと感じる。また、グローバルやデザイン思考等のプログラムで育まれているので、連携できることが多々あるのではないかと感じる。
- 中学校のSTEAMのMESHの取組を、小学校6年生から導入してはどうか。中学校ではさらに高度な内容、高校ではPythonを使って統計をやるという話もある。小中学校で興味関心が高ければ、高校で勉強したいという状態で高校につなげることができる。【再掲】
- 地域資源のことも知っているし、現場の声を聴き柔軟で機動的に取り組むやすいのは、都道府県よりも市町村である。都道府県と市町村のそれぞれの強みをハイブリッドで組み合わせた学校運営の形態というところをもっと柔軟に活用していくのはこれからの1つの在り方ではないか。都道府県立の学校で、運営の一部を市町村が運営していく、寮の部分を運営するとか、もしくは学校の運営自体を市町村がやるとか、新しい時代の学校の在り方を考えながら、議論することが大切である。

議論のポイント

- ✓ 地域における高等学校の位置づけはどのようなものか。どのような人材の育成を期待するか。
- ✓ 小中学校と高等学校の設置者が異なる中で、教育の連続性と一貫性を担保していくためには、具体的にどのような取組が求められるか。制度的な課題は何か。

※主なご意見については、これまでの会議におけるものから抜粋



授業時数特例校制度

制度概要

- 義務教育段階において、学年ごとに定められた各教科等の授業時数について、**総枠としての授業時数**(学年ごとの年間の標準授業時数の総授業時数)は維持した上で、**1割を上限として各教科(※1)の標準授業時数を下回った教育課程の編成を特例的に認める制度**
- 下回ったことによって生じた授業時数を**別の教科等の授業時数に上乗せ**することで、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成(※2)や探究的な学習活動の充実に資する教育課程編成の一層の推進を図る。
(※1)音楽(中学校第2,3学年)、美術(中学校第2,3学年)、技術・家庭、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動を除く。
(※2)学習の基盤となる資質・能力(言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等)の育成や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成(伝統文化教育、主権者教育、消費者教育、法教育、知的財産教育、郷土・地域教育、海洋教育、環境教育、放射線教育、生命の尊重に関する教育、健康教育、食育、安全教育の充実など)が考えられる。
- 令和3年7月に制度創設し、令和4年4月から実施。**

イメージ

【標準授業時数】

教科A	教科等B	その他の教科等
1割を上限として標準授業時数を下回った教育課程の編成を認める	時数の上乗せにより、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成に資する学習や探究的な学習活動を充実	
教科A	教科等B	その他の教科等
総枠(学年の年間標準授業時数の総授業時数)は維持		

【授業時数特例校の活用】

学校の指定(学校教育法施行規則第55条の2、平成20年文部科学省告示第30号)

文部科学大臣が、以下の要件等を満たす学校を指定する。

(指定の要件)

- 学習指導要領の内容事項が適切に取り扱われていること
- 各学年の年間の標準授業時数の総授業時数が確保されていること
- 児童生徒の発達の段階、各教科等の特性に応じた内容の系統性・体系的に配慮がなされていること。
- 保護者の経済的負担など、義務教育の機会均等の観点から適切な配慮がなされていること。
- 児童生徒の転出入など、教育上必要な配慮がなされていること。

今後の予定

授業時数特例校制度の運用状況を把握し、検証する観点から、文部科学省において、必要に応じて調査等を行う。

指定の状況(令和4年4月現在)

・指定されている管理機関数: 18件、指定されている学校数: 28校

【主な取組内容】

- 埼玉県戸田市(中学校): 問題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等の育成のため、総合的な学習の時間の授業時数を増加。
- 京都府京都市(義務教育学校): 伝統文化教育等の充実のため、音楽科の授業時数を増加。
- 宮崎県宮崎市(中学校): 環境教育、食育、STEAM教育等の充実のため、総合的な学習の時間の授業時数を増加。
- 私立星美学園(小学校): 国際的・平和的な世界の担い手教育の充実等のため、国語科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間等の授業時数を増加。

(出典)文部科学省



教育課程特例校制度

教育課程特例校とは

文部科学大臣が、学校教育法施行規則第55条の2等に基づき指定する学校において、学校又は地域の実態に照らし、より効果的な教育を実施するための特別の教育課程を編成することを認める制度。 ※予算措置なし

指定の要件

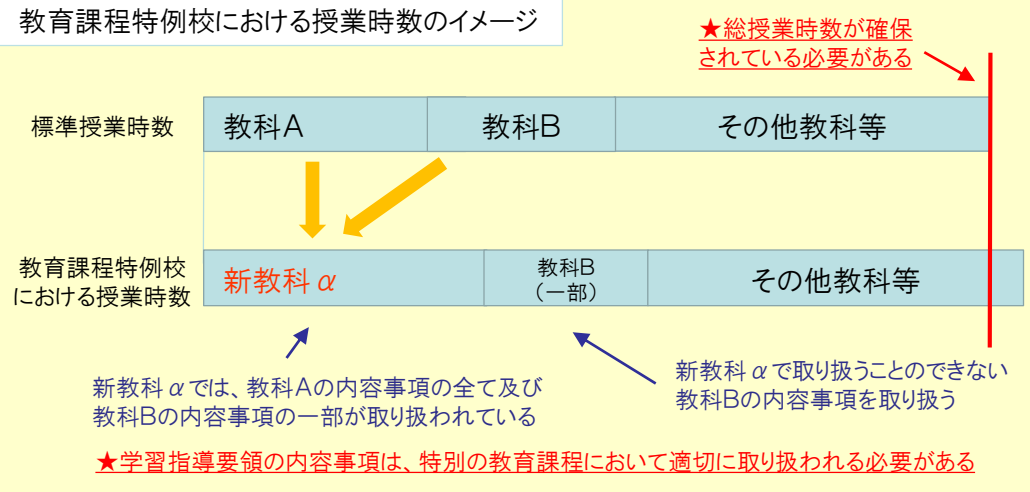
- 学習指導要領等において全ての児童又は生徒に履修させる内容として定められている内容事項が、特別の教育課程において適切に取り扱われていること。
- 総授業時数が確保されていること。
- 児童又は生徒の発達の段階並びに各教科等の特性に応じた内容の系統性及び体系性に配慮がなされていること。
- 保護者への経済的負担への配慮その他の義務教育における機会均等の観点から適切な配慮がなされていること。
- 児童又は生徒の転出入に対する配慮等の教育上必要な配慮がなされていること。

指定の状況（令和4年4月現在）

- 指定されている管理機関数 211件
- 指定されている学校数 1,823校

【主な取組内容】

- ・学校や地域の実態に照らした新教科等の設定
(例)北海道羅臼町:理科、生活科、総合的な学習の時間等を削減し、新教科「知床学」を設定
(例)大阪教育大学附属池田小学校:社会科、特別活動、総合的な学習の時間を削減し、新教科「安全科」を設定
- ・既存教科を英語で実施(イマージョン教育)
(例)私立西大和学園中学校・高等学校:音楽・体育の一部を英語で実施
- ・学校段階間の連携による教育
(例)東京都立川市:社会科や総合的な学習の時間等を削減し設定した新教科「立川市民科」により、小・中学校が連携した学習活動を実施



(出典)文部科学省



遠隔特例校制度

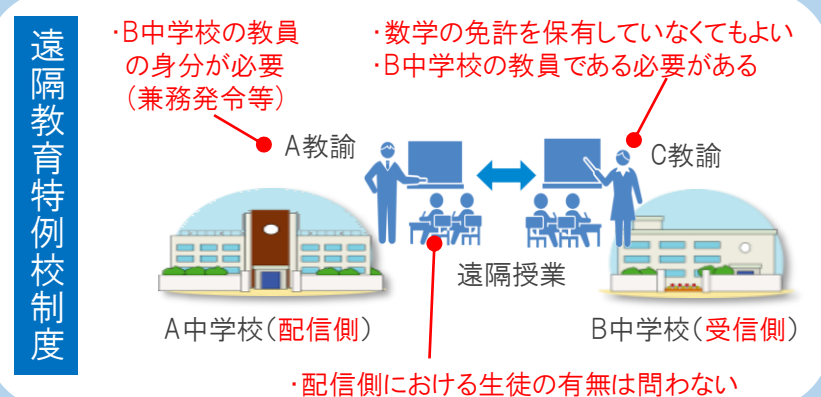
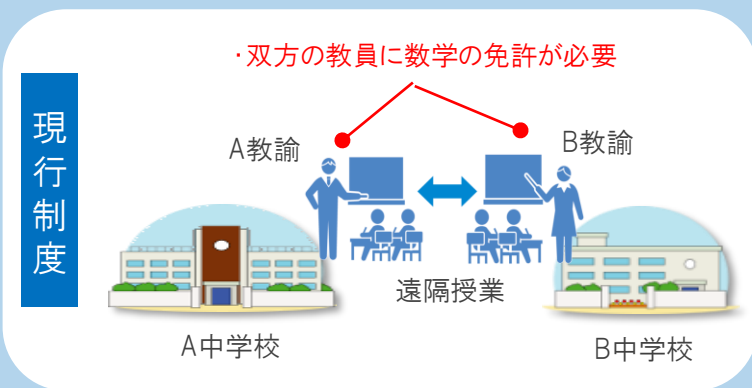
◆ 令和元年8月21日に、遠隔教育特例校制度に係る省令・告示を公布、施行

- ・ 学校教育法施行規則の一部を改正する省令(令和元年文部科学省令第12号)
- ・ 「学校教育法施行規則第77条の2の規定に基づき、授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる場合を定める件」(令和元年文部科学省告示第56号)

遠隔教育特例校とは

- ◆ 授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる学校
(受信側の教員が当該教科の免許状を有していない状況でも履修が可能)

※数学を例とした場合



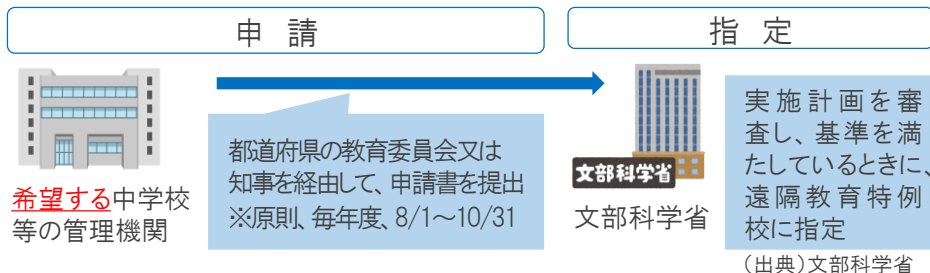
対象となる学校種

- ・ 中学校
- ・ 義務教育学校後期課程
- ・ 中等教育学校前期課程
- ・ 特別支援学校中学部

要件

中学校等において、地域の実態に照らし、より効果的な教育を実施するために必要がある場合であって、生徒の教育上適切な配慮がなされているものとして文部科学大臣が定める基準を満たしていると認められる場合

指定までの流れ



中高の連携の在り方 -第2回準備会 岩本委員発表資料より抜粋-

- 広域での管理や連絡調整ができる都道府県の強みと、より生徒・保護者・学校・地域に近く、現場の声を聴きながら柔軟で機動的に取り組みやすい(地域資源も熟知している)市町村の双方の強みを活かした協働的で個別最適な学校経営を可能とすべき。市町村に運営委託をする事務を特定した上で、地方自治法252条の14に基づく「事務の委託」をすることにより、都道府県立・市町村営学校は、現行制度の枠内で実現可能と考えられる。
- 当該高校における教職員は、基本的には都道府県任用教職員が中心となることが想定されるが、市町村等による管理職や一部教職員・コーディネーター等の任用や、市町村立小中学校の教職員、社会教育・福祉機関等の職員の兼務・兼業等による活用も考えられる。

都道府県

(設置主体としての強み・期待される役割例)

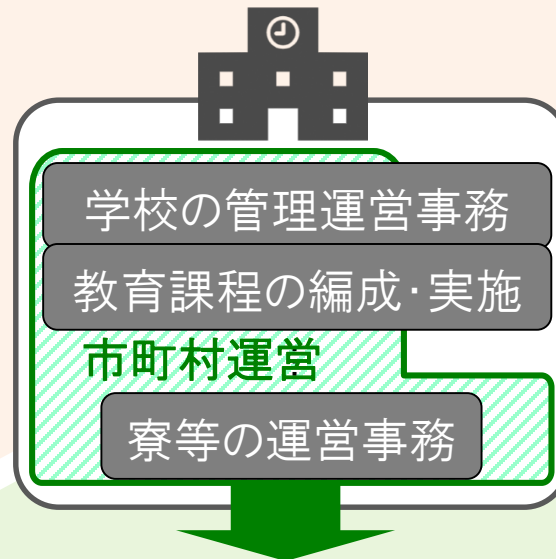
広域人事による教員の採用・配置

高校間連携・遠隔教育の推進

高校教育の専門知を活かした伴走

長期・安定的な財源・条件整備

都道府県立高校



市町村に事務委託することで
地域資源のフル活用を図る

地域社会の多様な人材の任用・活用

小中高連携・学社協働の推進

分野横断の総合知を活かした教育

機動的で柔軟な学校運営



「令和4年度魅力ある府立高校づくり懇話会の主な意見まとめについて」

(令和5年6月8日 京都府教育庁高校改革推進室)

1. 地域資源を織り込んだSociety5.0に対応する教育内容

- 変化の激しい現代社会においては「主体的に生きるための総合力」を身につけることが必要である。これからの普通科では、大学ではできないような自由な学びの体験や、生徒が自分の人生に関わる初めての選択をするための3年間といった考え方がより大切である。
- 高校段階で本格的に将来の選択をする生徒たちを、しっかりと伸ばして社会につなげていくことが重要である。課題研究などにおいて、1つのものを突き詰めることや、社会に目を開かせ、実社会とのつながりを意識して高校段階から様々な経験を積ませることが重要である。
- 高校段階の職業教育、キャリア教育に求められる役割は、生徒がトライアンドエラーを経験して自分の適性を具体的に見つけられるようにしていくことである。地域産業との連携を通して、将来を見据えたキャリア教育を行うことで、生徒自身がキャリアデザインを進め、卒業後の具体的な進学や就職につなげていくことが重要である。
- 大学生の様子を見ると、専門学科出身の生徒が大学での学びにおいてよく伸びているように感じる。吸収力の高さや、現場感のようなものを大切にできる感性を学びに活かしている。
- 普通科を魅力化していく視点として、進学指導、国際教育、ICT教育、キャリア教育などの様々な要素が考えられる。
- 本格的な普通科の特色を進めるには、キャリア教育を軸とした視点が必要である。
- PBL、探究学習、STEAM教育やDXなど、社会とのつながりを追究する視点において最先端を行くのが職業学科である。

※内容については本市の検討会のテーマに応じて抜粋・整理



参考 - 高等学校の在り方に係る京都府の動き -

「令和4年度魅力ある府立高校づくり懇話会の主な意見まとめについて」

(令和5年6月8日 京都府教育庁高校改革推進室)

2. 教育効果と地域の付加価値を最大化するシームレスな制度の在り方

- 少子化が顕著な北部地域では、府内留学も検討できるのではないかな。農業や水産業等は、衰退させてはいけない産業分野であり、重要な学びの要素も多くある。生徒間交流による教育的な効果も期待でき、寮の整備なども含めて検討できるのではないかな。
- 北部地域では、交通利便性の課題や学校間が離れているなどの事情がある。多様な学びができる程度の学校規模がないと、子どもたちが求める学びが保障できないことになる。小規模な学校だけが点在することになれば、高校教育としての教育効果も上がらなくなってしまう。人口減少をチャンスに変える発想で府立高校の再編をしていくことも必要ではないかな。
- 学校数が少ない北部地域では、1つの学校において普通科の中に複数の特色を持たせて、複数の役割を担うことで、様々なニーズに応えていくことが重要である。
- 一部の市町では、地域コーディネーターを当該市町内に所在する府立高校に配置している例がある。地域の資源を活用して、高校生の意識の変化や気づきを促し、高校と地域社会の架け橋としての役割を担っており、その取組は非常に有効である。

3. 地域・産業界と連携した教育・人材育成の在り方

- 教育活動において、地域との連携は大事な要素の1つである。普通科において、地域の担い手育成につながるようなキャリア教育や、地域資源を生かした探究的な学びの視点を取り入れることも考えられる。
- 職業訓練的な学びではなく、大学や産業界の研究とも連携した価値を創造する学びの視点で、実社会で求められる実践的な能力を育てていく視点が必要である。
- 地域における教育の核としての役割を高校が果たしていく中で、普通科の特色が生まれることもある。地域との連携をして小・中学校での学びを深めていくような特色の在り方も考えられる。

※内容については本市の検討会のテーマに応じて抜粋・整理

